

# 2019 授業科目〈シラバス〉

Okinawa Prefectural University of Arts Syllabus

沖縄県立芸術大学  
美術工芸学部

## 授業科目〈シラバス〉について

この「2019授業科目〈シラバス〉」は、平成31年度に美術工芸学部で開講される専門教育科目について、各担当教員から提出された授業計画（シラバス）をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、総合教育科目、共通教育科目及び教職に関する科目は別冊となっています。

1. 実技の授業科目は、その多くが複数の実習（課題）で構成されています。この場合、授業科目の頁のあとに実習（課題）ごとのシラバスが記載されていることがあります。
2. 今年度開講する科目のみを掲載しています。
3. 集中講義科目については、単位数・学期欄に（集中）と表記されています。
4. 担当教員名欄の（名）は名誉教授を、（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
5. ■履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、授業外の学習を含めて履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。
6. その他、本学の授業科目には科目名の末尾に番号等が付されているものがあります。これらは、科目開設の趣旨や性格、また分類上のルールがありますので、入学時に配布された履修案内等を確認してください。

# 平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁	
絵画	必修主要	21110	絵画基礎	5	1	前	実技	1	
		21112	日本画Ⅰ	6	1	後	実技	7	
		21113	箔	2	1	後	演習	12	
		21213	日本画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	13	
		21214	日本画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	15	
		21121	油画Ⅰ	7	1	後	実技	21	
		21223	油画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	25	
		21224	油画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	29	
		21231	絵画特論Ⅰ	2	1	通年	講義	42	
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43	
		21291	古美術研究	4	2	後期	演習	44	
		必修専攻 専門関連	21132	彫刻(絵)	2	1	前	演習	45
			21133	デザイン(絵)	2	1	前	演習	46
			21209	工芸(絵)	2	2	前	演習	47
彫刻	必修主要	22110	デッサン	1	1	前	実技	48	
		22113	彫刻Ⅰ－Ⅰ	5	1	前	実技	49	
		22114	彫刻Ⅰ－Ⅱ	7	1	後	実技	53	
		22213	彫刻Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	56	
		22214	彫刻Ⅱ－Ⅱ	6	2	後	実技	59	
		22215	構成	1	2	後	実技	62	
		22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69	
	必修専攻 専門関連	22121	絵画(彫)	2	1	前	演習	72	
		22209	デザイン(彫)	2	2	前	演習	73	
		22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75	
選択専攻 専門関連	22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講		
芸術学	必修主要	23110	素描(芸)	2	1	前	演習	76	
		23114	実技研究(絵画)	3	1	後	実技	78	
		23115	実技研究(表現)	2	1	後	実技	81	
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84	
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85	
	必修専攻 専門関連	23151	絵画(芸)	2	1	前	演習	87	
		23152	彫刻(芸)	2	1	前	演習	88	
		23153	デザイン(芸)	2	1	前	演習	89	
		23154	工芸(芸)	2	1	前	演習	90	
	選択主要	23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100	
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102	
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103	
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104	
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105	
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講	
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106	
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107	
		23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108	
		23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109	
選択専攻 専門関連	23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110		
	23441	西洋美術史特講	2	2～4	前	講義	111		
	23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112		
	23330	絵画演習A	2	2～3	前	演習	281		
23331	絵画演習B	2	2～3	後	演習	282			
23261	彫刻演習A	2	2～3	前	演習	284			
23262	彫刻演習B	2	2～3	後	演習	285			
23334	デザイン演習A	2	2～3	前	演習	287			
23335	デザイン演習B	2	2～3	後	演習	288			
23336	工芸演習A	2	2～3	前	演習	290			
23337	工芸演習B	2	2～3	後	演習	291			

## 平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
デザイン	必修主要	24112	デザインⅠ	3	1	前	実技	113	
		24113	木工芸基礎	2	1	後	演習	116	
		24114	立体造形(デ)	2	1	後	演習	117	
		24115	素描(デ)	1	1	後	実技	118	
		24116	色彩構成	2	1	後	演習	119	
		24117	空間構成	2	1	後	演習	120	
		24223	デザインⅡ-I	7	2	前	実技	121	
		24224	デザインⅡ-II	7	2	後	実技	127	
	必修専攻 専門関連	24121	絵画(デ)	2	1	前	演習	147	
		24123	彫刻(デ)	2	1	前	演習	148	
		24124	工芸(デ)	2	1	前	演習	149	
	選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1~4	前	講義	308	
		24133	日本建築史	2	1~4	後	講義	309	
		24153	クラフトデザイン計画	2	1~4	後	講義	310	
		24161	プロダクトデザイン論	2	1~4	後	講義	311	
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1~4	前	講義	312	
		24171	視覚伝達論A	2	1~4	前	演習	313	
		24172	視覚伝達論B	2	1~4	後	演習	314	
		24181	環境造形論	2	1~4	前	講義	315	
		24184	人間工学	2	1~4	後	講義	327	
		24251	図学	2	1~4	前	演習	316	
	工芸	必修主要	25112	描写	1	1	前	実技	150
			25113	色彩	1	1	前	実技	151
			25114	立体構成	1	1	前	実技	152
25101			工芸Ⅰ	7	1	後	実技	153	
25209			工芸Ⅱ	5	2	前	実技	158	
25261			立体造形(工)	1	2	前	実技	164	
25262			版画	1	2	前	実技	165	
25221			染Ⅰ	7	2	後	実技	167	
25231			織Ⅰ	7	2	後	実技	185	
25232			繊維科学	2	2	後	講義	206	
25222			染色化学	2	2	後	講義	207	
25211			陶芸Ⅰ	7	2	後	実技	209	
25212			窯業化学	2	2	後	講義	226	
25241			漆芸Ⅰ	7	2	後	実技	228	
25242		漆芸科学	2	2	後	講義	249		
必修専攻 専門関連		25102	絵画(工)	2	1	前	演習	251	
		25103	彫刻(工)	2	1	前	演習	252	
		25104	デザイン(工)	2	1	前	演習	253	
選択専攻 専門関連		25131	陶磁史	2	1~4	前	講義	318	
		25132	染織工芸史	2	1~4	前	講義	319	
	25151	生活造形論	2	1~4	後	講義	320		
	25152	装飾論	2	1~4	後	講義	321		
	25171	漆芸論	2	1~4	後	講義	322		
25177	色彩論	2	1~4	前	講義	326			

# 平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24163	図法及び製図A	2	1～4	前	演習	330
		24164	図法及び製図B	2	1～4	後	演習	331
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320		
25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321		
25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322		
25177	色彩論	2	1～4	前	講義	326		
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

## 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁		
絵 画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18		
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32		
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43		
		21291	古美術研究	4	2	後	演習	44		
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	255		
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256		
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257		
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258		
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259		
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前	講義	260		
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261		
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262		
		21439	装飾概論A	2	1～4	後	講義	263		
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264		
		彫 刻	必修主要	22112	彫刻ⅠB	7	1	後	実技	—
				22212	彫刻Ⅱ	13	2	通年	実技	—
				22312	彫刻Ⅲ	13	3	通年	実技	63
				22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69
				22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
				22291	古美術研究	4	2	後	演習	71
専攻専門 関連	22207		デザインB	2	2	前	演習	—		
	22208		工芸B	2	3	前	演習	74		
選択専攻 専門関連	22132		美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75		
	22133		美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講		
	22421		西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265		
	22422		日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266		
	22423		クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後	講義	267		
	22424		プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268		
	22425		環境造形概論	2	1～4	前	講義	269		
	22426		陶磁史概説B	2	1～4	前	講義	270		
	22427		染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271		
	22428		生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272		
	22429		装飾概論B	2	1～4	後	講義	273		
	22430		漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274		
芸 術 学	必修主要	23112	実技研究	5	1	後	実技	77		
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84		
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85		
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91		
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91		
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92		
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93		
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94		
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95		
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96		
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96		
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97		
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97		
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98		
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100		
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102		
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103		
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104		
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105		
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講		
23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106				
23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107				
23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108				

# 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁		
芸術学	選択主要	23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109		
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110		
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	111		
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112		
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293		
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294		
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講		
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295		
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296		
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297		
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298		
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299		
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300		
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301		
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302		
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303		
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304		
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305		
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274		
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	277		
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286		
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289		
		23443	陶磁史概説 C	2	1～4	前	講義	275		
		23444	染織工芸史概説 C	2	1～4	前	講義	276		
		23445	生活造形概論 C	2	1～4	後	講義	277		
		23446	装飾概論 C	2	1～4	後	講義	278		
		23447	漆芸概論 C	2	1～4	後	講義	279		
		デザイン	必修主要	24341	デザインⅢ A	7	3	前	実技	133
				24342	デザインⅢ B	7	3	後	実技	139
				24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
				24391	学外研究	4	3	後	演習	146
			選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
24133	日本建築史			2	1～4	後	講義	309		
24153	クラフトデザイン計画			2	1～4	後	講義	310		
24161	プロダクトデザイン論			2	1～4	後	講義	311		
24162	ビジュアルデザイン論			2	1～4	前	講義	312		
24171	視覚伝達論 A			2	1～4	前	演習	313		
24172	視覚伝達論 B			2	1～4	後	演習	314		
24181	環境造形論			2	1～4	後	講義	325		
24182	色彩論			2	1～4	前	講義	326		
24184	人間工学			2	1～4	後	講義	327		
24251	図学			2	1～4	前	演習	316		
24252	CG基礎			2	2～4	後	演習	317		
選択共通 専門関連	25131			陶磁史	2	1～4	前	講義	318	
	25132			染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
	25151			生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
	25152			装飾論	2	1～4	後	講義	321	
	25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322			

# 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173	
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190	
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	208	
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214	
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227	
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235	
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250	
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318	
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321	
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328	
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322	
		25172	絵画史概説	2	1～4	後	講義	323	
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講	
		25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324	
		25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325	
	25176	沖縄美術工芸史概説	2	1～2	後	講義	休講		
	全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
			22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
			22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
			23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
			23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
			23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
			23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
23137			工芸史	2	1～4	前	講義	296	
23138			絵画史	2	1～4	後	講義	297	
23141			書道史	2	1～4	前	講義	298	
23142			現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299	
23143			現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300	
23145			一般芸術学	2	1～4	前	講義	301	
23146			日本美術史	2	1～4	前	講義	302	
23147			東洋美術史	2	1～4	後	講義	303	
23148			西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304	
23149			西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305	
24132			西洋建築史	2	1～4	後	講義	308	
24133			日本建築史	2	1～4	後	講義	309	
24153			クラフトデザイン計画	2	1～4	前	講義	310	
24161			プロダクトデザイン論	2	1～4	前	演習	311	
24162			ビジュアルデザイン論	2	1～4	後	演習	312	
24171			視覚伝達論A	2	1～4	前	講義	313	
24172			視覚伝達論B	2	1～4	前	講義	314	
24181			環境造形論	2	1～4	後	講義	315	
24182			色彩論	2	1～4	前	演習	326	
24184			人間工学	2	2～4	後	演習	327	
24251			図学	4	1～4	通年	演習	316	
24252	CG基礎	2	1～4	後	演習	317			
25162	図法及び製図	2	2～4	後	演習	328			
自由科目	21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335		
	24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336		

# 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18
		21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	256
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前(集中)	講義	260
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262
		21439	装飾概論A	2	1～4	後(集中)	講義	263
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264
彫刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
		22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後(集中)	講義	267
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	269
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前(集中)	講義	270
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272
		22429	装飾概論B	2	1～4	後(集中)	講義	273
22430	漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274		
芸術学	必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習	86
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	通年	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	通年	講義	108
	23440	東洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	109	
	23228	日本美術史特講	2	2～4	通年	講義	110	
	23441	西洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	111	
	23227	比較芸術学特講	2	2～4	通年	講義	112	
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297

# 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁
芸 術 学	選択専攻 専門関連	23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289
		23443	陶磁史概説C	2	1～4	前	講義	275
		23444	染織工芸史概説C	2	1～4	前	講義	276
		23445	生活造形概論C	2	1～4	後	講義	277
		23446	装飾概論C	2	1～4	後(集中)	講義	278
		23447	漆芸概論C	2	1～4	後	講義	279
23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98		
デ ザ イ ン	必修主要	24341	デザインⅢA	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢB	7	3	後	実技	139
		24431	デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
		24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
	選択専攻 専門関連	24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
	24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317	
	選択共通 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
25132		染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
25151		生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
25152		装飾論	2	1～4	後	講義	321	
25171		漆芸論	2	1～4	後	講義	322	
工 芸	必修主要	25433	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25434	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25222	染色化学	2	2	後	講義	207
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25442	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250
	25391	古美術研究	4	3	後	演習	166	
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
25172		絵画史概説	2	1～4	通年	講義	323	
25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講		
25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324		
25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325		

## 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327		
24251	図学	2	1～4	前	演習	316		
24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317		
25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328		
自由科目	デザイン	24203	絵画C	3	2～4	通年	演習	334
		24204	彫刻C	4	2～4	前	演習	334
		24205	工芸D	4	2～4	通年	演習	334
	彫刻	22203	絵画A	3	2～4	通年	演習	334
		22204	デザインB	3	1～4	通年	演習	334
		22205	工芸B	4	2～4	通年	演習	334
	工芸	25203	絵画D	3	2～4	通年	演習	334
		25204	彫刻D	4	2～4	前	演習	334
		25205	デザインD	3	1～4	通年	演習	334
	芸術学	23101	絵画B	3	2～4	通年	演習	334
		23102	彫刻B	4	2～4	前	演習	334
		23103	デザインC	3	1～4	通年	演習	334
		23104	工芸C	4	2～4	通年	演習	334
	絵画	21203	彫刻A	4	2～4	前	演習	334
		21204	デザインA	3	1～4	通年	演習	334
21205		工芸A	4	2～4	通年	演習	334	
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

# 平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁	
絵画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20	
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39	
彫刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63	
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68	
芸術学	必修主要	23228	日本美術史特講	2	2～4	前	講義	111	
		23411	卒業論文	5	4	前年	演習	86	
		23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91	
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91	
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93	
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94	
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95	
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96	
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97	
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102	
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104	
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105	
	23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106		
	23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107		
	選択 専門関連	23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	280	
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283	
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286	
	デザイン	必修主要	24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
			24341	デザインⅢA	7	3	前	実技	133
24342			デザインⅢB	7	3	後	実技	139	
24391			学外研究	4	3	後	演習	146	
24431			デザインⅣ	15	4	通年	実技	144	
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173	
		25421	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182	
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190	
		25431	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202	
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	206	
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249	
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214	
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223	
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227	
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235	
		25441	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246	
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208	
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	166	
全専攻共通	選択 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75	
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講	
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292	
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293	
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294	
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295	
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296	
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297	
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298	
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299	
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300	
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306	
		24153	クラフトデザイン計画	2	2～4	後	講義	310	
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311	
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312	
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313	
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314	
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315	
		24182	色彩論	2	1～4	後	講義	326	
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327	

## 平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻 共通	選択 専門関連	24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305		
自由科目		21201	絵画	3	2～4	通年	演習	333
		22201	彫刻	4	2～4	前	演習	333
		24201	デザイン	3	1～4	通年	演習	333
		25201	工芸	4	2～4	通年	演習	333
		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

# 実務経験のある教員による授業科目（実践的教育を行う授業）

対象専攻等	区分	授業科目名	単位数	授業区分	教員名	職	担当形態	実務経験等	掲載頁		
学部	選択科目 共通専門 関連科目	ビジュアルデザイン概論 ビジュアルデザイン論	2	講義	笹原浩造	准教授	単独	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	257 312		
		視覚伝達概論A 視覚伝達論A（印刷）	2	演習	赤嶺雅	教授	単独	グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	258 313		
		視覚伝達概論B 視覚伝達論B（映像）	2	演習	仲本賢	教授	単独	映像作家	259 314		
		環境造形概論 環境造形論	2	講義	宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	269 315		
		日本美術史	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	302		
		西洋美術史B	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	305		
		CG基礎	2	演習	真喜志康一	非常勤講師	単独	デザイン事務所経営	317		
絵画専攻	必修科目 主要科目	日本画Ⅳ	15	実技	平山英樹	教授	複数	日本画家	20		
					香川亮	准教授		画家			
					関谷理	講師		日本画家			
		油画Ⅳ	15	実技	田中睦治	教授	複数	美術家	39～41		
					知花均	教授		版画家			
					高崎賀朗	准教授		画家			
彫刻専攻	必修科目 主要科目	彫刻Ⅳ	15	実技	波多野泉	教授	複数	彫刻家	68		
					砂川泰彦	教授		彫刻家			
					河原圭佑	講師		彫刻家			
					長尾恵那	講師		彫刻家			
		彫刻特論Ⅱ	2	講義	波多野泉	教授	オムニバス	彫刻家	70		
					砂川泰彦	教授		彫刻家			
					河原圭佑	講師		彫刻家			
芸術学専攻	選択科目 主要科目	芸術学演習Ⅰ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	92		
		芸術学演習Ⅱ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	93		
		日本美術史演習Ⅰ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	94		
		日本美術史演習Ⅱ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	95		
		芸術学特講	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	108		
		日本美術史特講	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	110		
デザイン専攻	必修科目 主要科目	デザインⅢA	7	実技	笹原浩造	准教授	複数	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	133 134		
					高田浩樹	准教授		単独		デザイン事務所主宰	133 135
					又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家	133 136		
					宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	133 137		
					座波嘉克	教授	複数	プロダクトデザイナー	133 138		
					(インターンシップ)			複数	インターンシップA・B	133	
					デザインⅢB	7	実技	又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家
		高田浩樹	准教授	単独				デザイン事務所主宰	133 141		
		仲本賢	教授	複数				映像作家	139 142		
		又吉浩	准教授					映像作家			
		赤嶺雅	教授	複数				グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	139 143		
		(インターンシップ)						複数		インターンシップC・D	139
		工芸専攻	必修科目 主要科目	染Ⅲ				15	実技	渡名喜はるみ	教授
					名護朝和	教授	染色家				
織Ⅲ	15			実技	真栄城興茂	教授	複数	染織家、織工房主宰	202 205		
					花城美弥子	准教授		染織家			
陶芸Ⅲ	15			実技	山田聡	教授	複数	陶芸家	223		
					島袋克史	講師		陶芸家			
漆芸Ⅲ	15			実技	糸数政次	教授	複数	漆芸家、県工芸振興センター勤務 （1990～2013年）	246～248		
					水上修	教授		漆芸家			
		當眞茂	准教授		漆芸家						

專門教育科目

專門関連科目

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21431	西洋建築史概説A	2単位 前期	1～4	講義	金城 優 (非)

※ 絵画専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

## ■テーマ

西洋の建築造形を通して、歴史・文化・風土を学ぶ。

## ■授業概要

様々な歴史的建造物の造形は地域、時代により多様な展開をみせる。それらは如何に独創的で斬新な建築表現であっても、各地域、時代の要請を反映したデザイン表現が含まれているはずである。本講義は、西洋の建築造形を通して、建築造形の変遷に地域風土、文化、技術、材料など様々な背景が関わっていることを解説するものである。

## ■到達目標

建築造形の多様性のみならず、それらが歴史的に変遷してゆく過程を理解し、自らの専門領域との関係性を学ぶことが目的である。

## ■授業計画・方法

- 1: 西洋建築史の概要、なぜ建築史を学ぶか
- 2: 古典建築（ギリシャ、ローマとエーゲ海建築）
- 3: ビザンチン建築（東ローマ帝国がもたらせた様式）アヤソフィア
- 4: ロマネスク建築、11から13世紀の西ヨーロッパ建築様式
- 5: ゴシック建築、12世紀後半から16世紀 ばら窓 カテドラル
- 6: ルネッサンス建築、14世紀から16世紀 イタリア・フィレンツェ
- 7: バロックおよび新古典主義建築 16世紀から18世紀
- 8: 19世紀20世紀、ロンドン万博、アールヌーボー、新大陸アメリカ
- 9: 近代建築運動モダニズム、バウハウス
- 10: アントニオ・ガウディ
- 11: コルビジエ、アールト
- 12: モダニズムからポストモダン
- 13: フランク・ロイドライト
- 14: 地域主義
- 15: 現代環境都市とサステイナブル・シティ 定期試験は実施しない。

## ■履修上の留意点

本授業は、各地域、時代の意匠的背景はもとより歴史・文化的脈絡の理解が特に重要であり、継続的な学習が必要である。授業方法等については初回に説明する。

理解のためにできる限り視覚教材および関連歴史資料を使用する。理解度を高めるために、毎回受講ノートの作成を課す。

## ■成績評価の方法・基準

□方法：授業態度及び受講ノートによる理解度を評価対象とする。受講ノート70%、平常点30%

□基準：到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

- ・具体的には以下の点を評価基準として成績評価を行う。
- ・質問など授業で積極的な参加をしたか。
- ・前向きに理解しようとする姿勢を示したか。

## ■教科書・参考文献（資料）等

### □参考文献

西洋建築史図集 改訂新版 日本建築学会編 彰国社刊 昭和50年

大図説世界の建築 Great Architect of the World 編集主幹：ジョン・ジュリアス・ノリッジ  
小学館刊 昭和52年

西洋建築様式史 執筆：熊倉洋介・末永航・羽生修二・星和彦・堀内正昭・渡辺道治 美術出版社刊 2010年  
建築をめざして (SD選書 21) ル・コルビュジエ (著), 吉阪 隆正 (翻訳) 1967年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21432	日本建築史概説A	2単位 後期	1～4	講義	未定

※ 絵画専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

日本の建築造形を通して、歴史・文化・風土を学ぶ。

### ■授業概要

様々な歴史的建造物の造形は地域、時代により多様な展開をみせる。それらは如何に独創的で斬新な建築表現であっても、各地域、時代の要請を反映したデザイン表現が含まれているはずである。本講義は、日本の建築造形を通して、建築造形の変遷に地域風土、文化、技術、材料など様々な背景が関わっていることを解説するものである。

### ■到達目標

建築造形の多様性のみならず、それらが歴史的に変遷してゆく過程を理解し、自らの専門領域との関係性を学ぶことが目的である。

### ■授業計画・方法

- 1: 日本建築とは／日本建築の歴史的変遷と特徴／気候・風土、木の文化
- 2: 「琉球建築」とは／沖縄における建築の歴史的変遷と特徴／気候・風土、歴史
- 3: 神社建築／神社建築の様式、構造／神道、境内、社殿
- 4: 寺院建築／寺院建築の様式、構造／伽藍、塔、組物、装飾
- 5: 寝殿造／寝殿造の様式、構造／襖、畳、装束
- 6: 書院造／書院造の背景と意匠／床の間、違い棚、帳台構、装飾
- 7: 数寄屋造の意匠／数寄屋建築の背景／柱、天井、装飾
- 8: 茶室／茶室の成り立ちとその特徴／わび、さび、空間、素材
- 9: 城郭建築／城郭建築の意匠と構造／縄張り、郭、天守
- 10: 「琉球建築」の研究／廃藩置県後の調査・研究経緯／建築史家、古写真
- 11: 沖縄の木造建築物／木造建築物の特徴／木、雨端、瓦
- 12: 沖縄の石造建築物／石造建築物の特徴／石積、琉球石灰岩、アーチ
- 13: 沖縄の城（グスク）／沖縄のグスクの歴史的変遷と特徴／縄張り、城壁、アーチ
- 14: 「琉球建築」の復興／歴史的建造物の保存修理と復元事例／遺構、保存修理、復元
- 15: 首里城とその周辺巡見／首里城とその周辺施設の構成／復元、保存修理された施設  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点

本授業は、各地域、時代の意匠的背景はもとより歴史・文化的脈絡の理解が特に重要であり、継続的な学習が必要である。授業方法等については初回に説明する。

理解のためにできる限り視覚教材および関連歴史資料を使用する。理解度を高めるために、毎回受講ノートの作成を課す。

### ■成績評価の方法・基準

□方法：授業態度及び受講ノートによる理解度を評価対象とする。受講ノート70%、平常点30%

□基準：到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

- ・具体的には以下の点を評価基準として成績評価を行う。
- ・質問など授業で積極的な参加をしたか。
- ・前向きに理解しようとする姿勢を示したか。

### ■教科書・参考文献（資料）等

#### □参考文献

- 日本建築史図集 新訂第三版 日本建築学会編 彰国社刊 2011年  
 新建築学大系2 日本建築史 新建築学大系編集委員会編 彰国社刊 1999年  
 琉球・沖縄の建築文化 沖縄県建設ユニオン編 琉球書房刊 2012年  
 沖縄の石造文化 福島駿介著 沖縄出版刊 1987年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21433	ビジュアルデザイン概論	2単位 前期	1~4	講義	笹原浩造

※ 絵画専攻（平成28年度・平成29年度）のみ受講可。

## ■テーマ デザインについての客観的解説と表現の事例展開について

### ■授業の概要

現代のビジュアル（視覚）において、デザイン表現の核となるアートディレクションを軸としたデザイン論を展開する。前半（基礎）後半（応用）について、教員の活動実績や実務経験を活かした実践的な授業を含む。

### ■到達目標

- ・様々な視覚的な事象を比較することで単一的な見方、考え方に偏ることなく幅広い考察学習。
- ・現代の視覚デザインの状況を客観的に理解、説明することができる。
- ・生活の中で起きている具体的な事例をデザイン視点から論理的に理解することができる。
- ・他者の考察・表現の理解や、学生自らの意見を述べる文章表現力を身につける。

### ■授業計画・方法

1. 視覚Ⅰ（基礎） : デザイナーの役割（基礎知識）
2. : デザインの機能や機関（制作・環境）
3. : 社会共存（商品・開発）
4. : 効果（広告・表現）
5. : 宣伝（国内事例）
6. : 相違（海外事例）
7. プレゼンテーション : 発表・演習（演習Ⅰ）
8. 視覚Ⅱ（応用） : 媒体（メディア）
9. : 企画（イベント）
10. : 存在（アイデンティティ）
11. : 相違（イメージ）
12. : 対話（コミュニケーション）
13. : 訴求（アピール）
14. : 象徴（シンボル）
15. プレゼンテーション : 発表・演習（演習Ⅱ）

定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・各テーマについて事前に情報収集。
- ・各自の発表を行うため主体的な授業参加が必要となる。
- ・考察的な手書きのスケッチ作業がある。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 レポート・ワークショップ50%、平常点50%（総合的に評価する）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

- ・提示されたテーマについて理解とディスカッションできる。
- ・自らの考え方を論理的に記述、発表できる。
- ・他の学生の発表を聞くことで、客観的な把握・認識ができる。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特に無し。

□テキスト 特に無し。

□参考文献 スライド資料を活用する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21434	視覚伝達概論A	2単位 前期	1～4	演習	赤嶺 雅

※ 絵画専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ 版形式を踏まえた印刷表現

#### ■授業の概要

版形式を踏まえた印刷表現を主体に、技術史を学びながら原理、材料等にもふれ、版表現の領域と可能性について学習する。視覚媒体の一つとしての印刷は情報伝達の機能を持ち、コミュニケーションツールの役割を持っている。教員の実務経験を踏まえ、社会に取って必要不可欠である印刷の具体的技法を学習する。

#### ■到達目標

- ・講義による歴史や印刷技法の解説を通して、視覚伝達について印刷表現を説明できる。
- ・現代社会における印刷形式を理解し、素材を考察し版形式を理論的に記述することができる。
- ・演習により版種における印刷形式の技法を習得し、実践的活用で他者とのコミュニケーションが円滑に行える。

#### ■授業計画・方法

1. 視覚伝達の意義、領域、表現（コミュニケーションとは）
2. 印刷の歴史（文字の発生、漢字の形成、アルファベットについて）授業レポート提出
3. 印刷の4形式 凸版について（活版印刷、シール印刷、フレキソ印刷など）
4. 凸版 シール用樹脂凸版の版制作 工房にて 演習レポート提出
5. 凸版 凸版印刷 箔押し 工房にて
6. 印刷の4形式 凹版について（グラビア印刷、パット印刷など）
7. 凹版 間接法 版制作 工房にて
8. 凹版 間接法 腐食 工房にて
9. 凹版 間接法 印刷 工房にて 演習レポート提出
10. 印刷の4形式 平版について（オフセット印刷、バーコ印刷など）
11. 平版 簡易式リトグラフの技法 工房にて 演習レポート提出
12. 平版 オフセット印刷の技法 工房にて 演習レポート提出
13. 印刷の4形式 孔版について（スクリーン印刷、ブロッキー印刷、可食印刷、発砲印刷など）
14. 孔版 写真製版（直接法）製版 工房にて
15. 孔版 写真製版（直接法）印刷 工房にて 演習レポート提出 まとめ  
定期試験は実施しない 授業・演習レポートの提出

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・準備：1回目の授業で配布したプリントを予め読み込んでおくこと。
- ・復習：授業の中で行った講義及び演習はその日のうちに整理、復習を行う。
- ・展開：学んだ授業を実践的に作品へと展開し、展示会など具体的成果へと結びつける。

#### ■成績評価の方法・基準

【方法】平常点(授業への参加度、制作への取組)30%、成果物(授業・演習レポート)70%による総合評価

【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

□ 教科書：配布するプリント

□ テキスト：特になし

□ 参考文献：『印刷博物誌』凸版印刷株式会社編集（紀伊国屋書店）、『印刷の最新常識 しゅくみから最先端技術まで』（日本実業出版社）、DTP&印刷スーパーしゅくみ辞典（株式会社ポーンデジタル）等々

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21435	視覚伝達概論B	2単位 後期	1~4	実技	仲本賢

※ 絵画専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

## ■テーマ 映像の通史と概論の学習

### ■授業の概要

この講義は絵画専攻学生に向けて、映像を写真、映画の発明に至る前史から現在進行中のデジタル画像までを簡単な通史として学習し、テレビ、劇場映画、インターネット画像等の映像媒体の特色と、ニュース、ドキュメント、娯楽、芸術、学術的使用に至るまでの様々な分野を毎回スライドやビデオを見ながら、画像の意味の読み方に注目して論じる映像の概論である。また、担当教員の映像作家としての実務経験を活かし、課題として学生自ら撮影した写真を編集しながら、映像によるリテラシー（読解記述力）を学ぶ。

### ■到達目標

- ・映像に興味を持ち、注意深く読み解く力を育成することを目的とする。
- ・映像の危険性について理解し、その倫理について理解するとともに、映像のリテラシー（読解力）を養う。
- ・重ねて映像機器、受像機、映画の見える仕組みについて理解する。
- ・そのため、レポートや課題を課す。

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション／目の構造／見るとは何か
2. 写真前史／映画前史
3. 映像の修辞学／映像の哲学的理解
4. 写真機、ビデオ、コンピュータ画像の構造
5. 草創期の映画 **課題1：映画批評／800字程度／5週目〆きり**
6. 映画におけるコンピュータグラフィックス
7. 草創期の写真
8. 現代の写真表現／ドキュメンタリーとファインアート
9. コンピュータグラフィックスの現在
10. ビデオゲームの歴史と現在 **ミニ写真集制作／写真20枚以上使用／8週目〆きり**
11. 実験映像／芸術としての映像表現
12. アニメーションの歴史と現在
13. 映像における身体への影響と放送倫理基準
14. 広告媒体としての映像 **小論文／映像の概念規程／1,200字程度／14週目〆きり**
15. 映像の概念規程／総論

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・本科目は演習科目のため、授業中に映像作品などを観賞する他、それと同量の映像作品を観賞する事を授業外の課題として課し、レポート提出や、理論に基づく課題制作を行う。
- ・よって、上記の3点の大きな課題の他に、授業外で観賞した作品について感想や意見を求める。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(制作への取組)30%、成果物(授業・演習レポート)70%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 特に指定しない
- テキスト 「映像倫理機構 規約」
- 参考文献 「映画技法のリテラシー (1) 映像の法則」ルイス ジアネッティ (著)  
「イラク戦争と情報操作」宝島社新書 川上 和久 (著)  
「テレビー「やらせ」と「情報操作」」渡辺 武達 (著)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21436	陶磁史概説 A	2 単位・前 (集中)	1~4	講義	徳留 大輔(非)

※絵画専攻（平成 28 年度、平成 29 年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

- ・陶磁器の歴史的背景を学び、人類が歩んできた足跡を学習する

### ■授業概要

- ・中国・韓国・日本の陶磁器は、その成り立ちや歴史的背景により多様な展開をみせる。本講義では、主として中国陶磁を通して、それらがアジア各地域へ影響を与えてきたことを解説。また、各国の風土、文化、技術、原料など様々な背景が、陶磁造形の変遷に関わっていることを解説する。

### ■到達目標

- ・中国陶磁を軸に韓国・日本の陶磁器の成り立ちや歴史的背景を考察する。
- ・陶磁史の教養を深めること。

### ■授業計画・方法

1. 中国、韓国陶磁史概論 中国古代
2. 中国中、近世
3. 中国近代
4. 韓国古代
5. 韓國中、近世 1 日目のまとめ
6. 首里城出土の中国、及びアジア陶磁について 首里城出土品解説
7. スライドによる沖縄県埋蔵文化センター収蔵作品等の紹介
8. 琉球の交易史
9. 2 日目のまとめ
10. 学外フィールドワーク（県立博物館、壺屋焼き物博物館など）
11. 日本、沖縄陶磁史について日本古代
12. 日本中、近世
13. 沖縄近世、近代
14. 3 日目のまとめ
15. レポート記述の説明

- ・中国陶磁器を軸に韓国陶磁器、日本陶磁器など、パワーポイントを使用し講義する。・定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・履修においては、世界史、日本史、沖縄史などの歴史的な知識が必要である。
- ・学生は、常に自己評価を行い、歴史の予習や復習を行うこと。疑問が生じた際は質問を行うこと。
- ・学外フィールドワークを予定している。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 レポート 60%・平常点 40%で評価し、採点する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（作品）等

#### 教科書

- ・講義に際して、適宜指示する。

#### 参考文献（作品）

- ・授業内に適宜コピーを配布する。さらに、必要に応じて、図書館などの書籍を紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21437	染織工芸史概説A	2単位 前	1~4	講義	柳悦州(客)

※絵画専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

染織工芸の変遷と産業革命

### ■授業の概要

染織の基礎的な知識について講義を行いつつ、地域別染織の特徴について歴史的に考察する。毎回ミニレポートの提出を求め、自分で調べる習慣を身につけることも本講義のねらいである。

### ■到達目標

- ・染織の基礎的な知識について説明できるようになる。
- ・各地域の染織史について基礎的な説明ができるようになる。
- ・自分で調べて予習を行い授業にのぞむようになる。

### ■授業計画・方法

1. 工芸、染織とは
  2. ヨーロッパの産業革命と染織
  3. 日本の産業革命と染織工芸
  4. エジプト染織史
  5. ペルシャ染織史
  6. インド染織史
  7. 中国染織史
  8. ラオス染織史
  9. 東南アジア染織史
  10. 日本の染織史 近代
  11. 日本の染織史 現代
  12. 沖縄の染織史 近世
  13. 沖縄の染織史 近代
  14. 沖縄の染織史 現代
  15. グローバル化と染織工芸
- 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・次回講義のキーワードとなる内容を含むミニレポート（A4レポート用紙1枚以内）が毎回課せられる。
- ・ミニレポートのキーワードをもとに講義を展開していく。
- ・ミニレポートの作成には、図書館の利用が必須である。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 ミニレポート（50%）、平常点（50%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

染織工芸史について基礎的な説明ができるか、予習をして授業に参加できるか、ミニレポートの内容が、授業の進行と共に深化しているか、図書館の効果的利用が行えたかを観点とする。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 必要に応じて指示する。

□テキスト 必要に応じて指示する。

□参考文献 必要に応じて指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21438	生活造形論概論 A	2単位・後 (集中)	1~4	講義	日野明子(非)

※絵画専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

・本授業では、伝統工芸、造形芸術のみならず、地場産業、クラフト造形、プロダクトデザインなどを、個人作家・アーティスト、小規模工房、地場に根付く工場の実例を紹介する。それらを、素材・技術・意匠を考察しながら、継承しつつ改革を加え、新しい創造が生まれていく過程を検証する。流通に関わっている講師が実際に社会と関わっている事例を中心に、パワーポイントで、動画を交えての講義をする。基本的な美学・芸術学における基礎的および関連の諸概念の確認、日本における生活造形につながるスタイル（民藝やクラフトなど）の確認と、それらを体現したデザイナーやアーティストの事例、作品を通して紹介する。これらを昨今のライフスタイルも重ね合わせながら、狭義から広義の生活造形について概説していく。

### ■授業概要

・インターネットの発達で、遠隔の情報が得られやすくなったことで、実態を知らずして、物事を理解したかのような錯覚を起こす時代となった。そんな、今だからこそ、手仕事や地場の特性を知ることは、豊かな生活、そして生活を彩る造形を理解することとなる。この講義は、日本の多様な工芸の種類を認識するところから始まり、古来より生活に関わるデザインや工芸の歴史を＜流通＞の視点も交えて振り返る。後半は窯業、ガラス、金工、木竹漆、繊維などの自然素材のつくる現場を、個人作家から、工房、工場までの様々な視点で見ることで、生活造形が社会のなかで、どのようなかたちで息づいているかを研究していく。

■到達目標・ものづくりが実際には、社会でどのような立場にあるかを、歴史を踏まえながら、広い視野で理解する

### ■授業計画・方法

1. 生活造形とは/生活造形と社会の関わり、生活を取り巻く造形物の魅力
2. 生活造形と社会の関わり 流通に関わる仕事のいろいろ
3. 個人がモノを入手するまでの流通について
4. 流通に乗せるための仕事、広告広報に関して
5. 地場産業の今
6. 生活造形の今の社会での捉えられ方
7. 生活造形と流通/デザインの歴史 ものづくりを描いた絵巻から歴史を知る
8. 民藝について、クラフトについて
9. 新しいジャンル “生活工芸”
10. デザインに関わった人たちについて
11. デザインと役所の関わり～産業工芸試験場の話～
12. ものづくりの現場について
13. スライド説明による工場の現場
14. レポート記述の説明
15. 工芸・デザインの仕事をしている社会人との討論会の聴講（学外・那覇市内予定） 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・履修においては、ものづくりとくらしに興味があることを前提としている。
- ・学生は、専門用語、固有名詞、個人名など、講師が既知として話を続けるもので、知らないものは、臆せず質問すること。
- ・最終講義は、学外での講義を予定。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 レポート60%・平常点40%で評価し採点する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書：講義に際して、適宜指示する。
- 参考文献（作品）：授業内に適宜コピーを配布する。さらに、必要に応じて、図書館などの書籍を紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21439	装飾概論 A	2単位 後期 (集中)	1~4	講義	鶴岡 真弓(非)

※絵画専攻（平成28年度、平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

世界の民族の伝統的「装飾文様」を学ぶ。文様に託されてきた「生命」「幸福」「再生」が、それぞれの文化的背景に照らして、いかに造形されているか。その文様の造形的構造と意味の両面から習得する。

### ■授業の概要

日本・アジア・欧米・その他世界の民族の伝統工芸から現代のデザインまでを彩る「装飾・文様」と、その誕生の背景にあった重要なシンボリズムと神話的要素について、体系的に学ぶ。

### ■到達目標

- ・服飾から建築まで人間が装飾として表現してきた「文様」「シンボル」とはなにか、その定義を学ぶ。
- ・それらに反映されて先史・古代から神話や象徴的意味を、多数の文様を取り上げ学んでいく。
- ・世界の代表的文様（ケルト渦巻文様、ユーラシアの動物文様、イスラーム美術のアラベスク文様など）を実際に描き、その構造・形態に託された造形的意味を習得する。
- ・数万年、数千年の人間の歴史のなかで、それらの文様が伝えてきた「生命の再生力」を理解し、現代の工芸・デザイン・美術に用いられている具体的作例を鑑賞し解釈する。

### ■授業計画・方法

1. イントロダクション：「装飾」とはなにか
2. 「文様」「模様」とはなにか
3. 衣食住のための装飾美
4. アール・ヌーヴォーとアール・デコの装飾思想
5. 日本の文様・世界の文様
6. シルクロード、イスラーム、中国、沖縄の文様
7. ユーラシア諸民族の文様
8. ケルトの文様（課題ではケルト文様を描き、造形と象徴的意味を発表する）
9. 動植物の神話とシンボリズム
10. 鉱物と黄金の神話とシンボリズム
11. 「生命論」的造形とはなにか
12. 服飾と装飾
13. 建築と装飾
14. 現代デザインにおける装飾の可能性
15. 授業のまとめ・要点解説および定期試験（60分程度）

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・沖縄や世界の民族美術にある印象的な装飾/文様の表された、自宅にある物などを活用し、授業中に紹介するコーナーをつくる。
- ・ケルト文化と沖縄の文化を比較しアイルランドのダンスや音楽などを上映する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点：60パーセント+課題レポート点：40パーセント

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

工芸・デザインの表現が用いてきた代表的な「文様」や「シンボル」の起源・歴史・現在について、①理解したか、②それらを用いて自己で表現できるかを、授業中に「課題」として出題する。その課題の提出や発表に対する取り組みかたを、重要な基準として評価する。そのほかの「平常点」も評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 『すぐわかるヨーロッパの装飾文様』 鶴岡真弓（東京美術）

□テキスト 特になし

□参考文献 『阿修羅のジュエリー』 鶴岡真弓（イーストプレス） 国宝・阿修羅像の衣と装身具にみられる東西装飾史

『装飾する魂』 鶴岡真弓（平凡社） 日本と西洋を横断してきた代表的装飾文様の数々を解説・図版多数

『ケルトの歴史』 鶴岡真弓+松村一男（河出書房新社） 東西比較ができる「古層のケルト文化・美術・神話」

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
21440	漆芸概論 A	2単位 後期 (集中)	1～4	講義	内田篤呉 (非)

※絵画専攻は(平成28年度・平成29年度入学生)のみ受講可。

■**テーマ** 日本文化の基本的な知識や自然観を理解し、各自が社会の中で専門的能力を高める。

### ■授業の概要

本講座は、日本の長い歴史と風土の中で生まれた漆工芸について、縄文時代から現代に至る漆の歴史を美術・文化・美学の視点から体系的な芸術教育を行う。そして漆芸を通して日本の伝統文化の特色を学習し、伝統文化に対する理解と将来の造形芸術の活動を担う人材の育成を図る。特に現代美術における日本工芸の位置づけを考えるために、現代アートの現状を西洋美学の視点から学習する。日本の伝統文化は、「茶の湯」と「活け花」の「美的体験」授業を行う。茶の湯は、工芸品(茶道具)と茶室の調和や礼儀作法など「身近な生活と工芸」のあり方を学ぶ。活け花は、花と花器の調和や自然との交歓(花の生命)などの体験授業を通して、「感性」「創造性」を働かせ、芸術の「表現」と「鑑賞」について考察する。

### ■到達目標

- ・漆芸論の視点から日本の工芸と伝統文化一般の基本的な知識を体系的に理解できる。
- ・感性を働かせ、創造力、コミュニケーション能力、論理的思考力等の造形的な能力の基礎を身にすることができる。
- ・社会と調和し社会貢献を願う動機を育成できる。

### ■授業計画・方法

現代アートの動向を西洋美学の視点から学習し、現代アートにおける日本工芸の位置づけを検証する。また人類の誕生から縄文・弥生・古墳時代に至る工芸史を概観し、日本工芸の原点を学習する。

1. 現代日本美術の動向
2. 工芸概論(近代美学の視点から)
3. 講縄文時代(原始の造形)
4. 弥生時代(変わりゆく時代観)
5. 古墳時代(渡来文化)

奈良時代の正倉院宝物を通して、唐の文化を摂取し日本美術工芸の確立の諸相を学習する。平安時代の和様の形成、鎌倉時代の唐物の受容、室町時代の伝統文化を学ぶ。特に茶の湯は、京都武者小路千家官休庵から講師を招き体験授業を実施する。

6. 奈良時代(正倉院の漆工)
7. 平安時代(和様の誕生)
8. 茶の湯体験(官休庵茶の湯)
9. 鎌倉時代((武士の造形感覚と唐物の受容)
10. 室町時代(和漢混合)

桃山時代から近現代に至る工芸の諸相を概観し、21世紀の漆芸及び工芸のあり方や芸術が果たす役割について、授業と共に学生とのディスカッションを通して理解を深める。MOA美術館インストラクターを講師に招き、活け花の体験授業を行う。

11. 桃山時代(黄金とわびの美)
12. 江戸時代(江戸の蒔絵)
13. 活け花体験(自然との交歓)
14. 近現代の漆芸(明治の工芸概念)
15. 21世紀の工芸を展望する・まとめ・レポート提出

### ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

参考文献に掲げた『光琳蒔絵の研究』序章「基礎資料と研究課題」から予め日本漆工史の予備知識を学習すること。授業では、パワーポイントによる画像を通して、漆芸論を中心に市販図書には紹介されない工芸品を学習する。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法** レポート(50%)、平常点(授業の参加状況30%)、コメントペーパー(20%)で総合的に評価する。
- 基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

- 教科書**: 教科書は特に指定しないが、漆芸論に関わるノート及び資料を作成して配布する。
- 参考文献**: 学習成果を上げるために有効な文献は以下の通り。内田篤呉『光琳蒔絵の研究』中央公論美術出版、辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22421	西洋建築史概説B	2単位 前期	1~4	講義	金城 優 (非)

※ 彫刻専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

## ■テーマ

西洋の建築造形を通して、歴史・文化・風土を学ぶ。

## ■授業概要

様々な歴史的建造物の造形は地域、時代により多様な展開をみせる。それらは如何に独創的で斬新な建築表現であっても、各地域、時代の要請を反映したデザイン表現が含まれているはずである。本講義は、西洋の建築造形を通して、建築造形の変遷に地域風土、文化、技術、材料など様々な背景が関わっていることを解説するものである。

## ■到達目標

建築造形の多様性のみならず、それらが歴史的に変遷してゆく過程を理解し、自らの専門領域との関係性を学ぶことが目的である。

## ■授業計画・方法

- 1: 西洋建築史の概要、なぜ建築史を学ぶか
- 2: 古典建築（ギリシャ、ローマとエーゲ海建築）
- 3: ビザンチン建築（東ローマ帝国がもたらせた様式）アヤソフィア
- 4: ロマネスク建築、11から13世紀の西ヨーロッパ建築様式
- 5: ゴシック建築、12世紀後半から16世紀 ばら窓 カテドラル
- 6: ルネッサンス建築、14世紀から16世紀 イタリア・フィレンツェ
- 7: バロックおよび新古典主義建築 16世紀から18世紀
- 8: 19世紀20世紀、ロンドン万博、アールヌーボー、新大陸アメリカ
- 9: 近代建築運動モダニズム、バウハウス
- 10: アントニオ・ガウディ
- 11: コルビジェ、アールト
- 12: モダニズムからポストモダン
- 13: フランク・ロイドライト
- 14: 地域主義
- 15: 現代環境都市とサステイナブル・シティ 定期試験は実施しない。

## ■履修上の留意点

本授業は、各地域、時代の意匠的背景はもとより歴史・文化的脈絡の理解が特に重要であり、継続的な学習が必要である。授業方法等については初回に説明する。

理解のためにできる限り視覚教材および関連歴史資料を使用する。理解度を高めるために、毎回受講ノートの作成を課す。

## ■成績評価の方法・基準

□方法：授業態度及び受講ノートによる理解度を評価対象とする。受講ノート70%、平常点30%

□基準：到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

- ・具体的には以下の点を評価基準として成績評価を行う。
- ・質問など授業で積極的な参加をしたか。
- ・前向きに理解しようとする姿勢を示したか。

## ■教科書・参考文献（資料）等

### □参考文献

西洋建築史図集 改訂新版 日本建築学会編 彰国社刊 昭和50年

大図説世界の建築 Great Architect of the World 編集主幹：ジョン・ジュリアス・ノリッジ

小学館刊 昭和52年

西洋建築様式史 執筆：熊倉洋介・末永航・羽生修二・星和彦・堀内正昭・渡辺道治 美術出版社刊 2010年

建築をめざして (SD選書21) ル・コルビュジェ (著), 吉阪 隆正 (翻訳) 1967年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22422	日本建築史概説B	2単位 後期	1~4	講義	未定

※ 彫刻専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

日本の建築造形を通して、歴史・文化・風土を学ぶ。

### ■授業概要

様々な歴史的建造物の造形は地域、時代により多様な展開をみせる。それらは如何に独創的で斬新な建築表現であっても、各地域、時代の要請を反映したデザイン表現が含まれているはずである。本講義は、日本の建築造形を通して、建築造形の変遷に地域風土、文化、技術、材料など様々な背景が関わっていることを解説するものである。

### ■到達目標

建築造形の多様性のみならず、それらが歴史的に変遷してゆく過程を理解し、自らの専門領域との関係性を学ぶことが目的である。

### ■授業計画・方法

- 1: 日本建築とは／日本建築の歴史的変遷と特徴／気候・風土、木の文化
- 2: 「琉球建築」とは／沖縄における建築の歴史的変遷と特徴／気候・風土、歴史
- 3: 神社建築／神社建築の様式、構造／神道、境内、社殿
- 4: 寺院建築／寺院建築の様式、構造／伽藍、塔、組物、装飾
- 5: 寝殿造／寝殿造の様式、構造／襖、畳、装束
- 6: 書院造／書院造の背景と意匠／床の間、違い棚、帳台構、装飾
- 7: 数寄屋造の意匠／数寄屋建築の背景／柱、天井、装飾
- 8: 茶室／茶室の成り立ちとその特徴／わび、さび、空間、素材
- 9: 城郭建築／城郭建築の意匠と構造／縄張り、郭、天守
- 10: 「琉球建築」の研究／廃藩置県後の調査・研究経緯／建築史家、古写真
- 11: 沖縄の木造建築物／木造建築物の特徴／木、雨端、瓦
- 12: 沖縄の石造建築物／石造建築物の特徴／石積、琉球石灰岩、アーチ
- 13: 沖縄の城（グスク）／沖縄のグスクの歴史的変遷と特徴／縄張り、城壁、アーチ
- 14: 「琉球建築」の復興／歴史的建造物の保存修理と復元事例／遺構、保存修理、復元
- 15: 首里城とその周辺巡見／首里城とその周辺施設の構成／復元、保存修理された施設  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点

本授業は、各地域、時代の意匠的背景はもとより歴史・文化的脈絡の理解が特に重要であり、継続的な学習が必要である。授業方法等については初回に説明する。

理解のためにできる限り視覚教材および関連歴史資料を使用する。理解度を高めるために、毎回受講ノートの作成を課す。

### ■成績評価の方法・基準

□方法：授業態度及び受講ノートによる理解度を評価対象とする。受講ノート70%、平常点30%

□基準：到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

- ・具体的には以下の点を評価基準として成績評価を行う。
- ・質問など授業で積極的な参加をしたか。
- ・前向きに理解しようとする姿勢を示したか。

### ■教科書・参考文献（資料）等

#### □参考文献

- 日本建築史図集 新訂第三版 日本建築学会編 彰国社刊 2011年  
 新建築学大系2 日本建築史 新建築学大系編集委員会編 彰国社刊 1999年  
 琉球・沖縄の建築文化 沖縄県建設ユニオン編 琉球書房刊 2012年  
 沖縄の石造文化 福島駿介著 沖縄出版刊 1987年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22423	クラフトデザイン計画概論	2単位 集中(後期)	1~4	講義	高江洲淳子(非)

※ 彫刻専攻(平成28年度・平成29年度入学生)のみ受講可。

■ **テーマ** クラフトデザインの意義や役割

### ■ 授業の概要

デザイン分野におけるクラフトデザインについて、その歩み(歴史)を学ぶと共に、隣接するインダストリアル(工業)デザインや工芸との比較及び、各地におけるクラフトデザインを広く学習する。ものづくりの近代化から現代社会まで、クラフトデザインの意義や役割を考え、さらにこれからの可能性や価値について考察する。

### ■ 到達目標

- ・クラフトデザインに至る歴史の流れや背景について知識を深める。
- ・現代社会におけるクラフトデザインの意義や将来的な可能性について考える。
- ・各自の視点でクラフトデザインを考察し、ワークショップを通して、デザインプロセスの実践を学習する。

### ■ 授業計画・方法

以下のテーマに沿って、画像やプリント資料、参考作品等を用いて講義を行う。内容を変更する場合もある。

- 第1回 クラフトデザインの概念(近代(モダン)デザインと伝統工芸の視点から考える)
- 第2回 クラフトデザインの領域(デザイン分野の中のクラフトデザインの領域と隣接する分野について)
- 第3回 クラフトデザインの歩み(ものづくりの近代化とアーツ・アンド・クラフツ運動等)
- 第4回 クラフトデザインの素材、技術
- 第5回 クラフトデザインの事例(陶器、ガラス、木工などのクラフトデザインの実物(器類)を見て触って考える)
- 第6回 近代、現代のクラフトデザイン(バウハウス、モダンデザインの椅子等を通してクラフトデザインを考える)
- 第7回 北欧のクラフトデザイン(スκανジナビア・デザイン、フィスカルス・ヴィレッジ、カイフランク、アアルト等)
- 第8回 日本のクラフトデザイン(民芸運動、戦後の日本のクラフト、伝統工芸産地のクラフトデザイン)
- 第9回 沖縄のクラフトデザインの可能性(沖縄のクラフトデザインの現状と取組み等)
- 第10回 クラフトデザインの課題
- 第11回 クラフトデザインの社会的価値
- 第12回 ワークショップ1(デザインプロセスの実践1:テーマ設定、グループによる話し合い)
- 第13回 ワークショップ2(デザインプロセスの実践2:コンセプト)
- 第14回 ワークショップ3(デザインプロセスの実践3:デザイン)
- 第15回 ワークショップ4(デザインプロセスの実践4:プレゼンテーション(発表) レポート提出)

### ■ 履修上の留意点

- ・予習(宿題)は、ワークショップ(デザインプロセスの実践)に関すること。
- ・クラフトデザインを取り巻く物事や現象を事前に調べておく。
- ・受動的な学習態度でなく積極的な意見や質問等が必要。

### ■ 成績評価の方法・基準

- **方法** 平常点50%、レポート30%、ワークショップ(プロセス・発表)20%で、総合的に評価する。
- **基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■ 教科書・参考文献(資料)等

- **教科書** 配布するプリント
- **テキスト** 配布するプリント
- **参考文献** 『日本のクラフト』 社団法人日本クラフトデザイナー協会(学研)、『柳宗理 デザイン』 柳 宗理 著(河出書房新社)、『アーツ・アンド・クラフツ〜ウィリアムモリス以後の工芸美術』 スティーヴン・アダマス 著(美術出版社)、『日本の生活デザイン』 日本インテリアデザイナー協会 監修(建築資料研究社)、『Kaj Franck-Universal Forms』 DESIGN MUSEO、『近代工芸運動とデザイン史』 藤田治彦 編(思文閣出版)、『ジャパニーズ・モダン—剣持勇とその世界』 森 仁史 編(国書刊行会)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22424	プロダクトデザイン概論	2単位 後期	1~4	講義	高田浩樹

※ 彫刻専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

プロダクトデザインの成り立ちや対象となるデザイン領域、具体化に必要な手法について学ぶ。

### ■授業の概要

ものづくりの近代化と共に誕生したプロダクトデザインの歴史をひもとき、その成り立ちや対象となるデザイン領域について、また、具体化に必要なアイデア発想法やデザインプロセス、デザイン方法論、造形（使用性・審美性）などについて解説する。

### ■到達目標

- ・プロダクトデザインの歴史や対象となるデザイン領域について理解する。
- ・具体化に必要なプロダクトデザイン手法について理解を深める。
- ・論理的に記述する能力を身につける。

### ■授業計画・方法

以下のテーマに沿って、プリント資料、スライド、参考作品等を用いて解説する。

1. 授業概要説明、プロダクトデザイン(=以下PDと記す)に対する考え方
2. PDの定義と領域
3. PDの歩みⅠ（様式の流れ、ヨーロッパにおける主なムーブメント①）
4. PDの歩みⅡ（ヨーロッパにおける主なムーブメント②）
5. PDの歩みⅢ（アメリカにおける主なムーブメント）
6. PDの歩みⅣ（日本における主なムーブメント）
7. PDの歩みⅤ（沖縄における主なムーブメント）
8. プロダクトデザイナーの仕事
9. PDの発想法および製品事例
10. PDの実際Ⅰ（事例をもとに製品開発背景～デザイン開発プロセス概要）
11. PDの実際Ⅱ（コンセプト立案法～アイデア展開/視覚化のための手法）
12. PDの実際Ⅲ（デザイン展開：プロトタイプ制作～製品化、様々な材料）
13. PDの実際Ⅳ（プレゼンテーション手法）
14. PDの可能性
15. 最終レポート提出および解説・まとめ

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・配布されたプリントを用いた自学自習を行ってください。
- ・授業内容の把握度をみるための小テストを行う。
- ・補助的な自習課題として、フィールドサーベイ、造形課題、小レポートを課す。
- ・参考図書を適宜紹介するので読むことを奨める。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 主に、授業中に実施する小レポートと、最終レポートによる。授業に取り組む態度も重視する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書：講義時にプリント資料を配布し、スライド・映像資料を提示する。
- 参考文献（資料）等：講義時に適宜紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22425	環境造形概論	2単位 前期	1~4	講義	宮里武志

※ 彫刻専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

都市、街路、建築などの公的な空間デザインを学ぶ。

### ■授業概要

彫刻専攻学生に向けて、外部空間を中心とした環境デザイン領域の講義を行う。私たちが日常的に接している生活空間（主に外部空間）は、様々な「物」や「事」によって構成されている。そうした都市、街路、建築などの人工環境、また森林、緑地などの自然環境を多面的な視点で考察することによって、担当教員の実務経験を活かして公的な空間デザインのあり方を習得する。

### ■到達目標

本授業は、以下3点を到達目標としている。

- ・自然及び都市環境の景観理論を学習することで環境造形（特にランドスケープデザイン）の理解を高める。
- ・都市計画、ランドスケープ、建築、ストリートファニチャーなどの分野におけるデザイン上の構成要素とその構造を学習することで環境に対する考察力を深める。
- ・上記分野のデザイン過程と手法を学習することで、造形力向上への反映を図る。

### ■授業計画・方法

下記のテーマに沿い、映像を使用しながら授業を進める。

1. オリエンテーション（環境造形論の学習領域及び授業構成）
2. 都市計画（各地事例、地区計画）
3. インフラストラクチャー
4. 環境構成要素（G.Cullen 「都市の景観」）
5. 街路を構成する表示（現地調査）
6. 都市デザインに関する環境造形技法
7. 狭小住居と都市環境
8. 建築に関する環境造形技法
9. 環境イメージ調査発表及び講評（レポート提出）
10. 都市デザインに関する環境造形技法
11. 環境造形と行政（景観行政の展開）
12. ランドスケープに関する環境造形技法
13. 風土と芸術（環境デザインの観点で）
14. パッシブデザイン（省資源・省エネルギー・自然エネルギー利用）
15. 環境造形総論■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む） 定期試験は実施しない。

正規の授業時間以外の空き時間（予習、復習を含む）を利用して自学自習することによって本科目の単位とする。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 授業態度及び授業期間内に要求されるレポート、最終4週間で与えられる環境調査の課題を評価対象とする。  
（平常点：20%、レポート：30%、環境調査課題：50%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

- ・具体的には以下の点を評価基準として成績評価を行う。
- ・質問など授業で積極的な参加をしたか。
- ・レポート、環境調査の課題の方法と完成度を評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 配付するプリント

□参考書・必読文献等

- ・「都市のイメージ」ケビン・リンチ著（岩波書店）・「街並みの美学」芦原義信著（岩波書店）
- ・「都市の景観」G.カレン著（鹿島出版会）・「景観論」G.エクボ著（鹿島出版）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22426	陶磁史概説 B	2 単位・前 (集中)	1~4	講義	徳留 大輔(非)

※彫刻専攻（平成 28 年度、平成 29 年度入学生）のみ受講可。

### ■ テーマ

- ・陶磁器の歴史的背景を学び、人類が歩んできた足跡を学習する

### ■ 授業概要

・中国・韓国・日本の陶磁器は、その成り立ちや歴史的背景により多様な展開をみせる。本講義では、主として中国陶磁を通して、それらがアジア各地域へ影響を与えてきたことを解説。また、各国の風土、文化、技術、原料など様々な背景が、陶磁造形の変遷に関わっていることを解説する。

### ■ 到達目標

- ・中国陶磁を軸に韓国・日本の陶磁器の成り立ちや歴史的背景を考察する。
- ・陶磁史の教養を深めること。

### ■ 授業計画・方法

1. 中国、韓国陶磁史概論 中国古代
2. 中国中、近世
3. 中国近代
4. 韓国古代
5. 韓国中、近世 1 日目のまとめ
6. 首里城出土の中国、及びアジア陶磁について 首里城出土品解説
7. スライドによる沖縄県埋蔵文化センター収蔵作品等の紹介
8. 琉球の交易史
9. 2 日目のまとめ
10. 学外フィールドワーク（県立博物館、壺屋焼き物博物館など）
11. 日本、沖縄陶磁史について日本古代
12. 日本中、近世
13. 沖縄近世、近代
14. 3 日目のまとめ
15. レポート記述の説明
  - ・中国陶磁器を軸に韓国陶磁器、日本陶磁器など、パワーポイントを使用し講義する。

### ■ 履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・履修においては、世界史、日本史、沖縄史などの歴史的な知識が必要である。
- ・学生は、常に自己評価を行い、歴史の予習や復習を行うこと。疑問が生じた際は質問を行うこと。
- ・学外フィールドワークを予定している。

### ■ 成績評価の方法・基準

- 方法 レポート 60%・平常点 40%で評価し、採点する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■ 教科書・参考文献（作品）等

#### 教科書

- ・講義に際して、適宜指示する。

#### 参考文献（作品）

- ・授業内に適宜コピーを配布する。さらに、必要に応じて、図書館などの書籍を紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22427	染織工芸史概説B	2単位 前	1～4	講義	柳悦州(客)

※彫刻専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

染織工芸の変遷と産業革命

### ■授業の概要

染織の基礎的な知識について講義を行いつつ、地域別染織の特徴について歴史的に考察する。毎回ミニレポートの提出を求め、自分で調べる習慣を身につけることも本講義のねらいである。

### ■到達目標

- ・染織の基礎的な知識について説明できるようになる。
- ・各地域の染織史について基礎的な説明ができるようになる。
- ・自分で調べて予習を行い授業にのぞむようになる。

### ■授業計画・方法

1. 工芸、染織とは
  2. ヨーロッパの産業革命と染織
  3. 日本の産業革命と染織工芸
  4. エジプト染織史
  5. ペルシャ染織史
  6. インド染織史
  7. 中国染織史
  8. ラオス染織史
  9. 東南アジア染織史
  10. 日本の染織史 近代
  11. 日本の染織史 現代
  12. 沖縄の染織史 近世
  13. 沖縄の染織史 近代
  14. 沖縄の染織史 現代
  15. グローバル化と染織工芸
- 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・次回講義のキーワードとなる内容を含むミニレポート（A4 レポート用紙1枚以内）が毎回課せられる。
- ・ミニレポートのキーワードをもとに講義を展開していく。
- ・ミニレポートの作成には、図書館の利用が必須である。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 ミニレポート（50%）、平常点（50%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

染織工芸史について基礎的な説明ができるか、予習をして授業に参加できるか。ミニレポートの内容が、授業の進行と共に深化しているか、図書館の効果的利用が行えたかを観点とする。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 必要に応じて指示する。

□テキスト 必要に応じて指示する。

□参考文献 必要に応じて指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22428	生活造形論概論 B	2単位・後 (集中)	1~4	講義	日野明子(非)

※彫刻専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■ テーマ

・本授業では、伝統工芸、造形芸術のみならず、地場産業、クラフト造形、プロダクトデザインなどを、個人作家・アーティスト、小規模工房、地場に根付く工場の実例を紹介する。それらを、素材・技術・意匠を考察しながら、継承しつつ改革を加え、新しい創造が生まれていく過程を検証する。流通に関わっている講師が実際に社会と関わっている事例を中心に、パワーポイントで、動画を交えての講義をする。基本的な美学・芸術学における基礎のおよび関連の諸概念の確認、日本における生活造形につながるスタイル（民藝やクラフトなど）の確認と、それらを体現したデザイナーやアーティストの事例、作品を通して紹介する。これらを昨今のライフスタイルも重ね合わせながら、狭義から広義の生活造形について概説していく。

### ■ 授業概要

・インターネットの発達で、遠隔の情報が得られやすくなったことで、実態を知らずして、物事を理解したかのような錯覚を起こす時代となった。そんな、今だからこそ、手仕事や地場の特性を知ることは、豊かな生活、そして生活を彩る造形を理解することとなる。この講義は、日本の多様な工芸の種類を認識するところから始まり、古来より生活に関わるデザインや工芸の歴史を〈流通〉の視点も交えて振り返る。後半は窯業、ガラス、金工、木竹漆、繊維などの自然素材のつくる現場を、個人作家から、工房、工場までの様々な視点で見ることで、生活造形が社会のなかで、どのようなかたちで息づいているかを研究していく。

■到達目標・ものづくりが実際には、社会でどのような立場にあるかを、歴史を踏まえながら、広い視野で理解する

### ■ 授業計画・方法

1. 生活造形とは/生活造形と社会の関わり、生活を取り巻く造形物の魅力
2. 生活造形と社会の関わり 流通に関わる仕事のいろいろ
3. 個人がモノを入手するまでの流通について
4. 流通に乗せるための仕事、広告広報に関して
5. 地場産業の今
6. 生活造形の今の社会での捉えられ方
7. 生活造形と流通/デザインの歴史 ものづくりを描いた絵巻から歴史を知る
8. 民藝について、クラフトについて
9. 新しいジャンル“生活工芸”
10. デザインに関わった人たちについて
11. デザインと役所の関わり～産業工芸試験場の話～
12. ものづくりの現場について
13. スライド説明による工場の現場
14. レポート記述の説明
15. 工芸・デザインの仕事をしている社会人との討論会の聴講（学外・那覇市内予定） 定期試験は実施しない。

### ■ 履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・履修においては、ものづくりとくらしに興味があることを前提としている。
- ・学生は、専門用語、固有名詞、個人名など、講師が既知として話を続けるもので、知らないものは、臆せず質問すること。
- ・最終講義は、学外での講義を予定。

### ■ 成績評価の方法・基準

- 方法 レポート60%・平常点40%で評価し採点する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■ 教科書・参考文献（作品）等

- 教科書：講義に際して、適宜指示する。
- 参考文献（作品）：授業内に適宜コピーを配布する。さらに、必要に応じて、図書館などの書籍を紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22429	装飾概論B	2単位 後期 (集中)	1~4	講義	鶴岡 真弓(非)

※彫刻専攻（平成28年度、平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

世界の民族の伝統的「装飾文様」を学ぶ。文様に託されてきた「生命」「幸福」「再生」が、それぞれの文化的背景に照らして、いかに造形されているか。その文様の造形的構造と意味の両面から習得する。

### ■授業の概要

日本・アジア・欧米・その他世界の民族の伝統工芸から現代のデザインまでを彩る「装飾・文様」と、その誕生の背景にあった重要なシンボリズムと神話的要素について、体系的に学ぶ。

### ■到達目標

- ・服飾から建築まで人間が装飾として表現してきた「文様」「シンボル」とはなにか、その定義を学ぶ。
- ・それらに反映されて先史・古代から神話や象徴的意味を、多数の文様を取り上げ学んでいく。
- ・世界の代表的文様（ケルト渦巻文様、ユーラシアの動物文様、イスラーム美術のアラベスク文様など）を実際に描き、その構造・形態に託された造形的意味を習得する。
- ・数万年、数千年の人間の歴史のなかで、それらの文様が伝えてきた「生命の再生力」を理解し、現代の工芸・デザイン・美術に用いられている具体的作例を鑑賞し解釈する。

### ■授業計画・方法

1. イントロダクション：「装飾」とはなにか
2. 「文様」「模様」とはなにか
3. 衣食住のための装飾美
4. アール・ヌーヴォーとアール・デコの装飾思想
5. 日本の文様・世界の文様
6. シルクロード、イスラーム、中国、沖縄の文様
7. ユーラシア諸民族の文様
8. ケルトの文様（課題ではケルト文様を描き、造形と象徴的意味を発表する）
9. 動植物の神話とシンボリズム
10. 鉱物と黄金の神話とシンボリズム
11. 「生命論」的造形とはなにか
12. 服飾と装飾
13. 建築と装飾
14. 現代デザインにおける装飾の可能性
15. 授業のまとめ・要点解説および定期試験（60分程度）

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・沖縄や世界の民族美術にある印象的な装飾/文様の表された、自宅にある物などを活用し、授業中に紹介するコーナーをつくる。
- ・ケルト文化と沖縄の文化を比較しアイルランドのダンスや音楽などを上映する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点：60パーセント＋課題レポート点：40パーセント

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

工芸・デザインの表現が用いてきた代表的な「文様」や「シンボル」の起源・歴史・現在について、①理解したか、②それらを用いて自己で表現できるかを、授業中に「課題」として出題する。その課題の提出や発表に対する取り組みかたを、重要な基準として評価する。そのほかの「平常点」も評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 『すぐわかるヨーロッパの装飾文様』 鶴岡真弓（東京美術）

□テキスト 特になし

□参考文献 『阿修羅のジュエリー』 鶴岡真弓（イーストプレス） 国宝・阿修羅像の衣と装身具にみられる東西装飾史  
『装飾する魂』 鶴岡真弓（平凡社） 日本と西洋を横断してきた代表的装飾文様の数々を解説・図版多数  
『ケルトの歴史』 鶴岡真弓＋松村一男（河出書房新社） 東西比較ができる「古層のケルト文化・美術・神話」

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22430	漆芸概論B	2単位 後期 (集中)	1～4	講義	内田篤呉 (非)

※彫刻専攻(平成28年度・平成29年度入学生)のみ受講可。

■**テーマ** 日本文化の基本的な知識や自然観を理解し、各自が社会の中で専門的能力を高める。

### ■授業の概要

本講座は、日本の長い歴史と風土の中で生まれた漆工芸について、縄文時代から現代に至る漆の歴史を美術・文化・美学の視点から体系的な芸術教育を行う。そして漆芸を通して日本の伝統文化の特色を学習し、伝統文化に対する理解と将来の造形芸術の活動を担う人材の育成を図る。特に現代美術における日本工芸の位置づけを考えるために、現代アートの現状を西洋美学の視点から学習する。日本の伝統文化は、「茶の湯」と「活け花」の「美的体験」授業を行う。茶の湯は、工芸品(茶道具)と茶室の調和や礼儀作法など「身近な生活と工芸」のあり方を学ぶ。活け花は、花と花器の調和や自然との交歓(花の生命)などの体験授業を通して、「感性」「創造性」を働かせ、芸術の「表現」と「鑑賞」について考察する。

### ■到達目標

- ・漆芸論の視点から日本の工芸と伝統文化一般の基本的な知識を体系的に理解できる。
- ・感性を働かせ、創造力、コミュニケーション能力、論理的思考力等の造形的な能力の基礎を身にすることができる。
- ・社会と調和し社会貢献を願う動機を育成できる。

### ■授業計画・方法

現代アートの動向を西洋美学の視点から学習し、現代アートにおける日本工芸の位置づけを検証する。また人類の誕生から縄文・弥生・古墳時代に至る工芸史を概観し、日本工芸の原点を学習する。

1. 現代日本美術の動向
2. 工芸概論(近代美学の視点から)
3. 講縄文時代(原始の造形)
4. 弥生時代(変わりゆく時代観)
5. 古墳時代(渡来文化)

奈良時代の正倉院宝物を通して、唐の文化を摂取し日本美術工芸の確立の諸相を学習する。平安時代の和様の形成、鎌倉時代の唐物の受容、室町時代の伝統文化を学ぶ。特に茶の湯は、京都武者小路千家官休庵から講師を招き体験授業を実施する。

6. 奈良時代(正倉院の漆工)
7. 平安時代(和様の誕生)
8. 茶の湯体験(官休庵茶の湯)
9. 鎌倉時代((武士の造形感覚と唐物の受容)
10. 室町時代(和漢混合)

桃山時代から近現代に至る工芸の諸相を概観し、21世紀の漆芸及び工芸のあり方や芸術が果たす役割について、授業と共に学生とのディスカッションを通して理解を深める。MOA美術館インストラクターを講師に招き、活け花の体験授業を行う。

11. 桃山時代(黄金とわびの美)
12. 江戸時代(江戸の蒔絵)
13. 活け花体験(自然との交歓)
14. 近現代の漆芸(明治の工芸概念)
15. 21世紀の工芸を展望する・まとめ・レポート提出

### ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

参考文献に掲げた『光琳蒔絵の研究』序章「基礎資料と研究課題」から予め日本漆工史の予備知識を学習すること。授業では、パワーポイントによる画像を通して、漆芸論を中心に市販図書には紹介されない工芸品を学習する。

### ■成績評価の方法・基準

□**方法** レポート(50%)、平常点(授業の参加状況30%)、コメントペーパー(20%)で総合的に評価する。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□**教科書**:教科書は特に指定しないが、漆芸論に関わるノート及び資料を作成して配布する。

□**参考文献**:学習成果を上げるために有効な文献は以下の通り。内田篤呉『光琳蒔絵の研究』中央公論美術出版、辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23443	陶磁史概説C	2単位・前 (集中)	1～4	講義	徳留 大輔(非)

※芸術学専攻（平成28年度、平成29年度入学生）のみ受講可。

■テーマ

- ・陶磁器の歴史的背景を学び、人類が歩んできた足跡を学習する

■授業概要

・中国・韓国・日本の陶磁器は、その成り立ちや歴史的背景により多様な展開をみせる。本講義では、主として中国陶磁を通して、それらがアジア各地域へ影響を与えてきたことを解説。また、各国の風土、文化、技術、原料など様々な背景が、陶磁造形の変遷に関わっていることを解説する。

■到達目標

- ・中国陶磁を軸に韓国・日本の陶磁器の成り立ちや歴史的背景を考察する。
- ・陶磁史の教養を深めること。

■授業計画・方法

1. 中国、韓国陶磁史概論 中国古代
2. 中国中、近世
3. 中国近代
4. 韓国古代
5. 韓国中、近世 1日目のまとめ
6. 首里城出土の中国、及びアジア陶磁について 首里城出土品解説
7. スライドによる沖縄県埋蔵文化センター収蔵作品等の紹介
8. 琉球の交易史
9. 2日目のまとめ
10. 学外フィールドワーク(県立博物館、壺屋焼き物博物館など)
11. 日本、沖縄陶磁史について日本古代
12. 日本中、近世
13. 沖縄近世、近代
14. 3日目のまとめ
15. レポート記述の説明

- ・中国陶磁器を軸に韓国陶磁器、日本陶磁器など、パワーポイントを使用し講義する。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・履修においては、世界史、日本史、沖縄史などの歴史的な知識が必要である。
- ・学生は、常に自己評価を行い、歴史の予習や復習を行うこと。疑問が生じた際は質問を行うこと。
- ・学外フィールドワークを予定している。

■成績評価の方法・基準

- 方法 レポート60%・平常点40%で評価し、採点する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書

- ・講義に際して、適宜指示する。

□参考文献（作品）

- ・授業内に適宜コピーを配布する。さらに、必要に応じて、図書館などの書籍を紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23444	染織工芸史概説C	2単位 前	1~4	講義	柳悦州(客)

※芸術学専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

染織工芸の変遷と産業革命

### ■授業の概要

染織の基礎的な知識について講義を行いつつ、地域別染織の特徴について歴史的に考察する。毎回ミニレポートの提出を求め、自分で調べる習慣を身につけることも本講義のねらいである。

### ■到達目標

- ・染織の基礎的な知識について説明できるようになる。
- ・各地域の染織史について基礎的な説明ができるようになる。
- ・自分で調べて予習を行い授業にのぞむようになる。

### ■授業計画・方法

1. 工芸、染織とは
2. ヨーロッパの産業革命と染織
3. 日本の産業革命と染織工芸
4. エジプト染織史
5. ペルシャ染織史
6. インド染織史
7. 中国染織史
8. ラオス染織史
9. 東南アジア染織史
10. 日本の染織史 近代
11. 日本の染織史 現代
12. 沖縄の染織史 近世
13. 沖縄の染織史 近代
14. 沖縄の染織史 現代
15. グローバル化と染織工芸

定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・次回講義のキーワードとなる内容を含むミニレポート（A4レポート用紙1枚以内）が毎回課せられる。
- ・ミニレポートのキーワードをもとに講義を展開していく。
- ・ミニレポートの作成には、図書館の利用が必須である。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 ミニレポート（50%）、平常点（50%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

染織工芸史について基礎的な説明ができるか、予習をして授業に参加できるか。ミニレポートの内容が、授業の進行と共に深化しているか、図書館の効果的利用が行えたかを観点とする。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 必要に応じて指示する。

□テキスト 必要に応じて指示する。

□参考文献 必要に応じて指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23445	生活造形論概論 C	2単位・後 (集中)	1~4	講義	日野明子(非)

※芸術学専攻（平成28年度・平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

・本授業では、伝統工芸、造形芸術のみならず、地場産業、クラフト造形、プロダクトデザインなどを、個人作家・アーティスト、小規模工房、地場に根付く工場の実例を紹介する。それらを、素材・技術・意匠を考察しながら、継承しつつ改革を加え、新しい創造が生まれていく過程を検証する。流通に関わっている講師が実際に社会と関わっている事例を中心に、パワーポイントで、動画を交えての講義をする。基本的な美学・芸術学における基礎および関連の諸概念の確認、日本における生活造形につながるスタイル（民藝やクラフトなど）の確認と、それらを体現したデザイナーやアーティストの事例、作品を通して紹介する。これらを昨今のライフスタイルも重ね合わせながら、狭義から広義の生活造形について概説していく。

### ■授業概要

・インターネットの発達で、遠隔の情報が得られやすくなったことで、実態を知らずして、物事を理解したかのような錯覚を起こす時代となった。そんな、今だからこそ、手仕事や地場の特性を知ることは、豊かな生活、そして生活を彩る造形を理解することとなる。この講義は、日本の多様な工芸の種類を認識するところから始まり、古来より生活に関わるデザインや工芸の歴史を＜流通＞の視点も交えて振り返る。後半は窯業、ガラス、金工、木竹漆、繊維などの自然素材のつくる現場を、個人作家から、工房、工場までの様々な視点で見ることで、生活造形が社会のなかで、どのようなかたちで息づいているかを研究していく。

■到達目標・ものづくりが実際には、社会でどのような立場にあるかを、歴史を踏まえながら、広い視野で理解する

### ■授業計画・方法

1. 生活造形とは/生活造形と社会の関わり、生活を取り巻く造形物の魅力
2. 生活造形と社会の関わり 流通に関わる仕事のいろいろ
3. 個人がモノを入手するまでの流通について
4. 流通に乗せるための仕事、広告広報に関して
5. 地場産業の今
6. 生活造形の今の社会での捉えられ方
7. 生活造形と流通/デザインの歴史 ものづくりを描いた絵巻から歴史を知る
8. 民藝について、クラフトについて
9. 新しいジャンル“生活工芸”
10. デザインに関わった人たちについて
11. デザインと役所の関わり～産業工芸試験場の話～
12. ものづくりの現場について
13. スライド説明による工場の現場
14. レポート記述の説明
15. 工芸・デザインの仕事をしている社会人との討論会の聴講（学外・那覇市内予定） 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・履修においては、ものづくりとくらしに興味があることを前提としている。
- ・学生は、専門用語、固有名詞、個人名など、講師が既知として話を続けるもので、知らないものは、臆せず質問すること。
- ・最終講義は、学外での講義を予定。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 レポート60%・平常点40%で評価し採点する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：講義に際して、適宜指示する。

□参考文献（作品）：授業内に適宜コピーを配布する。さらに、必要に応じて、図書館などの書籍を紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23446	装飾概論C	2単位 後期 (集中)	1~4	講義	鶴岡 真弓(非)

※芸術学専攻（平成28年度、平成29年度入学生）のみ受講可。

### ■テーマ

世界の民族の伝統的「装飾文様」を学ぶ。文様に託されてきた「生命」「幸福」「再生」が、それぞれの文化的背景に照らして、いかに造形されているか。その文様の造形的構造と意味の両面から習得する。

### ■授業の概要

日本・アジア・欧米・その他世界の民族の伝統工芸から現代のデザインまでを彩る「装飾・文様」と、その誕生の背景にあった重要なシンボリズムと神話的要素について、体系的に学ぶ。

### ■到達目標

- ・服飾から建築まで人間が装飾として表現してきた「文様」「シンボル」とはなにか、その定義を学ぶ。
- ・それらに反映されて先史・古代から神話や象徴的意味を、多数の文様を取り上げ学んでいく。
- ・世界の代表的文様（ケルト渦巻文様、ユーラシアの動物文様、イスラーム美術のアラベスク文様など）を実際に描き、その構造・形態に託された造形的意味を習得する。
- ・数万年、数千年の人間の歴史のなかで、それらの文様が伝えてきた「生命の再生力」を理解し、現代の工芸・デザイン・美術に用いられている具体的作例を鑑賞し解釈する。

### ■授業計画・方法

1. イントロダクション：「装飾」とはなにか
2. 「文様」「模様」とはなにか
3. 衣食住のための装飾美
4. アール・ヌーヴォーとアール・デコの装飾思想
5. 日本の文様・世界の文様
6. シルクロード、イスラーム、中国、沖縄の文様
7. ユーラシア諸民族の文様
8. ケルトの文様（課題ではケルト文様を描き、造形と象徴的意味を発表する）
9. 動植物の神話とシンボリズム
10. 鉱物と黄金の神話とシンボリズム
11. 「生命論」的造形とはなにか
12. 服飾と装飾
13. 建築と装飾
14. 現代デザインにおける装飾の可能性
15. 授業のまとめ・要点解説および定期試験（60分程度）

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・沖縄や世界の民族美術にある印象的な装飾/文様の表された、自宅にある物などを活用し、授業中に紹介するコーナーをつくる。
- ・ケルト文化と沖縄の文化を比較しアイルランドのダンスや音楽などを上映する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点：60パーセント＋課題レポート点：40パーセント

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

工芸・デザインの表現が用いてきた代表的な「文様」や「シンボル」の起源・歴史・現在について、①理解したか、②それらを用いて自己で表現できるかを、授業中に「課題」として出題する。その課題の提出や発表に対する取り組みかたを、重要な基準として評価する。そのほかの「平常点」も評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 『すぐわかるヨーロッパの装飾文様』 鶴岡真弓（東京美術）

□テキスト 特になし

□参考文献 『阿修羅のジュエリー』 鶴岡真弓（イーストプレス） 国宝・阿修羅像の衣と装身具にみられる東西装飾史

『装飾する魂』 鶴岡真弓（平凡社） 日本と西洋を横断してきた代表的装飾文様の数々を解説・図版多数

『ケルトの歴史』 鶴岡真弓＋松村一男（河出書房新社） 東西比較ができる「古層のケルト文化・美術・神話」

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23447	漆芸概論C	2単位 後期 (集中)	1～4	講義	内田篤呉(非)

※芸術学専攻(平成28年度・平成29年度入学生)のみ受講可。

■テーマ 日本文化の基本的な知識や自然観を理解し、各自が社会の中で専門的能力を高める。

### ■授業の概要

本講座は、日本の長い歴史と風土の中で生まれた漆工芸について、縄文時代から現代に至る漆の歴史を美術・文化・美学の視点から体系的な芸術教育を行う。そして漆芸を通して日本の伝統文化の特色を学習し、伝統文化に対する理解と将来の造形芸術の活動を担う人材の育成を図る。特に現代美術における日本工芸の位置づけを考えるために、現代アートの現状を西洋美学の視点から学習する。日本の伝統文化は、「茶の湯」と「活け花」の「美的体験」授業を行う。茶の湯は、工芸品(茶道具)と茶室の調和や礼儀作法など「身近な生活と工芸」のあり方を学ぶ。活け花は、花と花器の調和や自然との交歓(花の生命)などの体験授業を通して、「感性」「創造性」を働かせ、芸術の「表現」と「鑑賞」について考察する。

### ■到達目標

- ・漆芸論の視点から日本の工芸と伝統文化一般の基本的な知識を体系的に理解できる。
- ・感性を働かせ、創造力、コミュニケーション能力、論理的思考力等の造形的な能力の基礎を身にすることができる。
- ・社会と調和し社会貢献を願う動機を育成できる。

### ■授業計画・方法

現代アートの動向を西洋美学の視点から学習し、現代アートにおける日本工芸の位置づけを検証する。また人類の誕生から縄文・弥生・古墳時代に至る工芸史を概観し、日本工芸の原点を学習する。

1. 現代日本美術の動向
2. 工芸概論(近代美学の視点から)
3. 講縄文時代(原始の造形)
4. 弥生時代(変わりゆく時代観)
5. 古墳時代(渡来文化)

奈良時代の正倉院宝物を通して、唐の文化を摂取し日本美術工芸の確立の諸相を学習する。平安時代の和様の形成、鎌倉時代の唐物の受容、室町時代の伝統文化を学ぶ。特に茶の湯は、京都武者小路千家官休庵から講師を招き体験授業を実施する。

6. 奈良時代(正倉院の漆工)
7. 平安時代(和様の誕生)
8. 茶の湯体験(官休庵茶の湯)
9. 鎌倉時代((武士の造形感覚と唐物の受容)
10. 室町時代(和漢混合)

桃山時代から近現代に至る工芸の諸相を概観し、21世紀の漆芸及び工芸のあり方や芸術が果たす役割について、授業と共に学生とのディスカッションを通して理解を深める。MOA美術館インストラクターを講師に招き、活け花の体験授業を行う。

11. 桃山時代(黄金とわびの美)
12. 江戸時代(江戸の蒔絵)
13. 活け花体験(自然との交歓)
14. 近現代の漆芸(明治の工芸概念)
15. 21世紀の工芸を展望する・まとめ・レポート提出

### ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

参考文献に掲げた『光琳蒔絵の研究』序章「基礎資料と研究課題」から予め日本漆工史の予備知識を学習すること。授業では、パワーポイントによる画像を通して、漆芸論を中心に市販図書には紹介されない工芸品を学習する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 レポート(50%)、平常点(授業の参加状況30%)、コメントペーパー(20%)で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書:教科書は特に指定しないが、漆芸論に関わるノート及び資料を作成して配布する。

□参考文献:学習成果を上げるために有効な文献は以下の通り。内田篤呉『光琳蒔絵の研究』中央公論美術出版、辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23320	絵画演習	4 単位 通年	2~3	演習	絵画専攻教員

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成29年度以前の入学者に開講

■テーマ 絵画（映像、メディア表現含む）の主題と表現

■授業の概要

美学・芸術学および美術史学の研究対象となる「絵画」制作の実際について主題と表現の理解を深め、実際にはペイント、プリント、撮影を中心に作品を制作する。

■到達目標

- ・ 絵画（写真を含む）の素材・機材や技法について理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 研究発表や中間報告において、作品のコンセプトや内容を合理的に論述することができる。

■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. オリエンテーション              | 16. 課題2の解説と主題の設定          |
| 2. 絵画の歴史と作品鑑賞             | 17. 習作2 モチーフ選定、デッサン・スケッチ  |
| 3. 素材・機材の歴史と作品鑑賞          | 18. 習作2 エスキースの制作          |
| 4. 技法の歴史と作品鑑賞             | 19. 習作2 ペイント・プリント・撮影等     |
| 5. 課題1の解説と主題の設定           | 20. 習作2 ペイント・プリント・撮影等 仕上げ |
| 6. 習作1 モチーフ選定、デッサン・スケッチ   | 21. 課題2 第1次中間報告           |
| 7. 習作1 エスキースの制作           | 22. 課題2 モチーフ選定、デッサン・スケッチ  |
| 8. 習作1 ペイント・プリント・撮影等      | 23. 課題2 エスキースの制作          |
| 9. 習作1 ペイント・プリント・撮影等 仕上げ  | 24. 課題2 第2次中間報告           |
| 10. 課題1 モチーフ選定、デッサン・スケッチ  | 25. 課題2 ペイント・プリント・撮影等     |
| 11. 課題1 エスキースの制作          | 26. 課題2 第3次中間報告           |
| 12. 課題1 ペイント・プリント・撮影等     | 27. 課題2 ペイント・プリント・撮影等 修正  |
| 13. 課題1 ペイント・プリント・撮影等 修正  | 28. 課題2 ペイント・プリント・撮影等 仕上げ |
| 14. 課題1 ペイント・プリント・撮影等 仕上げ | 29. 課題2 研究発表と討議           |
| 15. 課題1 研究発表と総括           | 30. 総括                    |

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当する絵画専攻教員に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（20%）、課題制作（80%）で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：特になし

□テキスト：講義中に配布する。

□参考文献：授業中に指示する。

□参考資料：授業中にスライド・画集・実作品を支持する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23330	絵画演習 A	2 単位 前期	2～3	演習	絵画専攻教員

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成30年度以降の入学者に開講

■テーマ 絵画（映像、メディア表現含む）の主題と表現

### ■授業の概要

美学・芸術学および美術史学の研究対象となる「絵画」制作の実際について主題と表現の理解を深め、実際にはペイント、プリントを中心に作品を制作する。

### ■到達目標

- ・ 絵画（写真を含む）の素材・機材や技法について理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 研究発表や中間報告において、作品のコンセプトや内容を合理的に論述することができる。

### ■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

1. オリエンテーション
2. 絵画の歴史と作品鑑賞
3. 素材・機材の歴史と作品鑑賞
4. 技法の歴史と作品鑑賞
5. 課題1の解説と主題の設定
6. 習作1 モチーフ選定、デッサン・スケッチ
7. 習作1 エスキースの制作
8. 習作1 ペイント・プリント等
9. 習作1 ペイント・プリント等 仕上げ
10. 課題1 モチーフ選定、デッサン・スケッチ
11. 課題1 エスキースの制作
12. 課題1 ペイント・プリント等
13. 課題1 ペイント・プリント等 修正
14. 課題1 ペイント・プリント等 仕上げ
15. 課題1 研究発表と総括

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当する絵画専攻教員に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（20%）、課題制作（80%）で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 講義中に配布する。

□参考文献 授業中にスライド・画集・実作品を支持する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23331	絵画演習B	2単位 後期	2～3	演習	絵画専攻教員

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成30年度以降の入学者に開講

■テーマ 絵画（映像、メディア表現含む）の主題と表現

■授業の概要

美学・芸術学および美術史学の研究対象となる「絵画」制作の実際について主題と技法の理解を深め、実際にはペイント、撮影を中心に作品を制作する。

■到達目標

- ・ 絵画（写真を含む）の素材・機材や技法について理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 研究発表や中間報告において、作品のコンセプトや内容を合理的に論述することができる。

■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

1. オリエンテーション
2. 絵画の歴史と作品鑑賞
3. 素材・機材の歴史と作品鑑賞
4. 技法の歴史と作品鑑賞
5. 課題1の解説と主題の設定
6. 習作1 モチーフ選定、デッサン・スケッチ
7. 習作1 エスキースの制作
8. 習作1 ペイント・撮影等
9. 習作1 ペイント・撮影等 仕上げ
10. 課題1 モチーフ選定、デッサン・スケッチ
11. 課題1 エスキースの制作
12. 課題1 ペイント・撮影等
13. 課題1 ペイント・撮影等 修正
14. 課題1 ペイント・撮影等 仕上げ
15. 課題1 研究発表と総括

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当する絵画専攻教員に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（20%）、課題制作（80%）で総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 特になし
- テキスト 講義中に配布する。
- 参考文献 授業中にスライド・画集・実作品を支持する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23321	彫刻演習	4単位 通年	2～3	演習	砂川 泰彦 河原 圭佑

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成29年度以前の入学者に開講

■テーマ 彫刻の主題と表現

■授業の概要

美学・芸術学および美術史学の研究対象となる彫刻表現について一般的包括的な理解を深め、実際に作品を制作し、主題と表現について考える。

■到達目標

- ・ 彫刻の素材、道具、技法を理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 構想発表や研究発表において、作品のコンセプトや内容を論述することができる。

■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| 1. オリエンテーション               | 16. 課題2の解説と主題の設定                          |
| 2. 彫刻の歴史と作品鑑賞              | 17. 習作：デッサン・スケッチ                          |
| 3. 素材・道具の歴史と作品鑑賞           | 18. 習作：エスキース制作（素材研究）                      |
| 4. 技法の歴史と作品鑑賞              | 19. 習作：エスキース制作（技法研究）                      |
| 5. 課題1の解説と主題の設定            | 20. 習作：エスキースの仕上げ                          |
| 6. 習作：デッサン・スケッチ            | 21. 課題制作：構想、スケッチ                          |
| 7. 習作：エスキース制作              | 22. 課題制作：素材、技法の選択                         |
| 8. 習作：エスキースの仕上げ            | 23. 課題制作：素材、技法の理解                         |
| 9. 課題制作：構想、スケッチ            | 24. 課題制作：全体と細部の理解                         |
| 10. 課題制作：素材、技法の理解          | 25. 課題制作：中間発表と講評、先行作例鑑賞                   |
| 11. 課題制作：全体と細部の理解          | 26. 課題制作：全体と細部の調和                         |
| 12. 課題制作：中間発表と講評、先行作例鑑賞    | 27. 課題制作：制作上の課題の発見                        |
| 13. 課題制作：課題の発見             | 28. 課題制作：課題の解決                            |
| 14. 課題制作：仕上げ               | 29. 課題制作：仕上げ                              |
| 15. 成果発表（研究発表）と総括（自己評価と講評） | 30. 成果発表（研究発表）と総括（自己評価と講評）<br>定期試験は実施しない。 |

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当する彫刻専攻教員に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（20%）、課題制作（80%）で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
課題制作の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：特になし

□テキスト：講義中に配付する。

□参考文献：授業中に指示する。

□参考資料：授業中にスライド・画集・実作品を提示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23261	彫刻演習A	2単位 通年	2～3	演習	砂川 泰彦

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成30年度以降の入学者に開講

■テーマ 彫刻の主題と表現

■授業の概要

美学・芸術学および美術史学の研究対象となる彫刻表現について一般的包括的な理解を深め、実際に塑造（テラコッタを含む）、石彫を中心に作品を制作し、主題と表現について考える。

■到達目標

- ・ 彫刻の素材、道具、技法を理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 構想発表や研究発表において、作品のコンセプトや内容を論述することができる。

■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

1. オリエンテーション,
  2. 彫刻の歴史と作品鑑賞
  3. 素材・道具の歴史と作品鑑賞
  4. 技法の歴史と作品鑑賞
  5. 課題の解説と主題の設定
  6. 習作：デッサン・スケッチ
  7. 習作：エスキース制作
  8. 習作：エスキースの仕上げ
  9. 課題制作：構想、スケッチ
  10. 課題制作：素材、技法の理解
  11. 課題制作：全体と細部の理解
  12. 課題制作：中間発表と講評、先行作例鑑賞
  13. 課題制作：制作上の課題の発見
  14. 課題制作：仕上げ
  15. 成果発表（研究発表）と総括（自己評価と講評）
- 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当する彫刻専攻教員に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（20%）、課題制作（80%）で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

課題制作の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：特になし

□テキスト：講義中に配付する。

□参考文献：授業中に指示する。

□参考資料：授業中にスライド・画集・実作品を提示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23262	彫刻演習B	2単位 通年	2～3	演習	河原 圭佑

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成30年度以降の入学者に開講

■テーマ 彫刻の主題と表現

■授業の概要

美学・芸術学および美術史学の研究対象となる彫刻表現について一般的包括的な理解を深め、実際に塑造（テラコッタを含む）、金属彫刻を中心に作品を制作し、主題と表現について考える。

■到達目標

- ・ 彫刻の素材、道具、技法を理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 構想発表や研究発表において、作品のコンセプトや内容を論述することができる。

■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

1. オリエンテーション、
2. 彫刻の歴史と作品鑑賞
3. 素材・道具の歴史と作品鑑賞
4. 技法の歴史と作品鑑賞
5. 課題の解説と主題の設定
6. 習作：デッサン・スケッチ
7. 習作：エスキース制作
8. 習作：エスキースの仕上げ
9. 課題制作：構想、スケッチ
10. 課題制作：素材、技法の理解
11. 課題制作：全体と細部の理解
12. 課題制作：中間発表と講評、先行作例鑑賞
13. 課題制作：制作上の課題の発見
14. 課題制作：仕上げ
15. 成果発表（研究発表）と総括（自己評価と講評）  
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当する彫刻専攻教員に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（20%）、課題制作（80%）で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
課題制作の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書：特になし
- テキスト：授業中に配付する。
- 参考文献：授業中に指示する。
- 参考資料：授業中にスライド・画集・実作品を提示する。

23322	デザイン演習	4単位 通年	2~3	演習	デザイン専攻教員
-------	--------	--------	-----	----	----------

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成29年度以前の入学者に開講

#### ■ テーマ

デザインの実習からそのプロセスとそれにいたる哲学を学ぶ

#### ■ 授業の概要

担当教員の実務経験を活かした実践を元に、美学・芸術学および美術史学の研究対象となる「デザイン」の実際について理解を深め、作品を制作する。

#### ■ 到達目標

- ・ デザインの素材、機材、道具、技法を理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 研究発表や中間報告において、作品のコンセプトや内容を合理的に論述することができる。

#### ■ 授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

1. オリエンテーション／デザインの歴史と作品鑑賞
2. 素材・機材・道具の歴史と作品鑑賞／技法の歴史と作品鑑賞
3. 課題1の解説と主題の設定／習作1 モチーフ選定、スケッチ
4. 習作1 エスキースの制作／習作1 設計・撮影・描画・造作等
5. 習作1 設計・撮影・描画・造作等 仕上げ／課題1 モチーフ選定、スケッチ
6. 課題1 エスキースの制作／課題1 設計・撮影・描画・造作等
7. 課題1 設計・撮影・描画・造作等 修正／課題1 設計・撮影・描画・造作等 仕上げ
8. 課題1 研究発表と総括／課題2の解説と主題の設定
9. 習作2 モチーフ選定、スケッチ／習作2 エスキースの制作
10. 習作2 設計・撮影・描画・造作等／習作2 設計・撮影・描画・造作等 仕上げ
11. 課題2 第1次中間報告／課題2 モチーフ選定、デッサン・スケッチ
12. 課題2 エスキースの制作／課題2 第2次中間報告
13. 課題2 設計・撮影・描画・造作等／課題2 第3次中間報告
14. 課題2 設計・撮影・描画・造作等 修正／課題2 設計・撮影・描画・造作等 仕上げ
15. 課題2 研究発表と討議／総括

#### ■ 履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当するデザイン専攻教員に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

#### ■ 成績評価の方法・基準

□ 方法 平常点(20%)、課題制作(80%)で総合的に評価する。

□ 基準 平常点は授業への参加度、授業態度を見る。課題制作では上記の目標を達成しているかどうかを評価する。

#### ■ 教科書・参考文献（作品）等

□ 教科書：「プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ」JIDA プロダクトデザイン編集委員会 2009

□ テキスト：特になし

□ 参考文献：『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの平面構成』朝倉直巳著（六耀社）、『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの色彩構成』朝倉直巳著（六耀社）、「世界で一番美しい建築デザインの教科書」鈴木敏彦 他 2011、「家具デザインと製図」森谷延周 2007、「風景にさわる ランドスケープデザインの思考法」柴田久 2017

23334	デザイン演習 A	2単位 前期	2~3	演習	仲本、赤嶺、笹原、又吉
-------	----------	--------	-----	----	-------------

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成30年度以降の入学者に開講

### ■テーマ

グラフィック系デザインの基礎的実習からそのプロセスとそれにいたる哲学を学ぶ

### ■授業の概要

担当教員の実務経験を活かした実践を元に、美学・芸術学および美術史学の研究対象となる「グラフィック系デザイン」の実際について理解を深め、作品を制作する。

### ■到達目標

- ・ グラフィック系デザインの素材、機材、道具、技法を理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 研究発表や中間報告において、作品のコンセプトや内容を合理的に論述することができる。

### ■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

1. オリエンテーション
2. グラフィック系デザインの歴史と作品鑑賞
3. 素材・機材・道具の歴史と作品鑑賞
4. 技法の歴史と作品鑑賞
5. 課題 A の解説と主題の設定
6. 習作 A モチーフ選定、スケッチ
8. 習作 A 設計・撮影・描画・造作等
9. 習作 A 設計・撮影・描画・造作等 仕上げ
10. 課題 A モチーフ選定、スケッチ
11. 課題 A エスキースの制作
12. 課題 A 設計・撮影・描画・造作等
13. 課題 A 設計・撮影・描画・造作等 修正
15. 課題 A 研究発表と総括

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当するデザイン専攻教員（グラフィック系／VI、サイン計画、イラストレーション、映像等）に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点(20%)、課題制作(80%)で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
平常点は授業への参加度、授業態度を見る。課題制作では上記の目標を達成しているかどうかを評価する。

### ■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：配布するプリント

□テキスト：特になし

□参考文献：『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの平面構成』朝倉直巳著（六耀社）、『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの色彩構成』朝倉直巳著（六耀社）等々

23335	デザイン演習 B	2単位 後期	2～3	演習	座波、宮里、非常勤
-------	----------	--------	-----	----	-----------

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成30年度以降の入学者に開講

### ■テーマ

プロダクト系デザインの応用的実習からそのプロセスとそれにいたる哲学を学ぶ

### ■授業の概要

担当教員の実務経験を活かした実践を元に、美学・芸術学および美術史学の研究対象となる「プロダクト系デザイン」の実際について理解を深め、作品を制作する。

### ■到達目標

- ・ プロダクト系デザインの素材、機材、道具、技法を理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 研究発表や中間報告において、作品のコンセプトや内容を合理的に論述することができる。

### ■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

1. 課題 B プロダクト系デザインの解説と主題の設定
2. 習作 B モチーフ選定、スケッチ
3. 習作 B エスキースの制作
4. 習作 B 設計・撮影・描画・造作等
5. 習作 B 設計・撮影・描画・造作等 仕上げ
6. 課題 B 第1次中間報告
7. 課題 B モチーフ選定、デッサン・スケッチ
8. 課題 B エスキースの制作
9. 課題 B 第2次中間報告
10. 課題 B 設計・撮影・描画・造作等
11. 課題 B 第3次中間報告
12. 課題 B 設計・撮影・描画・造作等 修正
13. 課題 B 設計・撮影・描画・造作等 仕上げ
14. 課題 B 研究発表と討議
15. 総括

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当するデザイン専攻教員（プロダクト系／製品、家具、インテリア、建築・ランドスケープデザイン等）に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（20%）、課題制作（80%）で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

平常点は授業への参加度、授業態度を見る。課題制作では上記の目標を達成しているかどうかを評価する。

### ■教科書・参考文献（作品）等

- 教科書：「プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ」JIDA プロダクトデザイン編集委員会 2009
- テキスト：特になし
- 参考文献：「世界で一番美しい建築デザインの教科書」鈴木敏彦 他 2011、「家具デザインと製図」森谷延周 2007、「風景にさわる ランドスケープデザインの思考法」柴田久 2017

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23323	工芸演習	4単位 通年	2～3	演習	工芸専攻教員

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成29年度以前の入学者に開講

■テーマ 工芸的表現・素材の研究

### ■授業の概要

美学・芸術学および美術史学の研究対象となる「工芸」制作の実際について、理解を深め、作品を制作する。

### ■到達目標

- ・ 工芸（染・織・陶・漆）の素材、機材、道具、技法を理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 研究発表や中間報告において、作品のコンセプトや内容を合理的に論述することができる。
- ・

### ■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1. オリエンテーション           | 16. 課題2 の解説と主題の設定        |
| 2. 工芸（染・織・陶・漆）の歴史と作品鑑賞 | 17. 習作2 モチーフ選定、スケッチ      |
| 3. 素材・機材・道具の歴史と作品鑑賞    | 18. 習作2 図案の制作            |
| 4. 技法の歴史と作品鑑賞          | 19. 習作2 染・織・陶・漆          |
| 5. 課題1 の解説と主題の設定       | 20. 習作2 染・織・陶・漆 仕上げ      |
| 6. 習作1 モチーフ選定、スケッチ     | 21. 課題2 第1次中間報告          |
| 7. 習作1 図案の制作           | 22. 課題2 モチーフ設定、デッサン・スケッチ |
| 8. 習作1 染・織・陶・漆         | 23. 課題2 図案の制作            |
| 9. 習作1 染・織・陶・漆 仕上げ     | 24. 課題2 第2次中間報告          |
| 10. 課題1 モチーフ選定、スケッチ    | 25. 課題2 染・織・陶・漆          |
| 11. 課題1 図案の制作          | 26. 課題2 第3次中間報告          |
| 12. 課題1 染・織・陶・漆        | 27. 課題2 染・織・陶・漆 修正       |
| 13. 課題1 染・織・陶・漆 修正     | 28. 課題2 染・織・陶・漆 仕上げ      |
| 14. 課題1 染・織・陶・漆 仕上げ    | 29. 課題2 研究発表と討議          |
| 15. 課題1 研究発表と総括        | 30. 総括                   |

定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当する工芸専攻教員に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（20%）、課題制作（80%）で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

課題の完成度、独創性は評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 : 特になし

□テキスト : 講義中に配布する。

□参考文献 : 授業中に教授する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23336	工芸演習 A	2 単位 前期	2~3	演習	工芸専攻教員

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成30年度以降の入学者に開講

■テーマ 工芸的表現・素材の研究

### ■授業の概要

美学・芸術学および美術史学の研究対象となる「工芸」制作の実際について、理解を深め、作品を制作する。

### ■到達目標

- ・ 工芸（染・織・陶・漆）の素材、機材、道具、技法を理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 研究発表や中間報告において、作品のコンセプトや内容を合理的に論述することができる。

### ■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

1. オリエンテーション
2. 工芸（染・織・陶・漆）の歴史と作品鑑賞
3. 素材・機材・道具の歴史と作品鑑賞
4. 技法の歴史と作品鑑賞
5. 課題の解説と主題の設定
6. 習作 モチーフ選定、スケッチ
7. 習作 図案の制作
8. 習作 染・織・陶・漆 仕上げ
9. 課題制作 モチーフ選定、スケッチ
10. 課題制作 図案の作成
11. 課題制作 素材、技法の理解
12. 課題制作 染・織・陶・漆 中間発表と講評
13. 課題制作 染・織・陶・漆 修正
14. 課題制作 染・織・陶・漆 仕上げ
15. 研究発表と総括（自己評価と講評）  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当する工芸専攻教員に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（20%）、課題制作（80%）で総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
課題制作の完成度、独創性は評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書：特になし
- テキスト：講義中に配付する。
- 参考文献：授業中に指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23337	工芸演習B	2単位 後期	2～3	演習	工芸専攻教員

※ 芸術学専攻のみ履修可能

※ 平成30年度以降の入学者に開講

■テーマ 工芸的表現・素材の研究

### ■授業の概要

美学・芸術学および美術史学の研究対象となる「工芸」制作の実際について、理解を深め、作品を制作する。

### ■到達目標

- ・ 工芸（染・織・陶・漆）の素材、機材、道具、技法を理解し、それらを用いて作品を制作することができる。
- ・ 主題に合ったモチーフを選び、それを造形化することができる。
- ・ 研究発表や中間報告において、作品のコンセプトや内容を合理的に論述することができる。

### ■授業計画・方法

履修者の研究計画に応じ、担当の教員が個別に週に2コマ相当の指導を行う。

1. オリエンテーション
2. 工芸（染・織・陶・漆）の歴史と作品鑑賞
3. 素材・機材・道具の歴史と作品鑑賞
4. 技法の歴史と作品鑑賞
5. 課題の解説と主題の設定
6. 習作 モチーフ選定、スケッチ
7. 習作 図案の制作
8. 習作 染・織・陶・漆 仕上げ
9. 課題制作 モチーフ選定、スケッチ
10. 課題制作 図案の作成
11. 課題制作 素材、技法の理解
12. 課題制作 染・織・陶・漆 中間発表と講評
13. 課題制作 染・織・陶・漆 修正
14. 課題制作 染・織・陶・漆 仕上げ
15. 研究発表と総括（自己評価と講評）  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修希望者は履修登録前に、芸術学専攻の教務担当教員に申し出ること。また、担当する工芸専攻教員に履修指導を受けること。作品の制作に十分な時間をとること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（20%）、課題制作（80%）で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

課題制作の完成度、独創性は評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 : 特になし

□テキスト : 講義中に配付する。

□参考文献 : 授業中に指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
22202	金属演習	2単位 後期	2~4	演習	河原 圭佑 吉田 香世(非)

※ 彫刻専攻を除く。

#### ■テーマ 鉄材による表現

#### ■授業の概要

鉄材を中心とした金属素材の溶接・溶断・切断・研磨・鍛造等の実技を通して、金属造形の基本的な技術と表現方法を学ぶ。併せて、ガス・アーク溶接における安全知識を修得する。

#### ■到達目標

- ・ 金属素材の特性を理解し、基本的な金属加工技法を修得する。
- ・ 自由な発想で主題を設定し作品にできる。

#### ■授業計画・方法

1. ガイダンス、ドローイング：自由に作品の主題を設定し構造を考える。(彫刻棟1 講義室)
2. アーク溶接の基本（鉄材）
3. ガス溶接・溶断の基本（鉄材）
4. 大型金属工作機械操作の基本
5. 溶接技能安全講習
6. 制作プレゼンテーション：ドローイングを基に作品のテーマを発表する。
7. 制作1：自己のテーマによる作品構想
8. 制作2：材料準備、鉄材の裁断
9. 制作3：金属彫刻における構造、重心、バランスの把握（安全性）
10. 制作4：ドローイング等を基に、作品構想と表現の実際の検証
11. 制作5：制作の継続、スライド及び参考作品鑑賞（日本を中心に）
12. 制作6：制作の継続（作品構成の検証、細部の制作）、表現における素材・技法についての理解
13. 制作7：全体と細部の検討、作品の設置構想（安定性、安全性）
14. 制作8：仕上げ・腐蝕、着色（サビ付け・黒鉛付け・磨き）
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、掃除  
定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 危険防止による作業に適した服装で臨むこと。（事前及び授業中に適宜指示する）
- ・ 金属素材を用いた制作や加工で金属工房を使用する予定のある学生は本演習を受講しておくこと。

#### ■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果物（ドローイング1点、作品1点）60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
作品の完成度、独創性は評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 『アーク溶接等作業の安全 厚生労働省安全課編』（中央労働災害防止協会）（入手方法は指示する。）
- テキスト プリント「鍛造の金属造形の技法」
- 参考資料 学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23125	芸術心理学	2単位 後期 集中	1~4	講義	川田 都樹子 (非)

■テーマ アートセラピー (芸術療法) の概説と再考

### ■授業の概要

アートセラピーは心理学に関わる治療法の一分野としてすでに日本でも幅広く実施されている。また、セラピー的効果を謳うような芸術的な実践も多く、一般に、「芸術作品の制作行為には人の心を癒す力がある」と信じられている。しかし、もしそうであるなら、芸術家に心を病む人はいないはずだ。どうしてそうではないのだろうか？

この授業では、「芸術」＝「癒し」という短絡的な発想が、臨時的にもいかに危険なものであるかをまず知ってもらおう。芸術療法に関する正しい知識をもつことの重要性を学びつつ、制作行為が治療的効果を持ちうる場合、その理由を考察する。そのために、美術史や近現代の芸術家たちの事例も参照する。

また、「風景構成法」や「コラージュ療法」の理解のために、実際に制作と分析も体験し、自分自身の「こころ」と向き合う体験もしてもらう。

### ■到達目標

- ・芸術療法に関する基本的な知識を体系的に正しく理解している。
- ・著名な芸術家の作例から、芸術制作が「こころ」の治療につながる理由とその条件を論理的に思考することができる。
- ・人間の「こころ」と芸術との関係について考察し、自分の言葉で語る (コミュニケーションする) ことができる。

### ■授業計画・方法

1. 心理学史における「イメージ」(芸術) の位置 (導入)
2. 2つの世界大戦と芸術療法の歴史的関係/エイドリアン・ヒル (画家) を中心に
3. 臨床における描画: 絵画療法の諸相
4. 「風景構成法」入門 (分析用モデルの制作体験)
5. 「風景構成法」の概説と、「ふりかえり」としての作品の自己分析
6. 「風景構成法」概説: 人間による「風景」の認識とは? (統合失調症を考える)
7. 透視図法 (線遠近法) による空間把握の意味するもの (ルネサンス絵画を例に)
8. 近現代芸術に見る「風景画」の消失・解体が意味するもの
9. 事例としてのロバート・スミソン (アースワークの作家) /現代人の「アイデンティティ」の危機
10. ジャクソン・ポロック (画家) の「精神分析ドローイング」をめぐって
11. 「芸術」か「病」か: 天才と狂気は紙一重?
12. 「コラージュ療法」入門 (分析用モデルの制作体験) [準備]コラージュにする素材を探して持参すること。(講義の1日目・2日目に説明します)
13. 「コラージュ療法」の概説と、「ふりかえり」としての作品の自己分析
14. 高村智恵子 (画家/詩人の妻) の「紙絵」をめぐって: 近代日本における「芸術療法」の黎明期
15. 芸術療法のアポリア: これからのアートセラピーを考える (定期試験は実施しない)

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・色鉛筆セット (12色程度で構いません)、ハサミを各自で用意して来てください。
- ・授業時に配布するテキストと参考資料を、次回授業までに十分に読み込んでおくこと。
- ・下に挙げる参考文献全体を熟読し、予習・復習に利用して下さい。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 制作品についての分析的「ふりかえり(作文)」(20点×2回)。各授業日の終わりに、授業評価アンケートとともに短い感想文を書いていただきます (10点×3回)。講義時の聴講態度を平常点として評価します (30点)。授業回数の1/3を欠席した場合、評点は「不可」になります。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

※芸術療法では、作品の完成度や芸術的クオリティは一切問題にしません (作品の良し悪しを評価するものではありません) ので、この授業でも、分析用モデルとして制作する作品の良し悪しは評価の対象とせず、制作後の「ふりかえり」において、自分自身の「こころ」と、いかに深く真剣に向き合うことが出来たかという点を評価します。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 使用しません。

□テキスト 授業中にプリントを配布します

□参考文献 川田都樹子・西欣也編『アートセラピー再考—芸術学と臨床の現場から』、平凡社、2013年。(市販本。付属図書館所蔵)

□参考資料 教員が作成した図表等を資料として授業中に適宜配布します。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23126	芸術学	2単位 前期 集中	1~4	講義	佐藤 守弘 (非)

## ■テーマ 視覚文化を読み解く：メディア・記号・表象

### ■授業の概要

本講義では、視覚文化論（ヴィジュアル・カルチャー・スタディーズ）という研究分野を概観する。「視覚文化」には、いわゆる美術のほか、写真、映画、テレビ、広告、マンガ、ファッション等、幅広い対象が含まれる。私たちはこうした視覚的イメージを、どのようにして見、どのようにして理解しているのだろうか。私たちを取り巻くこうした視覚文化の数々を読み解くための方法を、さまざまな実例とともに考えたい。

### ■到達目標

- ・(1)「視覚文化」という概念についての理解を深めることができる
- ・(2)視覚文化論に関わる基礎的なさまざまな理論を理解できる
- ・(3)さまざまな実例に即して視覚文化を考えることができる

### ■授業計画・方法

1. イントロダクション：視覚文化とは
2. 視覚文化をどのように考えるのか：社会のなかでのイメージ
3. 「文化」とは一体何なのか：共有された意味としての文化
4. メディウムとメディア：文化と媒介
5. 記号と表象：意味とコンテキスト
6. 写真の記号論：痕跡とインデックス
7. デスマスク、影絵、聖顔布：痕跡の系譜
8. 遺影写真とヴァナキュラー写真
9. ヴァナキュラー文化論
10. ブリコラージュと「野生の思考」
11. ストリートとサブカルチャー：流用・転用・ブリコラージュ
12. 路上の系譜：考現学から路上観察学へ
13. 鉄道の視覚文化
14. 都市とイルミネーション：電気の視覚文化論
15. まとめ  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・講義前に講義情報ウェブ・ページ ([http://d.hatena.ne.jp/satow\\_morihiro/](http://d.hatena.ne.jp/satow_morihiro/)) に掲載される情報を元に講義の流れを掴んでおくこと。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 授業参加度 40% レポート 60%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト なし

□参考文献 講義内で指示する

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23136	デザイン史	2単位 前期 集中	1~4	講義	藤田 治彦 (非)

■テーマ 19-20世紀の近代デザインを中心にデザインの歴史を理論と実践から把握

### ■授業の概要

近代デザインの先駆者ウィリアム・モリスから、近代デザインの最初のもっと重要な教育機関バウハウスを経て、現代まで、デザインの歴史を理解し、造形芸術の専門家やその歴史と理論の研究教育者とも積極的に語り合える、知識と興味を養う。

### ■到達目標

- ・近代デザインの歴史を体系的に理解する。
- ・近代デザインと近代美術、近代工芸、近代建築との関係のおもな概要を理解する。
- ・近代デザイン史上の文脈から現代デザインについて考える力を養う。

### ■授業計画・方法

1. 「デザイン」と近代デザインの先駆者
2. モリス・マーシャル・フォークナー商会
3. モリス商会と古建築物保護協会
4. ケルムスコット・プレス
5. 芸術労働者組合とアーツ・アンド・クラフツ展覧会
6. 分離派、アール・ヌーボー、アール・デコ
7. ドイツ工作連盟
8. フランク・ロイド・ライトと日本（浮世絵から民藝運動まで）
9. バウハウス
10. ロシア構成主義とデ・ステイル
11. ニュー・バウハウスと20世紀半ばのデザイン教育
12. ミッド・センチュリー・デザイン（盛期のモダン・デザイン）
13. ポストモダニズムと脱構築主義
14. ミュージアム・デザイン
15. 最終レポート（第1日目と第2日目にはレポートを宿題として執筆し翌日提出、第3日目の15回目最終授業時間に最終レポートを講義室内で書いて提出する。）

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・教科書にはデザイン史上重要な年表や興味深い作品の図版が多数掲載されているので、予習・復習に十分用いること。
- ・各日各回の授業終了時に指示するページやテーマの内容を、各自の興味に従って十分に読んでおくこと。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(30%)、第1日目宿題レポート(20%)、第2日目宿題レポート(20%)、第3日目最終レポート(30%)。  
平常点は授業への参加状況、レポートは第1日目と第2日目の主題への対応によって評価し、第3日目の最終レポートを加えて、評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 藤田治彦『ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ』東京美術
- テキスト 藤田治彦『現代デザイン論』昭和堂
- 参考文献 藤田治彦『ウィリアム・モリス 近代デザインの原点』鹿島出版会

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23137	工芸史	2単位 前期 集中	1~4	講義	山崎 剛 (非)

■テーマ 工芸史—日本工芸を中心とする概説—

### ■授業の概要

アジアの東端に位置する日本では、地域的特性を反映したさまざまな工芸品が制作されてきた。本講義ではその歴史を、「宗教空間を荘厳する」「食のうつわを楽しむ」「身のまわりをかざる」「西洋世界と交流する」「近代における工芸を考える」「現代における工芸を考える」という六つのテーマにそって講義する。使用する画像は、可能な限り漆工・金工・陶磁・染織等の各工芸分野の作品を網羅し、また中国など近隣諸国の作品や西洋の作品もあわせて紹介する。授業中、討論の時間を設けて意見交換も行う。

### ■到達目標

- ・古代から現代に至る日本工芸史の流れを把握し、理解する。
- ・日本工芸史を論理的に解説するための思考力を身につける。
- ・日本工芸史の魅力について、自分なりの考えを言語化する。

### ■授業計画・方法

1. 「宗教空間を荘厳する」① 仏教の伝来と造形／キリスト教とイスラム教
2. 「宗教空間を荘厳する」② 神々の調度／祭礼のつくりもの
3. 「食のうつわを楽しむ」① 茶の歴史と道具類／陶磁器いろいろ／漆器いろいろ
4. 「食のうつわを楽しむ」② 西洋の食文化とアンティーク
5. 総括と討論：「宗教空間を荘厳する」「食のうつわを楽しむ」
6. 「身のまわりをかざる」① 戦国武将の美意識／江戸時代のファッション
7. 「身のまわりをかざる」② 琳派のデザイン／化粧道具と文房具
8. 「西洋世界と交流する」① 大航海時代のめぐみ／輸出された漆器
9. 「西洋世界と交流する」② 輸出された磁器／西洋貴族のコレクション
10. 総括と討論：「身のまわりをかざる」「西洋世界と交流する」
11. 「近代における工芸を考える」① ジャポニスムと工芸／工芸作家の誕生
12. 「近代における工芸を考える」② モダン・デザインの流行／伝統という価値観
13. 「現代における工芸を考える」① 第二次世界大戦以後の工芸
14. 「現代における工芸を考える」② 工芸をめぐる制度（重要無形文化財、伝産法など）
15. 総括と討論：「近代における工芸を考える」「現代における工芸を考える」

定期試験は実施しない。

毎日の講義の最後にテーマに沿ったレポートを執筆し提出することを課す（毎回1200字程度）。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・受講前に工芸史関係の書物を何かひとつでも読み、この分野に対する認識を高めておくことを望む。
- ・授業中の問いかけに対して、積極的に発言できるように、各自が自分なりの考えをまとめておくことを望む。
- ・毎日の講義の最後にレポートを執筆することに留意して、授業中は常にメモを取りながら聴講されたい。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（40%）、レポート（60%）

平常点は3日間の授業への参加度等で総合的に評価する。レポートは三つのレポートを総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

「優」＝講義内容をよく理解し、論理的に思考し、有意義な見解を提示することができている。

「良」＝講義内容をよく理解し、論理的に思考することができている。

「可」＝講義内容を理解することができている。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 特に指定しない。
- テキスト 適宜、レジュメ等を配布する。
- 参考文献 画像で作品を明示しながら講義する。

23138	絵画史（隔年開講）	2単位 後期 集中	1～4	講義	沢山 遼（非）
-------	-----------	--------------	-----	----	---------

■ **テーマ** 20世紀の絵画（および芸術）がはらむ、多様な問題についての検討。

### ■ 授業の概要

主として20世紀以降の絵画とその理論的な背景について、多くの視覚資料を提示し、複数の作品を比較検討しながら考察する。芸術研究・批評の出発点にあるのは、作品に孕まれた諸要素の密かな照応と類縁関係を見だし、その内在的な構造を理論的に把握することである。授業では、具体的かつ感性的な作品経験に、客観的な裏付けと明証性を与えていくプロセスを研究・批評の根本的な立場と考え、論理的に芸術作品を分析し、その成果を言語的に運用するための技術と方法を学ぶ。

### ■ 到達目標

・近現代の絵画作品についての基本的な理論構成や概念、歴史的背景を学び、美術をはじめとする視覚表象に対する読解能力を高める。

### ■ 授業計画・方法

1. 導入
2. ピカソ、ブラック、マティス
3. ジャクソン・ポロック、バーネット・ニューマン
4. ジョセフ・アルバースとアニ・アルバース
5. ロイ・リクテンシュタイン
6. アンディ・ウォーホル
7. イサム・ノグチ、バックミンスター・フラー
8. ロバート・ラウシェンバーグ、ジャスパー・ジョーンズ、サイ・トオンブリー
9. マックス・エルンスト、マルセル・デュシャン、ジャコメッティ
10. 福沢一郎、香月泰男、浜田知明
11. 抽象表現主義
12. コンセプチュアル・アートとミニマリズム
13. アケイロポイエシスの近代
14. 網状都市論
15. まとめ。定期試験は実施しない。

### ■ 履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・授業内容の理解のためにも、積極的な姿勢で臨むこと。

### ■ 成績評価の方法・基準

- **方法** 平常点（授業への参加度、コメントペーパー提出状況等）による総合的判断。
- **基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■ 教科書・参考文献（資料）等

- **参考文献** 個別のテーマに関しては適宜指示します。下記の文献は参考資料です。
  - ・Hal Foster, Rosalind Krauss, Yve-Alain Bois, Benjamin H. D. Buchloh. Art Since 1900: Modernism, Antimodernism, Postmodernism. London: Thames & Hudson, 2004.

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23141	書道史	2単位 前期	1～4	講義	比嘉 良勝（非）

■テーマ 中国書道史（各書体の変遷と仮名の考察）

■授業の概要

中国における文字の成立過程及び、各書体への変遷、特徴を理解し日本独自の仮名への発展を考察する。  
また、主要な時代の書跡（拓本・文物・刻印等）の鑑賞を通して書の歴史を文化的に捉える。

■到達目標

- ・漢字の変遷、各書体の造形的特徴を理解し、書文化についての知識を高める。
- ・漢字から日本独自の仮名への発展を学習する。

■授業計画・方法

- 第1回 オリエンテーション、漢字の成り立ち、拓本について
- 第2回 殷代の書
- 第3回 周・春秋・戦国時代の書
- 第4回 秦代の書
- 第5回 前漢時代の書
- 第6回 後漢時代の書
- 第7回 三国・晋代の書
- 第8回 南北朝時代の書
- 第9回 随・唐代の書
- 第10回 唐代の書
- 第11回 宋・明・清代の書
- 第12回 仮名の考察
- 第13回 印の考察（1）
- 第14回 印の考察（2）
- 第15回 まとめ レポート提出（定期試験は実施しない）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・予習・・・事前に教科書と配布する資料を読んでおく。
- ・復習・・・授業で学習した範囲は必ず復習し学習の確認をする。特に配布する図版資料を活用し、古典の書を視覚的に分析、理解できるようにする。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点・・・40% 期末レポート・・・60%  
（平常点は授業への参加状況でコメントペーパーの提出状況等で評価する）

□観点・基準

- ・漢字の成立、変遷を時代に沿って理解できているか
- ・漢字の各体（篆・隸・草・行・楷）の造形的特徴、漢字から仮名への発展を理解しているか

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 授業時にプリントを配布する。
- テキスト 特になし
- 参考文献 藤原鶴来 著『和漢書道史』二弦社  
西川寧 編『書道講座』二弦社  
伏見沖敬 著『書の歴史 中国篇』二弦社、『中国書道全集』平凡社

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23142	現代芸術論 A	2 単位 後期 集中	1~4	講義	河本 真理 (非)

■テーマ 西洋近現代美術の諸相

■授業の概要

西洋近現代美術（主に 20 世紀美術）の諸相を、年代順に追うのではなく、鍵となる概念（抽象、コラージュ、総合芸術作品、偶然、複製とアウラ…）を通して浮かび上がらせます。西洋近現代美術についてテーマ別に論じる授業です。

■到達目標

- ・西洋近現代美術の基礎的な概念と批評言語をおさえます。
- ・西洋近現代美術の歴史的な文脈（コンテキスト）を理解します。
- ・それらを理解したうえで、自分自身の問題意識につなげて考察します。

■授業計画・方法

1. [イントロダクション] 近代以前の美学
2. [準備段階] 20 世紀美術の通史的概観
3. モダニズムと平面性
4. 抽象美術の誕生
5. 戦後抽象美術の諸問題
6. コラージュとは何か
7. パウル・クレーの「切断（分割）コラージュ」
8. 偶然の戦略
9. 言語としての芸術
10. イメージと文字
11. 「総合芸術作品」の理念
12. クルト・シュヴィッターズとメルツバウ
13. アッサンブラージュと空間の拡張
14. プリミティブ：西洋美術の「他者」
15. 複製とアウラ

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』の該当する部分や、高階秀爾『近代絵画史（上・下）』（特に下巻）をあらかじめ読んで、通史の大まかな流れを理解しておく、テーマ別の講義を一層理解しやすくなります。講義の後、受講者が各自興味を持ったテーマについて、指示された参考文献等を読んで調べることが望ましいです。

■成績評価の方法・基準

□方法 レポート（80%）、平常点（20%）。授業中に扱った内容から興味のあるテーマを選び、必ず具体的な作品分析を踏まえたレポートを提出すること。註・参考文献を明記し、インターネットのサイトからのダウンロードは不可。図版・キャプションも付けること。平常点は授業への参加状況で評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

- ・西洋近現代美術の基礎的な概念と批評言語を理解しているか。
- ・西洋近現代美術の歴史的な文脈を理解しているか。
- ・それらを自分自身の問題意識につなげて考察しているか。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 『葛藤する形態—第一次世界大戦と美術』河本真理、人文書院

□テキスト なし

□参考文献 『西洋美術の歴史』中央公論新社

『カラー版 西洋美術史』高階秀爾監修、美術出版社

『近代絵画史（上・下）』高階秀爾、中公新書

『装飾／芸術—19-20 世紀のフランスにおける「芸術」の位相』天野知香、ブリュッケ

『切断の時代—20 世紀におけるコラージュの美学と歴史』河本真理、ブリュッケ

詳しい参考文献は、授業中に適宜指示します。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23143	現代芸術論B	2単位 前期 集中	1~4	講義	倉石 信乃 (非)

■テーマ 1960-70年代の視覚芸術-中平卓馬の実作と批評から

### ■授業の概要

中平卓馬(1938-2015)は、1960年代後半から十数年にわたり、時代の先鋭的な写真家として活動する傍ら、多くの問題提起的な論考を執筆した映像批評家として知られています。批評家としての活動は1977年に病となり、記憶に機能障害が残った後には途絶しましたが、それまでに残された中平のテキストの中には、今日の写真や映画、美術を考察するための基礎となる問いかけが多く含まれています。また、彼が批評を執筆した1960年代後半からの10年ほどの時期は、日本だけでなく世界の写真、映画、美術にとっての大きな転換期でもあり、それらは社会と政治のラディカルな運動の高揚とも連動するものでした。中平の写真と批評の実践は、そうした運動とも深く関わる時代性と批判精神を伝えています。

この授業では、中平卓馬自身の写真表現の展開をたどるとともに、彼の批評の中で取り上げられた視覚文化を中心とする事象を併せて考察の対象とします。さらには、1970年の安保改定と大阪万博、1972年の沖縄の施政権の「返還」など、時代を画した出来事の意味を、中平の写真と批評を手がかりに探ります。

### ■到達目標

- ・中平卓馬とその作品について、基礎的な理解を獲得すること。
- ・1960-70年代の社会や政治と、写真・映像メディアとの関わりについて、基礎的な理解を獲得すること。
- ・上記の時代における写真・映像・美術など視覚文化の展開について、基礎的な理解を獲得すること。

### ■授業計画・方法

1. イントロダクション
2. 写真家としての中平卓馬 1
3. 写真家としての中平卓馬 2
4. 写真家としての中平卓馬 3
5. 写真史としての中平卓馬 4
6. 写真史との関連から 1
7. 写真史との関連から 2
8. 都市・建築との関連から 1
9. 都市・建築との関連から 2
10. 映画との関連から 1
11. 映画との関連から 2
12. 映画との関連から 3
13. 美術との関連から 1
14. 美術との関連から 2
13. 自然・エコロジーとの関連から 1
14. 自然・エコロジーとの関連から 2
15. 定期試験および解説・まとめ。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・指定し、配布するテキストを授業の前後で読んでおくこと。
- ・インターネットなどを通じて授業で扱った事項を復習すること。
- ・毎回の授業では時折発言を求めるので、積極的に授業に参加すること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 試験 70%、平常点(授業への参加度)30%として、合計 60%以上の評点を得た者を合格とする。試験には細かな知識を問う問題ではなく、前述した学習目標の到達度を図る基本問題を提出する予定。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書・テキスト 特に定めない。

□参考文献 中平卓馬『なぜ、植物図鑑か-中平卓馬映像論集』(ちくま学芸文庫、2007年)。篠山紀信・中平卓馬『決闘写真論』(朝日新聞社、1977年)を主要な参考文献として使用する。少なくとも前者は現在でも市販されているため、入手しておくことが望ましい。その他、必要に応じて文献を配布する予定。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23145	一般芸術学	2単位 後期	1~4	講義	喜屋武 盛也

■テーマ 「ドイツ美術史」をめぐる諸問題

■授業の概要

ドイツ近代美術の歴史を概観しつつ、「ドイツ美術史」が抱える理論的、思想史的諸問題等について考察する。

■到達目標

・ドイツ美術史の大枠をつかみながら、そうした歴史構築に対して批判的検討を加えることができるようになる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、イントロダクション
2. 「ドイツの建築」：ゲーテ
3. ナショナリズムと芸術：ゲーテとヘルダー
4. 北方的形式
5. ロマン主義のドイツ：ルンゲ、フリードリヒ
6. ロマン主義のドイツ：聖ルカ同盟
7. 美術館、美術史の誕生
8. 『教育者レンブラント』
9. 芸術の都ミュンヘン
10. ウィーン美術の国際性と二重帝国
11. 「ドイツの芸術家の抗議」
12. バウハウスと近代デザイン
13. 退廃芸術展と大ドイツ芸術展
14. 戦後のドイツ：ヨーゼフ・ボイスの実践
15. 回顧と展望／定期試験

※最新の計画表についてはガイダンスにて提示・説明する。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・通史的に美術史を直接講じる授業ではないが、理解を深めるためには、ドイツ美術の作例に積極的に触れておくこと（『西洋美術史カラー版』702.3/Se19、『西洋美術史ハンドブック』702.3/Ta54）。

■成績評価の方法・基準

□方法 レポート提出（50%）、提出されたレポートをもとにした口述試験（50%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト なし

□参考文献 ヘルベルト・フォン・アイネム『ドイツ近代絵画史』（岩崎美術社、723.34/E39）、  
藤縄千州編『ドイツ・ロマン派画集』（国書刊行会、723.05/D83）、  
ハンス・ベルティング『ドイツ人とドイツ美術』（晃洋書房、702.34/B33）  
〔ほか、授業中に必要に応じて紹介する〕

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23146	日本美術史	2単位 前期	1~4	講義	小林 純子

■テーマ 日本美術通史

### ■授業の概要

日本美術の歴史を古代から現代まで通覧し、担当教員の学芸員としての実務経験を活かして、各時代の美術の様式的特徴と変遷を教えます。さらに、それらを生み出した政治や経済、宗教などの歴史的背景、当時の人々の美意識を理解させ、日本美術史の基礎的な知識を身につけさせます。

### ■到達目標

- ・代表的な作品の形状を把握し、基本的な情報（作品名・作家名・所蔵寺院・制作年代）を正確に記すことができる。
- ・各時代の美術の様式およびその変遷、時代背景、美意識の特徴などを理解し、自分の意見を交えて論述することができる。

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション、美術史における「様式」について
2. 縄文・弥生・古墳時代：土器と装飾古墳
3. 飛鳥・奈良時代：仏教美術の始まり
4. 平安時代（前期）：密教美術と木彫の展開
5. 平安時代（後期）：王朝美術と浄土教美術
6. 鎌倉・南北朝時代：鎌倉彫刻と肖像
7. 室町時代：水墨画の盛行
8. 桃山時代：戦国の世の美術
9. 江戸時代（1）：文人画と京都の絵画
10. 江戸時代（2）：江戸の出版文化と浮世絵
11. 明治時代：西洋美術の輸入
12. 大正時代・昭和前期：モダニズムと戦争画
13. 昭和後期～現代（1）：アヴァンギャルドとアンフォルメル
14. 昭和後期～現代（2）：ポストモダニズムの美術
15. 定期試験およびまとめ

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・授業前に教科書を読み、予習しておくこと。
- ・講義中にスライドで鑑賞した作品を画集やWeb上の画像データベース等で再確認すること。
- ・各時代の要点や主要作品について、ノートを作成して復習すること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（20%）、学期末試験（80%）で総合的に評価します。

筆記試験は前学期期末試験期間中に行い、教科書・ノート・辞書等は持ち込み不可とします。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価します。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：山下裕二・高岸輝監修『日本美術史』美術出版社、2014年、3,000円。

（学期始めに大学に特設される販売所で購入できます。）

□テキスト：講義中に配布するスライドリスト・地図・年表等のプリント。

□参考文献：特になし。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23147	東洋美術史	2単位 前期	1~4	講義	金 恵信

■テーマ 東アジア漢字文化圏の前近代美術

■授業の概要

韓国・朝鮮半島と中国の前近代美術を周辺地域との交流を視座に入れながら概観する。

■到達目標

- ・ 「東洋」という言葉の意味を美術の側面から把握する。
- ・ 韓国と中国の前近代の美術作品をとおして、漢字文化圏の歴史と文化についての理解を深める。
- ・ 該当地域と博物館を訪れた際、周辺地域との歴史と関係性を踏まえて作品を見るまなざしを身につける。

■授業計画・方法

1. ガイダンス。授業全体についての説明
2. 「東洋美術」という概念
3. 韓国 三国時代①：高句麗古墳群
4. 韓国 三国時代②：百済と新羅の美術
5. 韓国 統一新羅美術：都慶州の都市空間
6. 韓国 高麗の美術：高麗青磁
7. 韓国 高麗の美術：高麗仏画
8. 韓国 朝鮮王朝の美術：李朝白磁
9. 韓国 朝鮮王朝の美術：絵画
10. 中国 敦煌と雲崗石窟①
11. 中国 敦煌と雲崗石窟②
12. 中国 敦煌と雲崗石窟③
13. 中国 明の絵画と工芸
14. 中国 清の絵画と工芸
15. 授業のまとめ 定期試験は実施しない

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 前もって配付する資料を熟読し、示される作品に参考文献で探して一度見ておく。
- ・ 美術作品をもって、地域の歴史と文化を考える視点を心がける。

■成績評価の方法・基準

□方法 レポート70%・平常点20%・コメントペーパー10%で総合的に評価する。

□基準 韓国と中国の前近代美術を、学習目標で挙げた視点で理解できたかと基準に評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特になし

□テキスト 授業中配付するプリント

□参考文献 前田耕作『カラー版東洋美術史』美術出版社（芸術学専攻図書室所蔵）

『世界美術大全集 東洋編』3-11巻、小学館、1997~2001年（芸術学専攻図書室所蔵）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23148	西洋美術史 A	2 単位 前期	1~2	講義	尾形 希和子

### ■テーマ

美術の発生、各時代・地域の美術の機能・様式などについて政治、経済、宗教、文化などの背景に照らし合わせて考察する。

### ■授業の概要

映像やパワーポイントの画像を通して原始美術から 18 世紀までの西洋美術全体の流れを辿る。

### ■到達目標

西洋美術の流れを理解し、自分自身の言葉で各時代の美術の特徴を説明できるようにする。

様々な視点から美術を考察することで、既に自分自身が知っていると思っていたことについても新たな発見や疑問を呈することができるようにする。

### ■授業計画・方法

- 1) イントロダクション、原始美術
  - 2) 古代オリエント美術
  - 3) ギリシャ美術、地中海美術
  - 4) エトルリア美術
  - 5) ローマ美術
  - 6) 初期キリスト教美術
  - 7) 初期中世美術、ビザンチン美術
  - 8) ロマネスク美術
  - 9) ゴシック美術、初期ルネサンス美術
  - 10) 盛期ルネサンス美術
  - 11) 北方ルネサンス、マニエリスム美術
  - 12) アートの概念について(1)
  - 13) アートの概念について(2)
  - 14) バロック美術
  - 15) ロココ美術、まとめ
- 期末試験は行なわない

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

授業で扱う作品は限られているので、授業以外でも多くの作品を見るよう努めて欲しい。

毎回二種類の提出物を求めます。①前の回の授業で取ったノートのコピー (任意の用紙) ②課題のレポート (A4 用紙に 400 字以上)。15 回分のうち最低 3 分の 2 は提出すること。

課題のレポート作成の際に、専門家によらないものも多いインターネット上の情報に頼るのは勧めない。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 授業内容の理解度 (30%) と、毎回の課題の成績(70%)を合算して成績評価をする。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館 (学内教科書販売で購入)

□参考文献 E.H. ゴンブリッチ『美術の歩み』[上][下] (本学図書館蔵)

高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』美術出版社 (本学図書館蔵)

グザヴィエ・バラル・イ・アルテ『美術史入門』(文庫クセジュ) 白水社

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
23149	西洋美術史B	2単位 後期	1～4	講義	土屋 誠一

■テーマ 近代以降の西洋美術史の流れを概説する。

### ■授業の概要

担当教員の美術批評家としての実務経験を活かした講義を通じ、編年的に、各時代様式や芸術思想の特徴、主要な芸術家とその作品について概説する。実践的な歴史知識を身につけることで、美術史に対する受講者の主体的アプローチを可能とすることを目的とする。

### ■到達目標

西洋近代美術史の歴史と理論について理解することを目標とする。

### ■授業計画・方法

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 新古典主義、ロマン主義、レアリズム
- 第3回 印象主義
- 第4回 後期印象主義、新印象主義
- 第5回 象徴主義
- 第6回 アール・ヌーヴォー、表現主義
- 第7回 フォーヴィスム
- 第8回 キュビスム
- 第9回 構成主義
- 第10回 ダダ、シュルレアリスム
- 第11回 抽象表現主義
- 第12回 ポップ・アート
- 第13回 ミニマル・アート
- 第14回 その後の流れ
- 第15回 定期試験

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

ヴィジュアル資料を多く用いて進めていくが、ただ受動的に漫然と話を聞くだけならば、受講しても無意味である。芸術を考えるために必要な話題を、講義中に様々なかたちで提示していくので、そこから各自の関心に応じて、主体的に問題意識を汲み取って欲しい。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 受講態度 (20%)、学期末試験 (80%)

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。予習復習含め、学習した知識の蓄積を重視するので、学期末試験を重視する。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 特になし

□テキスト 特になし

□参考文献 高階秀爾監修『[カラー版] 西洋美術史 (増補新版)』美術出版社、2002年

科目コード 授業科目名 単位数・学期 受講年次 授業区分 担当教員名

24131	建築史	4単位 通年	1~4	講義	金城 優 (非) 未定
-------	-----	--------	-----	----	----------------

※ 平成28年度以前入学生のみ受講可。

## ■テーマ

西洋、日本の建築造形を通して、歴史・文化・風土を学ぶ。

## ■授業概要

様々な歴史的建造物の造形は地域、時代により多様な展開をみせる。それらは如何に独創的で斬新な建築表現であっても、各地域、時代の要請を反映したデザイン表現が含まれているはずである。本講義は主として西洋、日本の建築造形を通して、建築造形の変遷に地域風土、文化、技術、材料など様々な背景が関わっていることを解説するものである。

## ■到達目標

建築造形の多様性のみならず、それらが歴史的に変遷してゆく過程を理解し、自らの専門領域との関係性を学ぶことが目的である。

## ■授業計画・方法

### [前半 西洋建築史] (金城 優)

- 1: 西洋建築史の概要、なぜ建築史を学ぶか
- 2: 古典建築 (ギリシャ、ローマとエーゲ海建築)
- 3: ビザンチン建築 (東ローマ帝国がもたらせた様式) アヤソフィア
- 4: ロマネスク建築、11 から 13 世紀の西ヨーロッパ建築様式
- 5: ゴシック建築、12 世紀後半から 16 世紀 ばら窓 カテドラル
- 6: ルネッサンス建築、14 世紀から 16 世紀 イタリア・フィレンツェ
- 7: バロックおよび新古典主義建築 16 世紀から 18 世紀
- 8: 19 世紀 20 世紀、ロンドン万博、アールヌーボー、新大陸アメリカ
- 9: 近代建築運動モダニズム、バウハウス
- 10: アントニオ・ガウディ
- 11: コルビジェ、アールト
- 12: モダニズムからポストモダン
- 13: フランク・ロイドライト
- 14: 地域主義
- 15: 現代環境都市とサステイナブル・シティ

### [後半 日本建築及び琉球建築史] (平良 啓)

- 1: 日本建築とは/日本建築の歴史の変遷と特徴/気候・風土、木の文化
- 2: 「琉球建築」とは/沖縄における建築の歴史の変遷と特徴/気候・風土、歴史
- 3: 神社建築/神社建築の様式、構造/神道、境内、社殿
- 4: 寺院建築/寺院建築の様式、構造/伽藍、塔、組物、装飾
- 5: 寝殿造/寝殿造の様式、構造/襖、畳、装束
- 6: 書院造/書院造の背景と意匠/床の間、違い棚、帳台構、装飾
- 7: 数寄屋造の意匠/数寄屋建築の背景/柱、天井、装飾
- 8: 茶室/茶室の成り立ちとその特徴/わび、さび、空間、素材
- 9: 城郭建築/城郭建築の意匠と構造/縄張り、郭、天守
- 10: 「琉球建築」の研究/廃藩置県後の調査・研究経緯/建築史家、古写真
- 11: 沖縄の木造建築物/木造建築物の特徴/木、雨端、瓦
- 12: 沖縄の石造建造物/石造建造物の特徴/石積、琉球石灰岩、アーチ
- 13: 沖縄の城(グスク) /沖縄のグスクの歴史の変遷と特徴/縄張り、城壁、アーチ
- 14: 「琉球建築」の復興/歴史的建造物の保存修理と復元事例/遺構、保存修理、復元
- 15: 首里城とその周辺巡見/首里城とその周辺施設の構成/復元、保存修理された施設

## ■履修上の留意点

本授業は通年であり、各地域、時代の意匠的背景はもとより歴史・文化的脈絡の理解が特に重要であり、継続的な学習が必要である。通年の授業方法等については初回に説明する。

理解のためにできる限り視覚教材および関連歴史資料を使用する。理解度を高めるために、毎回受講ノートを作成を課す。

## ■成績評価の方法・基準

□方法：授業態度及び受講ノートによる理解度を評価対象とする。受講ノート 70%、平常点 30%

□基準・具体的には以下の点を評価基準として成績評価を行う。

- ・質問など授業で積極的な参加をしたか。
- ・前向きに理解しようとする姿勢を示したか。

## ■教科書・参考文献（資料）等

### □参考文献

西洋建築史図集 改訂新版 日本建築学会編 彰国社刊 昭和 50 年

大図説世界の建築 Great Architect of the World 編集主幹：ジョン・ジューリアス・ノリッジ

小学館刊 昭和 52 年

西洋建築様式史 執筆：熊倉洋介・末永航・羽生修二・星和彦・堀内正昭・渡辺道治 美術出版社刊 2010 年

建築をめざして (SD 選書 21) ル・コルビュジェ (著), 吉阪 隆正 (翻訳) 1967 年

日本建築史図集 新訂第三版 日本建築学会編 彰国社刊 2011 年

新建築学大系 2 日本建築史 新建築学大系編集委員会編 彰国社刊 1999 年

琉球・沖縄の建築文化 沖縄県建設ユニオン編 琉球書房刊 2012 年

沖縄の石造文化 福島駿介著 沖縄出版刊 1987 年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24132	西洋建築史	2単位 前期	1～4	講義	金城 優 (非)

※ 平成 29 年度以降入学生のみ受講可。(ただし、絵画専攻、彫刻専攻を除く)

### ■テーマ

西洋の建築造形を通して、歴史・文化・風土を学ぶ。

### ■授業概要

様々な歴史的建造物の造形は地域、時代により多様な展開をみせる。それらは如何に独創的で斬新な建築表現であっても、各地域、時代の要請を反映したデザイン表現が含まれているはずである。本講義は、西洋の建築造形を通して、建築造形の変遷に地域風土、文化、技術、材料など様々な背景が関わっていることを解説するものである。

### ■到達目標

建築造形の多様性のみならず、それらが歴史的に変遷してゆく過程を理解し、自らの専門領域との関係性を学ぶことが目的である。

### ■授業計画・方法

- 1: 西洋建築史の概要、なぜ建築史を学ぶか
- 2: 古典建築 (ギリシャ、ローマとエーゲ海建築)
- 3: ビザンチン建築 (東ローマ帝国がもたらせた様式) アヤソフィア
- 4: ロマネスク建築、11 から 13 世紀の西ヨーロッパ建築様式
- 5: ゴシック建築、12 世紀後半から 16 世紀 ばら窓 カテドラル
- 6: ルネッサンス建築、14 世紀から 16 世紀 イタリア・フィレンツェ
- 7: バロックおよび新古典主義建築 16 世紀から 18 世紀
- 8: 19 世紀 20 世紀、ロンドン万博、アールヌーボー、新大陸アメリカ
- 9: 近代建築運動モダニズム、バウハウス
- 10: アントニオ・ガウディ
- 11: コルビジェ、アールト
- 12: モダニズムからポストモダン
- 13: フランク・ロイドライト
- 14: 地域主義
- 15: 現代環境都市とサステイナブル・シティ 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点

本授業は、各地域、時代の意匠的背景はもとより歴史・文化的脈絡の理解が特に重要であり、継続的な学習が必要である。授業方法等については初回に説明する。

理解のためにできる限り視覚教材および関連歴史資料を使用する。理解度を高めるために、毎回受講ノートの作成を課す。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法：授業態度及び受講ノートによる理解度を評価対象とする。受講ノート 70%、平常点 30%
- 基準：到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
  - ・具体的には以下の点を評価基準として成績評価を行う。
  - ・質問など授業で積極的な参加をしたか。
  - ・前向きに理解しようとする姿勢を示したか。

### ■教科書・参考文献(資料)等

#### □参考文献

- 西洋建築史図集 改訂新版 日本建築学会編 彰国社刊 昭和 50 年  
 大図説世界の建築 Great Architect of the World 編集主幹：ジョン・ジュリアス・ノリッジ  
 小学館刊 昭和 52 年  
 西洋建築様式史 執筆：熊倉洋介・末永航・羽生修二・星和彦・堀内正昭・渡辺道治 美術出版社刊 2010 年  
 建築をめざして (SD 選書 21) ル・コルビュジェ (著)、吉阪 隆正 (翻訳) 1967 年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24133	日本建築史	2単位 後期	1~4	講義	未定

※ 平成29年度以降入学生のみ受講可。(ただし、絵画専攻、彫刻専攻を除く)

### ■テーマ

日本の建築造形を通して、歴史・文化・風土を学ぶ。

### ■授業概要

様々な歴史的建造物の造形は地域、時代により多様な展開をみせる。それらは如何に独創的で斬新な建築表現であっても、各地域、時代の要請を反映したデザイン表現が含まれているはずである。本講義は、日本の建築造形を通して、建築造形の変遷に地域風土、文化、技術、材料など様々な背景が関わっていることを解説するものである。

### ■到達目標

建築造形の多様性のみならず、それらが歴史的に変遷してゆく過程を理解し、自らの専門領域との関係性を学ぶことが目的である。

### ■授業計画・方法

- 1: 日本建築とは／日本建築の歴史の変遷と特徴／気候・風土、木の文化
- 2: 「琉球建築」とは／沖縄における建築の歴史の変遷と特徴／気候・風土、歴史
- 3: 神社建築／神社建築の様式、構造／神道、境内、社殿
- 4: 寺院建築／寺院建築の様式、構造／伽藍、塔、組物、装飾
- 5: 寝殿造／寝殿造の様式、構造／襖、畳、装束
- 6: 書院造／書院造の背景と意匠／床の間、違い棚、帳台構、装飾
- 7: 数寄屋造の意匠／数寄屋建築の背景／柱、天井、装飾
- 8: 茶室／茶室の成り立ちとその特徴／わび、さび、空間、素材
- 9: 城郭建築／城郭建築の意匠と構造／縄張り、郭、天守
- 10: 「琉球建築」の研究／廃藩置県後の調査・研究経緯／建築史家、古写真
- 11: 沖縄の木造建築物／木造建築物の特徴／木、雨端、瓦
- 12: 沖縄の石造建築物／石造建築物の特徴／石積、琉球石灰岩、アーチ
- 13: 沖縄の城（グスク）／沖縄のグスクの歴史の変遷と特徴／縄張り、城壁、アーチ
- 14: 「琉球建築」の復興／歴史的建造物の保存修理と復元事例／遺構、保存修理、復元
- 15: 首里城とその周辺巡見／首里城とその周辺施設の構成／復元、保存修理された施設  
定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点

本授業は、各地域、時代の意匠的背景はもとより歴史・文化的脈絡の理解が特に重要であり、継続的な学習が必要である。授業方法等については初回に説明する。

理解のためにできる限り視覚教材および関連歴史資料を使用する。理解度を高めるために、毎回受講ノートの作成を課す。

### ■成績評価の方法・基準

□方法：授業態度及び受講ノートによる理解度を評価対象とする。受講ノート70%、平常点30%

□基準：到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

- ・具体的には以下の点を評価基準として成績評価を行う。
- ・質問など授業で積極的な参加をしたか。
- ・前向きに理解しようとする姿勢を示したか。

### ■教科書・参考文献（資料）等

#### □参考文献

- 日本建築史図集 新訂第三版 日本建築学会編 彰国社刊 2011年  
 新建築学大系2 日本建築史 新建築学大系編集委員会編 彰国社刊 1999年  
 琉球・沖縄の建築文化 沖縄県建設ユニオン編 琉球書房刊 2012年  
 沖縄の石造文化 福島駿介著 沖縄出版刊 1987年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24153	クラフトデザイン計画	2単位 集中(後期)	1~4	講義	高江洲淳子(非)

■テーマ クラフトデザインの意義や役割。

### ■授業の概要

デザイン分野におけるクラフトデザインについて、その歩み(歴史)を学ぶと共に、隣接するインダストリアル(工業)デザインや工芸との比較及び、各地におけるクラフトデザインを広く学習する。ものづくりの近代化から現代社会まで、クラフトデザインの意義や役割を考え、さらにこれからの可能性や価値について考察する。

### ■到達目標

- ・クラフトデザインに至る歴史の流れや背景について知識を深める。
- ・現代社会におけるクラフトデザインの意義や将来的な可能性について考える。
- ・各自の視点でクラフトデザインを考察し、ワークショップを通して、デザインプロセスの実践を学習する。

### ■授業計画・方法

以下のテーマに沿って、画像やプリント資料、参考作品等を用いて講義を行う。内容を変更する場合もある。

1. クラフトデザインの概念 (近代(モダン)デザインと伝統工芸の視点から考える)
2. クラフトデザインの領域 (デザイン分野の中のクラフトデザインの領域と隣接する分野について)
3. クラフトデザインの歩み (ものづくりの近代化とアーツ・アンド・クラフツ運動 等)
4. クラフトデザインの素材、技術
5. クラフトデザインの事例 (陶器、ガラス、木工などのクラフトデザインの実物(器類)を見て触って考える)
6. 近代、現代のクラフトデザイン (バウハウス、モダンデザインの椅子等を通してクラフトデザインを考える)
7. 北欧のクラフトデザイン(スカンジナビア・デザイン、フィスカルス・ヴィレージ、カイフランク、アアルト等)
8. 日本のクラフトデザイン(民芸運動、戦後の日本のクラフト、伝統工芸産地のクラフトデザイン)
9. 沖縄のクラフトデザインの可能性 (沖縄のクラフトデザインの現状と取組み等)
10. クラフトデザインの課題
11. クラフトデザインの社会的価値
12. ワークショップ1 (デザインプロセスの実践1: テーマ設定、グループによる話し合い)
13. ワークショップ2 (デザインプロセスの実践2: コンセプト)
14. ワークショップ3 (デザインプロセスの実践3: デザイン)
15. ワークショップ4 (デザインプロセスの実践4: プレゼンテーション (発表) レポート提出)

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・予習(宿題)は、ワークショップ(デザインプロセスの実践)に関すること。
- ・クラフトデザインを取り巻く物事や現象を事前に調べておく。
- ・受動的な学習態度でなく積極的な意見や質問等が必要。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点50%、レポート30%、ワークショップ(プロセス・発表)20%で、総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

- 教科書 配布するプリント
- テキスト 配布するプリント
- 参考文献 『日本のクラフト』社団法人日本クラフトデザイナー協会(学研)、『柳宗理 デザイン』柳 宗理 著(河出書房新社)、  
『アーツ・アンド・クラフツ〜ウィリアムモリス以後の工芸美術』スティーヴン・アダムス 著(美術出版社)、  
『日本の生活デザイン』日本インテリアデザイナー協会 監修(建築資料研究社)、『Kaj Franck-Universal Forms』DESIGN MUSEO、  
『近代工芸運動とデザイン史』藤田治彦 編(思文閣出版)、『ジャパニーズ・モダン—剣持勇とその世界』森 仁史 編(国書刊行会)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24161	プロダクトデザイン論	2単位 後期	1~4	講義	高田浩樹

### ■テーマ

プロダクトデザインの成り立ちや対象となるデザイン領域、具体化に必要な手法について学ぶ。

### ■授業の概要

ものづくりの近代化と共に誕生したプロダクトデザインの歴史をひもとき、その成り立ちや対象となるデザイン領域について、また、具体化に必要なアイデア発想法やデザインプロセス、デザイン方法論、造形（使用性・審美性）などについて解説する。

### ■到達目標

- ・プロダクトデザインの歴史や対象となるデザイン領域について理解する。
- ・具体化に必要なプロダクトデザイン手法について理解を深める。
- ・論理的に記述する能力を身につける。

### ■授業計画・方法

以下のテーマに沿って、プリント資料、スライド、参考作品等を用いて解説する。

1. 授業概要説明、プロダクトデザイン(=以下PDと記す)に対する考え方
2. PDの定義と領域
3. PDの歩みⅠ（様式の流れ、ヨーロッパにおける主なムーブメント①）
4. PDの歩みⅡ（ヨーロッパにおける主なムーブメント②）
5. PDの歩みⅢ（アメリカにおける主なムーブメント）
6. PDの歩みⅣ（日本における主なムーブメント）
7. PDの歩みⅤ（沖縄における主なムーブメント）
8. プロダクトデザイナーの仕事
9. PDの発想法および製品事例
10. PDの実際Ⅰ（事例をもとに製品開発背景～デザイン開発プロセス概要）
11. PDの実際Ⅱ（コンセプト立案法～アイデア展開/視覚化のための手法）
12. PDの実際Ⅲ（デザイン展開：プロトタイプ制作～製品化、様々な材料）
13. PDの実際Ⅳ（プレゼンテーション手法）
14. PDの可能性
15. 最終レポート提出および解説・まとめ

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・配布されたプリントを用いた自学自習を行ってください。
- ・授業内容の把握度をみるための小テストを行う。
- ・補助的な自習課題として、フィールドサーベイ、造形課題、小レポートを課す。
- ・参考図書を適宜紹介するので読むことを奨める。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 主に、授業中に実施する小レポートと、最終レポートによる。授業に取り組む態度も重視する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書：講義時にプリント資料を配布し、スライド・映像資料を提示する。
- 参考文献(資料)等：講義時に適宜紹介する。

24162	ビジュアルデザイン論	2単位 前期	1~4	講義	笹原浩造
-------	------------	--------	-----	----	------

■テーマ デザインについての客観的解説と表現の事例展開について

■授業の概要

現代のビジュアル（視覚）において、デザイン表現の核となるアートディレクションを軸としたデザイン論を展開する。前半（基礎）後半（応用）について、教員の活動実績や実務経験を活かした実践的な授業を含む。

■到達目標

- ・様々な視覚的な事象を比較することで単一的な見方、考え方に偏ることなく幅広い考察学習。
- ・現代の視覚デザインの状況を客観的に理解、説明することができる。
- ・生活の中で起きている具体的な事例をデザイン視点から論理的に理解することができる。
- ・他者の考察・表現の理解や、学生自らの意見を述べる文章表現力を身につける。

■授業計画・方法

1. 視覚Ⅰ（基礎） : デザイナーの役割（基礎知識）
2. : デザインの機能や機関（制作・環境）
3. : 社会共存（商品・開発）
4. : 効果（広告・表現）
5. : 宣伝（国内事例）
6. : 相違（海外事例）
7. プレゼンテーション : 発表・演習（演習Ⅰ）
8. 視覚Ⅱ（応用） : 媒体（メディア）
9. : 企画（イベント）
10. : 存在（アイデンティティ）
11. : 相違（イメージ）
12. : 対話（コミュニケーション）
13. : 訴求（アピール）
14. : 象徴（シンボル）
15. プレゼンテーション : 発表・演習（演習Ⅱ）

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・各テーマについて事前に情報収集。
- ・各自の発表を行うため主体的な授業参加が必要となる。
- ・考察的な手書きのスケッチ作業がある。

■成績評価の方法・基準

□方法 レポート・ワークショップ50%、平常点50%（総合的に評価する）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

- ・自らの考え方を論理的に記述、発表できる。
- ・提示されたテーマについて理解とディスカッションできる。
- ・他の学生の発表を聞くことで、客観的な把握・認識ができる。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特に無し

□テキスト 特に無し

□参考文献 スライド資料を活用する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24171	視覚伝達論A (印刷)	2単位 前期	1～4	演習	赤嶺 雅

※ 絵画専攻（平成28年度・平成29年度入学生）は「21434」を受講すること。

■テーマ 版形式を踏まえた印刷表現

■授業の概要

版形式を踏まえた印刷表現を主体に、技術史を学びながら原理、材料等にもふれ、版表現の領域と可能性について学習する。視覚媒体の一つとしての印刷は情報伝達の機能を持ち、コミュニケーションツールの役割を持っている。教員の実務経験を踏まえ、社会に取って必要不可欠である印刷の具体的技法を学習する。

■到達目標

- ・講義による歴史や印刷技法の解説を通して、視覚伝達について印刷表現を説明できる。
- ・現代社会における印刷形式を理解し、素材を考察し版形式を理論的に記述することができる。
- ・演習により版種における印刷形式の技法を習得し、実践的活用で他者とのコミュニケーションが円滑に行える。

■授業計画・方法

1. 視覚伝達の意義、領域、表現（コミュニケーションとは）
2. 印刷の歴史（文字の発生、漢字の形成、アルファベットについて）授業レポート提出
3. 印刷の4形式 凸版について（活版印刷、シール印刷、フレキソ印刷など）
4. 凸版 シール用樹脂凸版の版制作 工房にて 演習レポート提出
5. 凸版 凸版印刷 箔押し 工房にて
6. 印刷の4形式 凹版について（グラビア印刷、パット印刷など）
7. 凹版 間接法 版制作 工房にて
8. 凹版 間接法 腐食 工房にて
9. 凹版 間接法 印刷 工房にて 演習レポート提出
10. 印刷の4形式 平版について（オフセット印刷、バーコ印刷など）
11. 平版 簡易式リトグラフの技法 工房にて 演習レポート提出
12. 平版 オフセット印刷の技法 工房にて 演習レポート提出
13. 印刷の4形式 孔版について（スクリーン印刷、ブロッキー印刷、可食印刷、発砲印刷など）
14. 孔版 写真製版（直接法）製版 工房にて
15. 孔版 写真製版（直接法）印刷 工房にて 演習レポート提出 まとめ  
定期試験は実施しない 授業・演習レポートの提出

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・準備：1回目の授業で配布したプリントを予め読み込んでおくこと。
- ・復習：授業の中で行った講義及び演習はその日のうちに整理、復習を行う。
- ・展開：学んだ授業を実践的に作品へと展開し、展示会など具体的成果へと結びつける。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点(授業への参加度、制作への取組)30%、成果物(授業・演習レポート)70%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：配布するプリント

□テキスト：特になし

□参考文献：『印刷博物誌』凸版印刷株式会社編集（紀伊国屋書店）、『印刷の最新常識 しくみから最先端技術まで』（日本実業出版社）、DTP&印刷スーパーしくみ辞典（株式会社ポーンデジタル）等々

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24172	視覚伝達論B(映像)	2単位 後期	1-4	演習	仲本賢

■テーマ 映像の通史と概論の学習

■授業の概要

この講義は映像を写真、映画の発明に至る前史から現在進行中のデジタル画像までを簡単な通史として学習し、テレビ、劇場映画、インターネット画像等の映像媒体の特色と、ニュース、ドキュメント、娯楽、芸術、学術的使用に至るまでの様々な分野を毎回スライドやビデオを見ながら、画像の意味の読み方に注目して論じる映像の概論である。また、担当教員の映像作家としての実務経験を活かし、課題として学生自ら撮影した写真を編集しながら、映像によるリテラシー（読解記述力）を学ぶ。

■到達目標

- ・映像に興味を持ち、注意深く読み解く力を育成することを目的とする。
- ・映像の危険性について理解し、その倫理について理解するとともに、映像のリテラシー（読解力）を養う。
- ・重ねて映像機器、受像機、映画の見える仕組みについて理解する。
- ・そのため、レポートや課題を課す。

■授業計画・方法

1. オリエンテーション／目の構造／見るとは何か
2. 写真前史／映画前史
3. 映像の修辞学／映像の哲学的理解
4. 写真機、ビデオ、コンピュータ画像の構造
5. 草創期の映画 課題1：映画批評／800字程度／5週目〆きり
6. 映画におけるコンピュータグラフィックス
7. 草創期の写真／写真集制作の方法論
8. 現代の写真表現／ドキュメンタリーとファインアート
9. コンピュータグラフィックスの現在
10. ビデオゲームの歴史と現在 ミニ写真集制作／写真20枚以上使用／8週目〆きり
11. 実験映像／芸術としての映像表現
12. アニメーションの歴史と現在
13. 映像における身体への影響と放送倫理基準
14. 広告媒体としての映像 小論文／映像の概念規程／1,200字程度／14週目〆きり
15. 映像の概念規程／総論  
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・本科目は演習科目のため、授業中に映像作品などを観賞する他、それと同量の映像作品を観賞する事を課題として課し、レポート提出や、理論に基づく課題制作を行う。
- ・よって、下記に示すように、3点の大きな課題の他に、観賞した作品について感想や意見を求める事がある。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(制作への取組)30%、成果物(授業・演習レポート)70%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 特に指定しない
- テキスト 「映像倫理機構 規約」
- 参考文献 「映画技法のリテラシー (1) 映像の法則」 ルイス ジアネッティ (著)  
「イラク戦争と情報操作」 宝島社新書 川上 和久 (著)  
「テレビー「やらせ」と「情報操作」」 渡辺 武達 (著)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24181	環境造形論	2単位 前期	1~4	講義	宮里武志

### ■テーマ

都市、街路、建築などの公的な空間デザインを学ぶ。

### ■授業概要

外部空間を中心とした環境デザイン領域の講義を行う。私たちが日常的に接している生活空間（主に外部空間）は、様々な「物」や「事」によって構成されている。そうした都市、街路、建築などの人工環境、また森林、緑地などの自然環境を多面的な視点で考察することによって、担当教員の実務経験を活かして公的な空間デザインのあり方を習得する。

### ■到達目標

本授業は、以下3点を学習目標としている。

- ・自然及び都市環境の景観理論を学習することで環境造形（特にランドスケープデザイン）の理解を高める。
- ・都市計画、ランドスケープ、建築、ストリートファニチャーなどの分野におけるデザイン上の構成要素とその構造を学習することで環境に対する考察力を深める。
- ・上記分野のデザイン過程と手法を学習することで、造形力向上への反映を図る。

### ■授業計画・方法

下記のテーマに沿い、映像を使用しながら授業を進める。

01. オリエンテーション（環境造形論の学習領域及び授業構成）
02. 都市計画（各地事例、地区計画）
03. インフラストラクチャー
04. 環境構成要素（G. Cullen 「都市の景観」）
05. 街路を構成する表示（現地調査）
06. 都市デザインに関する環境造形技法
07. 狭小住居と都市環境
08. 建築に関する環境造形技法
09. 環境イメージ調査発表及び講評（レポート提出）
10. 都市デザインに関する環境造形技法
11. 環境造形と行政（景観行政の展開）
12. ランドスケープに関する環境造形技法
13. 風土と芸術（環境デザインの観点で）
14. パッシブデザイン（省資源・省エネルギー・自然エネルギー利用）
15. 環境造形総論 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

正規の授業時間以外の空き時間（予習、復習を含む）を利用して自学自習することによって本科目の単位とする。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 授業態度及び授業期間内に要求されるレポート、最終4週間で与えられる環境調査の課題を評価対象とする。  
（平常点：20%、レポート：30%、環境調査課題：50%）
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
- ・具体的には以下の点を評価基準として成績評価を行う。
  - ・質問など授業で積極的な参加をしたか。
  - ・レポート、環境調査の課題の方法と完成度を評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 配付するプリント
- 参考書・必読文献等 ・「都市のイメージ」ケビン・リンチ著（岩波書店）・「街並みの美学」芦原義信著（岩波書店）・「都市の景観」G. カレン著（鹿島出版会）・「景観論」G. エクボ著（鹿島出版）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24251	図学	2単位 前期	1~4	演習	座波 嘉克

■テーマ 製図板やT定規、コンパスなどの用具を使い製図を中心に演習する。

### ■授業の概要

人間は意志を他人に伝達する手段として言葉や文字、身振りや図形表示を行なう。その中で3次元の空間や立体を正確に伝達する場合には、図学が有効な方法である。製図はその図学を基礎にしているため、実技授業の関連上、図学は最小限の学習に留め、ここでは主として製図に力点を置く。

### ■到達目標

- ・構造や設計を他者に伝達するための図面（＝製図）を作成する能力を体得する。
- ・本演習の過程を通じて「正確で、きれいな製図」の技法・技術を修得する。
- ・上記に加え、「忍耐力」、「綿密な注意力」および、「はば広い思考力」なども修得する。

### ■授業計画・方法

- (1) オリエンテーション／ビデオ等で概要説明
- (2) 線の演習／A3ケント紙
- (3) 文字の演習／A3ケント紙
- (4) 三面図1／正投影図、第三角法／A3用紙
- (5) 製図1／プリントに従って図面を完成する／A4ケント紙
- (6) 製図2／プリントの図面を模写する／A4ケント紙
- (7) 三面図2／三面図1の復習と応用問題を行う／A3用紙
- (8) 製図3／三面図に寸法線や寸法等を入れる／A3用紙
- (9) 製図4／図形（立体スケッチ）から図面を完成する／A4ケント紙
- (10) 製図5／図形を任意の寸法で図面を完成する／A4ケント紙
- (11) 復習／これまでの課題の誤所を確認し、修正する
- (12) 製図6／プリントの図面を模写する／A4ケント紙
- (13) 直線と角／A4ケント紙
- (14) 多角形と黄金比／A4ケント紙
- (15) まとめ（演習作品ファイル提出）

### ■履修上の留意点

- ・基本的には毎週出題するので、本科目の性格上、正規の時間内では完成しない。その為に、別時間を確保しなければ授業について行けないので留意すること。
- ・正規の授業時間以外の空き時間（予習・復習を含む）を利用して自学自習することにより本科目の演習単位とする。
- ・受動的な学習態度でなく積極的な意見や質問等が必要。
- ・持参用具：製図道具一式。

### ■成績評価の方法・基準

#### □方法

平常点30%・演習課題70%で総合的に評価する。

#### □基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書・テキスト・参考文献・参考資料： 特にないが必要であれば授業で紹介する。
- 持参用具： 製図道具一式。

24252	C G 基礎	各 2 単位 後	2~4	演習	真喜志 康一 (非)
-------	--------	----------	-----	----	------------

### ■テーマ

『Adobe Illustrator と Photoshop のキホンを押さえる』

### ■授業の概要

担当教員の実務経験を活かした実践を基に、コンピューターを使用したクリエイティブ業務（DTP／プロダクトデザイン／Web デザイン／映像制作など）に欠かせない Adobe Illustrator と Adobe Photoshop の基礎技術を習得する。

### ■到達目標

- ・ 就職・進級活動に役立つポートフォリオ制作を通して、画像編集、レイアウト、プリントまで、一連の基本技術を学ぶ
- ・ 名刺制作を通し、前半で学んだ技術を応用することで、基本技術への理解と習熟度を深める
- ・ 講義中の解説を理解し、効率よくデータを作成する
- ・ それぞれの提出物が持つ役割をよく理解し、目的をきちんと果たせるよう制作する
- ・ 提出物の細部まで配慮し、完成度を高めつつ個性を表現する

### ■授業計画・方法

講義はプロジェクトにて操作方法を模範で示し、それに倣うかたちで演習を進める。解説は適宜行う

1. 講義の概要及びスケジュールの説明、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop の概要について
2. Adobe Photoshop の基本操作演習①
3. Adobe Photoshop の基本操作演習②
4. Adobe Illustrator の基本操作演習①
5. Adobe Illustrator の基本操作演習②
6. ポートフォリオ制作実習①
7. ポートフォリオ制作実習②
8. ポートフォリオ制作実習③
9. ポートフォリオ制作実習④
10. ポートフォリオ制作実習⑤
11. 名刺制作実習①
12. 名刺制作実習②
13. 名刺制作実習③
14. 名刺制作実習④
15. 解説・まとめ（定期試験は実施しない）

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ 基本操作演習を受講しないと、全ての演習に付いてこられなくなるため、できる限り休まないこと
- ・ 各時間の課題は、空き時間などを利用し必ず締切までに完成・提出すること
- ・ 講義時間外の質問はグループウェア上で受け付ける（初回の講義でその方法を指示する）

### ■成績評価の方法・基準

□方法 実習で作成したポートフォリオ資料、個人名刺を評価の対象とする。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（作品）等

□参考文献

- ・ Photoshop 10 年使える逆引き手帖（ああしたい。こうしたい。）／藤本 圭（著）
- ・ Illustrator 10 年使える逆引き手帖（ああしたい。こうしたい。）／高野 雅弘（著）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25131	陶磁史	2単位・前 (集中)	1～4	講義	徳留 大輔(非)

※平成28年度・平成29年度入学生のうち絵画専攻は「21436」、彫刻専攻は「22426」、芸術学専攻は「23443」を登録すること。

### ■テーマ

陶磁器の歴史的背景を学び、人類が歩んできた足跡を学習する

### ■授業概要

中国・韓国・日本の陶磁器は、その成り立ちや歴史的背景により多様な展開をみせる。本講義では、主として中国陶磁を通して、それらがアジア各地域へ影響を与えてきたことを解説。また、各国の風土、文化、技術、原料など様々な背景が、陶磁造形の変遷に関わっていることを解説する。

### ■到達目標

- ・中国陶磁を軸に韓国・日本の陶磁器の成り立ちや歴史的背景を考察する。
- ・陶磁史の教養を深めること。

### ■授業計画・方法

1. 中国、韓国陶磁史概論 中国古代
2. 中国中、近世
3. 中国近代
4. 韓国古代
5. 韓国中、近世 1日目のまとめ
6. 首里城出土の中国、及びアジア陶磁について 首里城出土品解説
7. スライドによる沖縄県埋蔵文化センター収蔵作品等の紹介
8. 琉球の交易史
9. 2日目のまとめ
10. 学外フィールドワーク(県立博物館、壺屋焼き物博物館など)
11. 日本、沖縄陶磁史について日本古代
12. 日本中、近世
13. 沖縄近世、近代
14. 3日目のまとめ
15. レポート記述の説明

- ・中国陶磁器を軸に韓国陶磁器、日本陶磁器など、パワーポイントを使用し講義する。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・履修においては、世界史、日本史、沖縄史などの歴史的な知識が必要である。
- ・学生は、常に自己評価を行い、歴史の予習や復習を行うこと。疑問が生じた際は質問を行うこと。
- ・学外フィールドワークを予定している。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 レポート60%・平常点40%で評価し、採点する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

#### □教科書

- ・講義に際して、適宜指示する。

#### □参考文献(作品)

- ・授業内に適宜コピーを配布する。さらに、必要に応じて、図書館などの書籍を紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25132	染織工芸史	2単位 前	1~4	講義	柳悦州(客)

※平成28年度・平成29年度入学生のうち、絵画専攻は「21437」、彫刻専攻は「22427」、芸術学専攻は「23444」を登録すること。

### ■テーマ

染織工芸の変遷と産業革命

### ■授業の概要

染織の基礎的な知識について講義を行いつつ、地域別染織の特徴について歴史的に考察する。毎回ミニレポートの提出を求め、自分で調べる習慣を身につけることも本講義のねらいである。

### ■到達目標

- ・染織の基礎的な知識について説明できるようになる。
- ・各地域の染織史について基礎的な説明ができるようになる。
- ・自分で調べて予習を行い授業にのぞむようになる。

### ■授業計画・方法

1. 工芸、染織とは
  2. ヨーロッパの産業革命と染織
  3. 日本の産業革命と染織工芸
  4. エジプト染織史
  5. ペルシャ染織史
  6. インド染織史
  7. 中国染織史
  8. ラオス染織史
  9. 東南アジア染織史
  10. 日本の染織史 近代
  11. 日本の染織史 現代
  12. 沖縄の染織史 近世
  13. 沖縄の染織史 近代
  14. 沖縄の染織史 現代
  15. グローバル化と染織工芸
- 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・次回講義のキーワードとなる内容を含むミニレポート (A4 レポート用紙1枚以内) が毎回課せられる。
- ・ミニレポートのキーワードをもとに講義を展開していく。
- ・ミニレポートの作成には、図書館の利用が必須である。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 ミニレポート (50%)、平常点 (50%)

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

染織工芸史について基礎的な説明ができるか、予習をして授業に参加できるか。ミニレポートの内容が、授業の進行と共に深化しているか、図書館の効果的利用が行えたかを観点とする。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 必要に応じて指示する。

□テキスト 必要に応じて指示する。

□参考文献 必要に応じて指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25151	生活造形論	2単位・後 (集中)	1～4	講義	日野明子(非)

※平成28年度・平成29年度入学生のうち 絵画専攻は「21438」、彫刻専攻は「22428」、芸術学専攻は「23445」を登録すること。

### ■テーマ

・本授業では、伝統工芸、造形芸術のみならず、地場産業、クラフト造形、プロダクトデザインなどを、個人作家・アーティスト、小規模工房、地場に根付く工場の実例を紹介する。それらを、素材・技術・意匠を考察しながら、継承しつつ改革を加え、新しい創造が生まれていく過程を検証する。流通に関わっている講師が実際に社会と関わっている事例を中心に、パワーポイントで、動画を交えての講義をする。基本的な美学・芸術学における基礎的および関連の諸概念の確認、日本における生活造形につながるスタイル（民藝やクラフトなど）の確認と、それらを体現したデザイナーやアーティストの事例、作品を通して紹介する。これらを昨今のライフスタイルも重ね合わせながら、狭義から広義の生活造形について概説していく。

### ■授業概要

・インターネットの発達で、遠隔の情報が得られやすくなったことで、実態を知らずして、物事を理解したかのような錯覚を起こす時代となった。そんな、今だからこそ、手仕事や地場の特性を知ることは、豊かな生活、そして生活を彩る造形を理解することとなる。この講義は、日本の多様な工芸の種類を認識するところから始まり、古来より生活に関わるデザインや工芸の歴史を＜流通＞の視点も交えて振り返る。後半は窯業、ガラス、金工、木竹漆、繊維などの自然素材のつくる現場を、個人作家から、工房、工場までの様々な視点で見ること、生活造形が社会のなかで、どのようなかたちで息づいているかを研究していく。

■到達目標・ものづくりが実際には、社会でどのような立場にあるかを、歴史を踏まえながら、広い視野で理解する

### ■授業計画・方法

1. 生活造形とは/生活造形と社会の関わり、生活を取り巻く造形物の魅力
2. 生活造形と社会の関わり 流通に関わる仕事のいろいろ
3. 個人がモノを入手するまでの流通について
4. 流通に乗せるための仕事、広告広報に関して
5. 地場産業の今
6. 生活造形の今の社会での捉えられ方
7. 生活造形と流通/デザインの歴史 ものづくりを描いた絵巻から歴史を知る
8. 民藝について、クラフトについて
9. 新しいジャンル “生活工芸”
10. デザインに関わった人たちについて
11. デザインと役所の関わり～産業工芸試験場の話～
12. ものづくりの現場について
13. スライド説明による工場の現場
14. レポート記述の説明
15. 工芸・デザインの仕事をしている社会人との討論会の聴講（学外・那覇市内予定） 定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・履修においては、ものづくりとくらしに興味があることを前提としている。
- ・学生は、専門用語、固有名詞、個人名など、講師が既知として話を続けるもので、知らないものは、臆せず質問すること。
- ・最終講義は、学外での講義を予定。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 レポート60%・平常点40%で評価し採点する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書：講義に際して、適宜指示する。
- 参考文献（作品）：授業内に適宜コピーを配布する。さらに、必要に応じて、図書館などの書籍を紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25152	装飾論	2単位 後期 (集中)	1~4	講義	鶴岡 真弓(非)

※平成28年度・平成29年度入学生のうち、絵画専攻は「21439」、彫刻専攻は「22429」、芸術学専攻は「23446」を登録すること。

### ■テーマ

世界の民族の伝統的「装飾文様」を学ぶ。文様に託されてきた「生命」「幸福」「再生」が、それぞれの文化的背景に照らして、いかに造形されているか。その文様の造形的構造と意味の両面から習得する。

### ■授業の概要

日本・アジア・欧米・その他世界の民族の伝統工芸から現代のデザインまでを彩る「装飾・文様」と、その誕生の背景にあった重要なシンボリズムと神話的要素について、体系的に学ぶ。

### ■到達目標

- ・服飾から建築まで人間が装飾として表現してきた「文様」「シンボル」とはなにか、その定義を学ぶ。
- ・それらに反映されて先史・古代から神話や象徴的意味を、多数の文様を取り上げ学んでいく。
- ・世界の代表的文様（ケルト渦巻文様、ユーラシアの動物文様、イスラーム美術のアラベスク文様など）を実際に描き、その構造・形態に託された造形的意味を習得する。
- ・数万年、数千年の人間の歴史のなかで、それらの文様が伝えてきた「生命の再生力」を理解し、現代の工芸・デザイン・美術に用いられている具体的作例を鑑賞し解釈する。

### ■授業計画・方法

1. イントロダクション：「装飾」とはなにか
2. 「文様」「模様」とはなにか
3. 衣食住のための装飾美
4. アール・ヌーヴォーとアール・デコの装飾思想
5. 日本の文様・世界の文様
6. シルクロード、イスラーム、中国、沖縄の文様
7. ユーラシア諸民族の文様
8. ケルトの文様（課題ではケルト文様を描き、造形と象徴的意味を発表する）
9. 動植物の神話とシンボリズム
10. 鉱物と黄金の神話とシンボリズム
11. 「生命論」的造形とはなにか
12. 服飾と装飾
13. 建築と装飾
14. 現代デザインにおける装飾の可能性
15. 授業のまとめ・要点解説および定期試験（60分程度）

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・沖縄や世界の民族美術にある印象的な装飾/文様の表された、自宅にある物などを活用し、授業中に紹介するコーナーをつくる。
- ・ケルト文化と沖縄の文化を比較しアイルランドのダンスや音楽などを上映する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点：60パーセント+課題レポート点：40パーセント

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

工芸・デザインの表現が用いてきた代表的な「文様」や「シンボル」の起源・歴史・現在について、①理解したか、②それらを用いて自己で表現できるかを、授業中に「課題」として出題する。その課題の提出や発表に対する取り組みかたを、重要な基準として評価する。そのほかの「平常点」も評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 『すぐわかるヨーロッパの装飾文様』 鶴岡真弓（東京美術）

□テキスト 特になし

□参考文献 『阿修羅のジュエリー』 鶴岡真弓（イーストプレス） 国宝・阿修羅像の衣と装身具にみられる東西装飾史

『装飾する魂』 鶴岡真弓（平凡社） 日本と西洋を横断してきた代表的装飾文様の数々を解説・図版多数

『ケルトの歴史』 鶴岡真弓+松村一男（河出書房新社） 東西比較ができる「古層のケルト文化・美術・神話」

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25171	漆芸論	2単位 後期 (集中)	1～4	講義	内田篤呉 (非)

※平成28年度・平成29年度入学生のうち、絵画専攻は「21440」、彫刻専攻は「22430」、芸術学専攻は「23447」を登録すること。

■**テーマ** 日本文化の基本的な知識や自然観を理解し、各自が社会の中で専門的能力を高める。

### ■授業の概要

本講座は、日本の長い歴史と風土の中で生まれた漆工芸について、縄文時代から現代に至る漆の歴史を美術・文化・美学の視点から体系的な芸術教育を行う。そして漆芸を通して日本の伝統文化の特色を学習し、伝統文化に対する理解と将来の造形芸術の活動を担う人材の育成を図る。特に現代美術における日本工芸の位置づけを考えるために、現代アートの現状を西洋美学の視点から学習する。日本の伝統文化は、「茶の湯」と「活け花」の「美的体験」授業を行う。茶の湯は、工芸品（茶道具）と茶室の調和や礼儀作法など「身近な生活と工芸」のあり方を学ぶ。活け花は、花と花器の調和や自然との交歓（花の生命）などの体験授業を通して、「感性」「創造性」を働かせ、芸術の「表現」と「鑑賞」について考察する。

### ■到達目標

- ・漆芸論の視点から日本の工芸と伝統文化一般の基本的な知識を体系的に理解できる。
- ・感性を働かせ、創造力、コミュニケーション能力、論理的思考力等の造形的な能力の基礎を身にすることができる。
- ・社会と調和し社会貢献を願う動機を育成できる。

### ■授業計画・方法

現代アートの動向を西洋美学の視点から学習し、現代アートにおける日本工芸の位置づけを検証する。また人類の誕生から縄文・弥生・古墳時代に至る工芸史を概観し、日本工芸の原点を学習する。

1. 現代日本美術の動向
2. 工芸概論（近代美学の視点から）
3. 講縄文時代（原始の造形）
4. 弥生時代（変わりゆく時代観）
5. 古墳時代（渡来文化）

奈良時代の正倉院宝物を通して、唐の文化を摂取し日本美術工芸の確立の諸相を学習する。平安時代の和様の形成、鎌倉時代の唐物の受容、室町時代の伝統文化を学ぶ。特に茶の湯は、京都武者小路千家官休庵から講師を招き体験授業を実施する。

6. 奈良時代（正倉院の漆工）
7. 平安時代（和様の誕生）
8. 茶の湯体験（官休庵茶の湯）
9. 鎌倉時代（武士の造形感覚と唐物の受容）
10. 室町時代（和漢混合）

桃山時代から近現代に至る工芸の諸相を概観し、21世紀の漆芸及び工芸のあり方や芸術が果たす役割について、授業と共に学生とのディスカッションを通して理解を深める。MOA美術館インストラクターを講師に招き、活け花の体験授業を行う。

11. 桃山時代（黄金とわびの美）
12. 江戸時代（江戸の蒔絵）
13. 活け花体験（自然との交歓）
14. 近現代の漆芸（明治の工芸概念）
15. 21世紀の工芸を展望する・まとめ・レポート提出

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

参考文献に掲げた『光琳蒔絵の研究』序章「基礎資料と研究課題」から予め日本漆工史の予備知識を学習すること。授業では、パワーポイントによる画像を通して、漆芸論を中心に市販図書には紹介されない工芸品を学習する。

### ■成績評価の方法・基準

□**方法** レポート（50%）、平常点（授業の参加状況30%）、コメントペーパー（20%）で総合的に評価する。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□**教科書**：教科書は特に指定しないが、漆芸論に関わるノート及び資料を作成して配布する。

□**参考文献**：学習成果を上げるために有効な文献は以下の通り。内田篤呉『光琳蒔絵の研究』中央公論美術出版、辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25172	絵画史概説（隔年開講）	2 単位 前期 集中	1～4	講義	沢山 遼（非）

■ **テーマ** 20 世紀の絵画（および芸術）がはらむ、多様な問題についての検討。

■ **授業の概要**

主として 20 世紀以降の絵画とその理論的な背景について、多くの視覚資料を提示し、複数の作品を比較検討しながら考察する。芸術研究・批評の出発点にあるのは、作品に孕まれた諸要素の密かな照応と類縁関係を見いだし、その内在的な構造を理論的に把握することである。授業では、具体的かつ感性的な作品経験に、客観的な裏付けと明証性を与えていくプロセスを研究・批評の根本的な立場と考え、論理的に芸術作品を分析し、その成果を言語的に運用するための技術と方法を学ぶ。

■ **到達目標**

・近現代の絵画作品についての基本的な理論構成や概念、歴史的背景を学び、美術をはじめとする視覚表象に対する読解能力を高める。

■ **授業計画・方法**

1. 導入
2. ピカソ、ブラック、マティス
3. ジャクソン・ポロック、バーネット・ニューマン
4. ジョセフ・アルバースとアニ・アルバース
5. ロイ・リクテンシュタイン
6. アンディ・ウォーホル
7. イサム・ノグチ、バックミンスター・フラー
8. ロバート・ラウシェンバーグ、ジャスパー・ジョーンズ、サイ・トオンブリー
9. マックス・エルンスト、マルセル・デュシャン、ジャコメッティ
10. 福沢一郎、香月泰男、浜田知明
11. 抽象表現主義
12. コンセプチュアル・アートとミニマリズム
13. アケイロポイエシスの近代
14. 網状都市論
15. まとめ。定期試験は実施しない。

■ **履修上の留意点**（授業以外の学習方法を含む）

・授業内容の理解のためにも、積極的な姿勢で臨むこと。

■ **成績評価の方法・基準**

- **方法** 平常点（授業への参加度、コメントペーパー提出状況等）による総合的判断。
- **基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■ **教科書・参考文献（資料）等**

- **参考文献** 個別のテーマに関しては適宜指示します。下記の文献は参考資料です。
  - ・Hal Foster, Rosalind Krauss, Yve-Alain Bois, Benjamin H. D. Buchloh. Art Since 1900: Modernism, Antimodernism, Postmodernism. London: Thames & Hudson, 2004.

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25174	現代芸術概論 A	2 単位 後期 集中	1~4	講義	河本 真理 (非)

■テーマ 西洋近現代美術の諸相

■授業の概要

西洋近現代美術（主に 20 世紀美術）の諸相を、年代順に追うのではなく、鍵となる概念（抽象、コラージュ、総合芸術作品、偶然、複製とアウラ...）を通して浮かび上がらせます。西洋近現代美術についてテーマ別に論じる授業です。

■到達目標

- ・西洋近現代美術の基礎的な概念と批評言語をおさえます。
- ・西洋近現代美術の歴史的文脈（コンテクスト）を理解します。
- ・それらを理解したうえで、自分自身の問題意識につなげて考察します。

■授業計画・方法

1. [イントロダクション] 近代以前の美学
2. [準備段階] 20 世紀美術の通史的概観
3. モダニズムと平面性
4. 抽象美術の誕生
5. 戦後抽象美術の諸問題
6. コラージュとは何か
7. パウル・クレーの「切断（分割）コラージュ」
8. 偶然の戦略
9. 言語としての芸術
10. イメージと文字
11. 「総合芸術作品」の理念
12. クルト・シュヴィッターズとメルツバウ
13. アッサンブラージュと空間の拡張
14. プリミティブ：西洋美術の「他者」
15. 複製とアウラ

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』の該当する部分や、高階秀爾『近代絵画史（上・下）』（特に下巻）をあらかじめ読んで、通史の大まかな流れを理解しておく、と、テーマ別の講義を一層理解しやすくなります。講義の後、受講者が各自興味を持ったテーマについて、指示された参考文献等を読んで調べることが望ましいです。

■成績評価の方法・基準

□方法 レポート（80%）、平常点（20%）。授業中に扱った内容から興味のあるテーマを選び、必ず具体的な作品分析を踏まえたレポートを提出すること。註・参考文献を明記し、インターネットのサイトからのダウンロードは不可。図版・キャプションも付けること。平常点は授業への参加状況で評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

- ・西洋近現代美術の基礎的な概念と批評言語を理解しているか。
- ・西洋近現代美術の歴史的文脈を理解しているか。
- ・それらを自分自身の問題意識につなげて考察しているか。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 『葛藤する形態—第一次世界大戦と美術』河本真理、人文書院

□テキスト なし

□参考文献 『西洋美術の歴史』中央公論新社

『カラー版 西洋美術史』高階秀爾監修、美術出版社

『近代絵画史（上・下）』高階秀爾、中公新書

『装飾／芸術—19-20 世紀のフランスにおける「芸術」の位相』天野知香、ブリュッケ

『切断の時代—20 世紀におけるコラージュの美学と歴史』河本真理、ブリュッケ

詳しい参考文献は、授業中に適宜指示します。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25175	現代芸術概論B	2単位 前期 集中	1～4	講義	倉石 信乃 (非)

■テーマ 1960-70年代の視覚芸術-中平卓馬の実作と批評から

### ■授業の概要

中平卓馬(1938-2015)は、1960年代後半から十数年にわたり、時代の先鋭的な写真家として活動する傍ら、多くの問題提起的な論考を執筆した映像批評家として知られています。批評家としての活動は1977年に病となり、記憶に機能障害が残った後には途絶しましたが、それまでに残された中平のテキストの中には、今日の写真や映画、美術を考察するための基礎となる問いかけが多く含まれています。また、彼が批評を執筆した1960年代後半からの10年ほどの時期は、日本だけでなく世界の写真、映画、美術にとっての大きな転換期でもあり、それらは社会と政治のラディカルな運動の高揚とも連動するものでした。中平の写真と批評の実践は、そうした運動とも深く関わる時代性と批判精神を伝えています。

この授業では、中平卓馬自身の写真表現の展開をたどるとともに、彼の批評の中で取り上げられた視覚文化を中心とする事象を併せて考察の対象とします。さらには、1970年の安保改定と大阪万博、1972年の沖縄の施政権の「返還」など、時代を画した出来事の意味を、中平の写真と批評を手がかりに探ります。

### ■到達目標

- ・中平卓馬とその作品について、基礎的な理解を獲得すること。
- ・1960-70年代の社会や政治と、写真・映像メディアとの関わりについて、基礎的な理解を獲得すること。
- ・上記の時代における写真・映像・美術など視覚文化の展開について、基礎的な理解を獲得すること。

### ■授業計画・方法

1. イントロダクション
2. 写真家としての中平卓馬 1
3. 写真家としての中平卓馬 2
4. 写真家としての中平卓馬 3
5. 写真史としての中平卓馬 4
6. 写真史との関連から 1
7. 写真史との関連から 2
8. 都市・建築との関連から 1
9. 都市・建築との関連から 2
10. 映画との関連から 1
11. 映画との関連から 2
12. 映画との関連から 3
13. 美術との関連から 1
14. 美術との関連から 2
13. 自然・エコロジーとの関連から 1
14. 自然・エコロジーとの関連から 2
15. 定期試験および解説・まとめ。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・指定し、配布するテキストを授業の前後で読んでおくこと。
- ・インターネットなどを通じて授業で扱った事項を復習すること。
- ・毎回の授業では時折発言を求めるので、積極的に授業に参加すること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 試験 70%、平常点(授業への参加度) 30%として、合計 60%以上の評点を得た者を合格とする。試験には細かな知識を問う問題ではなく、前述した学習目標の到達度を図る基本問題を提出する予定。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書・テキスト 特になし。

□参考文献 中平卓馬『なぜ、植物図鑑か-中平卓馬映像論集』(ちくま学芸文庫、2007年)。篠山紀信・中平卓馬『決闘写真論』(朝日新聞社、1977年)を主要な参考文献として使用する。少なくとも前者は現在でも市販されているため、入手しておくことが望ましい。その他、必要に応じて文献を配布する予定。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24182 25177	色彩論	2 単位 集中 (前期)	1~4	講義	鈴木恒男 (非)

※平成 29 年度入学生以前は「24182」、平成 30 年度入学生以降は「25177」を登録すること。

■テーマ 色彩とは何か

■授業の概要

絵画やデザインでの創作活動で何気なく使用している色彩（色）に関しては知っているようで、色彩とは何かと問われると答えることは難しい。この色彩に関する、科学的、文化的な側面を理解することで、今までとは違った色彩に関する理解を深めることを目的とする。

■到達目標

- ・色彩を利用した創作活動に新たな側面を見つけ出すことを学習の目的とする。
- ・色彩を見ることで、温かみや、重さを感じ取れることを理解し、新たな創作活動への糧とする。
- ・色彩は知覚現象であるので、見ることの意味も考えてもらう。

■授業計画・方法

1. 色とは何ですか：色彩現象を理解する枠組みを考える。
2. 眼を開ければ、見えますか：色彩は見る対象であるので、見るとは何かを考える。
3. 形の無い物は見えますか：色と形の関係を考える。
4. 空の色は何故青いのですか：光の物理的特性と色彩の関係を考える。
5. 貴方が見ている赤と、隣の人が見ている赤は同じですか：色覚の多様性とバリアフリーを考える。
6. 2種類以上の絵の具を混ぜると何故新しい色が出るのですか：色材と混色を考える。
7. 色の全体像はどのような形ですか：色を表す方法を考える。
8. RGB や CMY とは何ですか：画像での色の表示方法を考える。
9. 色との言葉には性的な意味がありますが、何故ですか：色と言語の関係を考える。
10. 五色沼等、五色何とかの言葉があるが、これは何故ですか：色彩の文化を考える。
11. ミカンが入ったネットは赤い色をしていますか、何故ですか：色を見ることを考える。
12. 空の色はそんなに綺麗ですか：色と記憶を考える。
13. 暖かい色、冷たい色といいますが、これは何故ですか：色彩の心理的効果を考える。
14. 貴方は音を聞くと色が見えますか：共感覚を考える。
15. 青色LEDで自殺防止、これは本当ですか：色彩とイメージの関係を考える。(まとめ、最終レポート提出)  
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・色彩に興味があり、広い観点から色彩を考えてみたい人が履修してください。
- ・日常的に貴方が見ている身近な色について観察し、考えてください。
- ・受動的な学習態度でなく積極的な意見や質問等が必要。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点30%・レポート70%で総合的に評価する。  
(毎日授業の最後にその日の授業の内容と、考えたことをまとめ、それで成績を評価する。)
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- 教科書 特になし。
- テキスト 特になし。
- 参考文献 教科書・参考書は使用しないが、要望があればそれに関する文献等は授業で紹介する

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24184	人間工学(隔年開講)	2単位 集中(後期)	1~4	講義	宮永美知代(非)

## ■テーマ 温故知新の人間工学

### ■授業の概要

「人間工学」は、1950年代から「人」とさまざまな「もの」との関係を合理化、有機化し、人が安全、快適に使用できるように、デザインや設計に活かすための分野として始まった。本分野への領域的アプローチは幅広いが、ここでは「人間」のかたちの由来（進化）と人体機能の学びを通して、私たちを取り巻く「ひと-もの」関係を考える。さらに、私たちが使い慣れてきている「もの」の中にも、伝統の中で鍛えられた美しさがあり、そのような道具からも学ぶ。

### ■到達目標

- ・人体の構造と運動、動作特性を理解する。
- ・人を取り巻く環境を理解する。
- ・私たちを取り巻く環境、伝統文化の中にある優れた機能とその美を見いだす力をつける。

### ■授業計画・方法

1. 人間工学とは？
2. 人間因子（生物としての人間）
3. 人間因子（様々な差異とバリエーション）
4. 運動器系（骨、筋）
5. 循環器系・神経系
6. 消化器系
7. 人体計測と椅子
8. 足と器物
9. 被服、靴
10. 子供の動作特性と配慮
11. 高齢者の動作特性と配慮
12. 宇宙での人間 感覚・知覚
13. 手と器物
14. 手と器物
15. 定期試験および解説・まとめ

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ノートや配布されたプリントを用いた自学自習を行ってください。
- ・多様な図を、色チョークを使って板書するので、色鉛筆（5色程度）を用意してください。
- ・参考図書紹介は随時行うので読むことを奨める。

### ■成績評価の方法・基準

【方法】主に、授業中に実施する小レポートと、定期試験による。授業に取り組む態度も重視する。

【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 特に指定しない。授業中にプリントを配布する。
- テキスト 特に指定しない。授業中にプリントを配布する。
- 参考文献 宮永美知代 『生体機能論』 南山堂

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25162	図法及び製図	4単位 通年	1~4	演習	福田 英昭(非)

■テーマ 図形一般を対象とした科学である図法の基礎と、ものを生産するための伝達手段であるCAD製図を学ぶ。

#### ■授業の概要

美術・デザイン系の製作に活用できる図法の基礎とCAD製図を学ぶ、製図の基本技法（平面図・立面図・側面図・断面図）から、CAD製図に移行して学習する。応用として家具や陶器のような小物、展示用の台等の製作に必要な製図技法を実践して、製図のあり方を習得する。

#### ■到達目標

- ・製図用具の種類とその正しい用法について説明することができ、製図用具を正しく使用することができる。
- ・平面図学について、直線・角・多角形・円・円弧・円錐曲線・うずまき線・輪転線等について説明することができる。
- ・立体図学（多面投影）について、正投影・副投影・回転法・切断・相貫・展開図・陰影等について説明することができる。
- ・立体図学（単面投影）について、透視投影・斜投影・軸測投影等について説明することができる。
- ・製図総則を理解し、製図に用いる線・文字・記号・投影法等に則って正しい図面を描くことができる。
- ・CAD製図の方法を学習することで製図に対する考察力を深める、また提案から製図を経て製作に移る工程を計画する知識を身につける。
- ・上記の過程を踏まえて、各専門分野での展開を想定して応用できるCAD製図を実践してみる。

#### ■授業計画・方法

[前学期]		[後学期]	
1	オリエンテーション (図的表現と図学・製図の歴史)	1	オリエンテーション (図法及び製図の学習領域及び授業構成)
2	製図用具の種類と製図用具の正しい使用法	2	図法の基礎知識と製図の種類・寸法の書き方、図面の見方
3	文字・記号、線・寸法について	3	CAD製図の基礎知識と応用の説明
4	平面図学 (直線・角・多角形)	4	CAD製図 (平面図)
5	平面図学 (円・円弧)	5	CAD製図 (立面図)
6	平面図学 (円錐曲線の楕円・放物線・双曲線)	6	CAD製図 (側面図・断面図)
7	平面図学 (うずまき線、輪転線)	7	応用としての想定課題 (レポート提出)
8	立体図学 (投影法について、正投影)	8	実践的な活用への計画立案
9	立体図学 (立体の副投影、高次副投影)	9	CADへの移行する前のスケッチ・製図
10	立体図学 (回転法、多面体・曲面)	10	応用としてのCAD製図 1 (家具図)
11	立体図学 (切断・相貫、展開図、陰影・輝点)	11	応用としてのCAD製図 2 (側面図)
12	立体図学 (透視投影について、直接法、消点法)	12	応用としてのCAD製図 3 (断面図)
13	立体図学 (斜投影について)	13	製作を前提とした計画案とプレゼン製作
14	立体図学 (軸測投影、等角投影、第三角法)	14	見直し・修正
15	製図総則、身のまわりの図面と工業製品の図面	15	演習発表及び講評

なお、定期試験は実施しない

#### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・毎回、作図を行うので、製図用具を持参すること。また、各回の授業で関連する「練習課題プリント」を配付するので、作図して次回に提出すること。
- ・正規の授業時間以外の空き時間 (予習、復習を含む) を利用して自学自習することによって本科目の単位とする。

## ■成績評価の方法・基準

### □方法

- ・授業で作図する各種図面・CAD製図の課題（70%）、練習課題プリント（30%）で総合的に判断する。
- ・正規の授業時間以外の空き時間（予習、復習を含む）を利用して自学自習することによって本科目の単位とする。

### □基準・到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

具体的には以下の点を評価基準として成績評価を行う。

- ・質問など授業で積極的な参加をしたか。
- ・レポート、演習の課題の方法と完成度を評価する。

## ■教科書・参考文献（資料）等

### □教科書

- ・堤 浪夫『美術系図学・製図』鳳山社、1991、¥3,150-
- ・「CADを使って機械や木工や製品の図面をかきたい人のためのJw\_cad製図入門」（エクснаレッジムック）2015年 ¥3,024 配付するプリント

### □テキスト 特になし

### □参考文献

- ・大西 清『JISにもとづく標準製図法』理工学社、2000、¥1,764-
- ・川北 和明ら『総合図学・製図』朝倉書店、1999、¥3,675-
- ・桑畑 平治『わかりやすいテクニカル・イラストレーション』オーム社、1997、¥2,100-
- ・「初めての建築製図」＜建築のテキスト＞編集委員会（学芸出版社）
- ・「Jw\_cad徹底解説(操作解説編)」(エクснаレッジ)  
等々

24163	図法及び製図 (A)	2 単位 前期・後期	1~4	演習	福田 英昭(非)
-------	------------	---------------	-----	----	----------

### ■テーマ

図形一般を対象とした科学である図学と、ものを生産するための伝達手段である製図を学習する。

### ■授業の概要

美術・デザイン系の人々に関わり深い平面図学と透視図法にウエイトを置き、製図の基本技法（線・文字・記号の正しい描き方、製図用具の適切な使い方など）から、平面図形の製図を通して学習する。また、立体図学を概説しテクニカル・イラストレーション（軸測図・透視）の実技を習得する。さらに、JIS 製図通則を理解し、製図の実技を行う。図学の目的が単なる実用上の問題だけでなく、知的に物を見る目、正しく図形を描く手、それに形に対する頭と感性の向上にもあるので、3次元での複面投影や製図法、製図用具とその用法を基礎から学んでいく。

### ■到達目標

- ・製図用具の種類とその正しい用法について説明することができ、製図用具を正しく使用することができる。
- ・平面図学について、直線・角・多角形・円・円弧・円錐曲線・うずまき線・輪転線等について説明することができる。
- ・立体図学（多面投影）について、正投影・副投影・回転法・切断・相貫・展開図・陰影等について説明することができる。
- ・立体図学（単面投影）について、透視投影・斜投影・軸測投影等について説明することができる。
- ・製図総則を理解し、製図に用いる線・文字・記号・投影法等に則って正しい図面を描くことができる。

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション（図的表現と図学・製図の歴史）
2. 製図用具の種類と製図用具の正しい使用法
3. 文字・記号、線・寸法について
4. 平面図学（直線・角・多角形）
5. 平面図学（円・円弧）
6. 平面図学（円錐曲線の楕円・放物線・双曲線）
7. 平面図学（うずまき線、輪転線）
8. 立体図学（投影法について、正投影）
9. 立体図学（立体の副投影、高次副投影）
10. 立体図学（回転法、多面体・曲面）
11. 立体図学（切断・相貫、展開図、陰影・輝点）
12. 立体図学（透視投影について、直接法、消点法）
13. 立体図学（斜投影について）
14. 立体図学（軸測投影、等角投影、第三角法）
15. 製図総則、身のまわりの図面と工業製品の図面

なお、定期試験は実施しない

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・毎回、作図を行うので、製図用具を持参すること。また、各回の授業に関連する「練習課題プリント」を配付するので、作図して次回に提出すること。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 授業で作図する各種図面（70%）、練習課題プリント（30%）で総合的に判断する。

□基準 上記の到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

到達目標について、各種図法を説明し、製図用具を正しく使用し、正確な図面を描くことができるかを評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

#### □教科書

堤 浪夫『美術系図学・製図』鳳山社、1991、¥3,150-

#### □参考文献

大西 清『JISにもとづく標準製図法』理工学社、2000、¥1,764-

川北 和明ら『総合図学・製図』朝倉書店、1999、¥3,675-

桑畑 平治『わかりやすいテクニカル・イラストレーション』オーム社、1997、¥2,100-

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
24164	図法及び製図 (B)	2単位 後期	1~4	演習	福田 英昭(非)

■テーマ 図法の基礎とCAD製図を学ぶ。

■授業の概要

美術、デザイン、工芸分野の製作に活用できる図法の基礎とCAD製図を学ぶ。製図の基本技法（平面図・立面図・側面図・断面図）から、CAD製図に移行して学習する。応用として家具や陶器のような小物、展示用の台等の製作に必要な製図技法を実践して、製図のあり方を習得する。

■到達目標

- ・図法の基礎の知識を高め、製図の概念と方法の理解を深める。
- ・CAD製図の方法を学習することで製図に対する考察力を深める。
- ・提案から製図を経て製作に移る工程を計画する知識を身につける。
- ・上記の過程を踏まえて、各専門分野での展開を想定して応用できるCAD製図を実践できる。

■授業計画・方法

下記のテーマに沿い、映像を使用しながら授業を進める。

1. オリエンテーション (図法及び製図の学習領域及び授業構成)
2. 図法の基礎知識と製図の種類・寸法の書き方、図面の見方
3. CAD製図の基礎知識と応用の説明
4. CAD製図 (平面図)
5. CAD製図 (立面図)
6. CAD製図 (側面図・断面図)
7. 応用としての想定課題 (レポート提出)
8. 実践的な活用への計画立案
9. CADへの移行する前のスケッチ・製図
10. 応用としてのCAD製図 1 (家具図)
11. 応用としてのCAD製図 2 (側面図)
12. 応用としてのCAD製図 3 (断面図)
13. 製作を前提とした計画案とプレゼン製作
14. 見直し・修正
15. 演習発表及び講評

定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

正規の授業時間以外の空き時間を利用して予習、復習を含む自学自習をすることによって本科目の単位とする。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 (授業態度) : 20%、レポート : 30%、演習課題 : 50%

最終4週間で与えられるCAD製図の課題を評価対象とする。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。課題の完成度は評価する。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 『CAD を使って機械や木工や製品の図面をかきたい人のための Jw\_cad 製図入門』 (エクスナレッジムック) 2015年 ¥3,024

□テキスト 配付するプリント

□参考書・必読文献等

- ・「初めての建築製図」〈建築のテキスト〉編集委員会 (学芸出版社)
- ・「Jw\_cad 徹底解説 (操作解説編)」 (エクスナレッジ)